

マンスリーレポート10月号

令和2年度 COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの 影響分析調査業務（アフリカ地域）

株式会社野村総合研究所

コンサルティング事業本部 ICTメディア・サービスコンサルティング部

2020年10月29日



はじめに ～本レポートをご覧いただくにあたって～

■ 本調査のねらい

COVID-19の影響を受けているアフリカ諸国がFVC再構築を目指す中、我が国の技術・ノウハウを活用し現地で産業人材を育成することは現地国にとっても我が国の海外展開にとっても重要であると想定されます。この産業人材育成に資する施策を検討するため、現地でCOVIDによるFVCへの影響や見通し、FVC再構築に向けた動向を調査することを目的とします。

■ 調査対象国

南アフリカ、ケニア、ナイジェリアの3か国

■ 本マンスリーレポートの位置づけ

本レポートは、対象3か国における調査結果の速報をGFVC 推進官民協議会メンバーの皆様方にお届けすることを目的としています。情報は調査状況を鑑みて毎月アップデートすることを予定しておりますが、各国で入手できる情報量が異なるため、ご提供できる情報の粒度が異なる可能性があることにご留意ください。

■ 連絡先

ご不明点などございましたら下記までご連絡頂けると幸いです。

NRIインド 上木原広平 Kohei.Kamikihara@nri.com

NRIプロジェクトメンバーメーリングリスト maff-africa@nri.co.jp

(CCにメーリングリストを入れてご連絡をお願い致します)

10月のマンスリーレポートにおけるご報告内容

今月は机上調査結果、11月にインタビュー調査結果をご報告し、以降は追加情報に応じて更新予定

○：机上調査結果 ◎インタビュー調査結果 ●示唆・整理結果

マンスリーレポート報告内容		10月	11月	12月	1月	2月
Task 1. COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	○	インタビュー情報あれば更新	記事ベースで新規情報あれば更新		大きな変化がある場合に限り更新
	主要な農林水産物の消費量(コメ、トウモロコシ、豆類、肉類、魚類等)	○				
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量(主要な輸出先国、輸入元国別)	○				
	Eコマースによる取扱量	○				
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	○				
	消費者マインド(今後の外食、健康への意識等)	○				
	Task1まとめ	●	●	●	●	
Task 2. COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	FVCに対するCOVID-19の影響	○	◎	記事・追加インタビューで新規情報あれば更新		
	消費者の行動様式に対するCOVID-19の影響	○	◎			
	FVC全体が直面する課題	○	◎			
	Task2まとめ	●	●	●	●	
Task 3. 現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き(出入国制限、外出制限、営業制限、それらと同時に課す感染回避策)	○	◎	記事・追加インタビューで新規情報あれば更新		
	政府の支援策(生産者、食品製造業、物流業者、小売・外食など各分野)	○	◎			
	民間企業の事業動向(日本企業含む)	○	◎			
	第3国(企業)・国際組織の動向	○	◎			
	Task3まとめ	●	●	●	●	
Task4. FVC再構築に向けたTV会議	TV会議結果			●		
Task 5. 分析および日系企業の機会創出に向けた示唆の抽出	Task1~4を踏まえた、日系企業の機会創出に向けた示唆					●

※インタビュー調査結果については、インタビューーとの調整次第で報告月が一部ずれ込む可能性有

コンテンツ&サマリ

1. 南アフリカ
2. ケニア
3. ナイジェリア



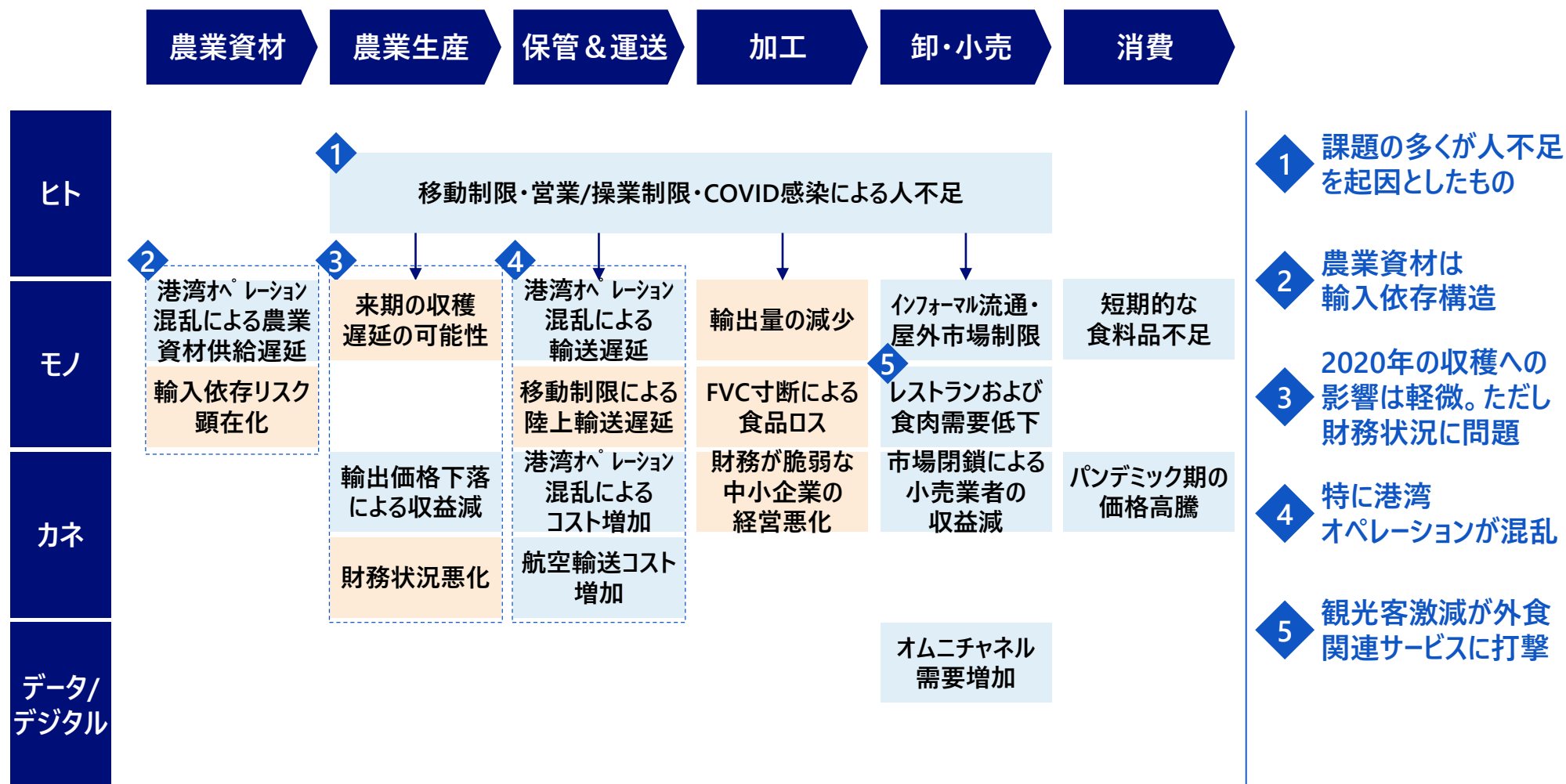
南アフリカの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り

報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増）
	主要な農林水産物の消費量	レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 輸入元国における輸出制限により減少見込 輸出 短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性
	Eコマースによる取扱量	包装食品におけるEコマースの利用割合は依然低いものの、COVIDにより0.3%から1.9%に増加
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	COVIDを受け自宅消費需要が高まり、外食サービスに占める利用割合は宅配・テイクアウト合わせて前年度から12.3%増加
	消費者マインド	高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。COVIDを経て全所得層で低価格食品・オンライン注文需要が増加
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	農業資材は輸入依存構造のため、港湾オペレーションの混乱により資材調達に遅延が発生
	農業生産	2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDによる生産量への影響は限定的。 ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生
	保管・輸送	主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生
	加工	サプライチェーンの混乱や輸出先の輸入規制により中小加工業者を中心に影響を受ける可能性
	卸・小売	移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化
	消費	消費者は食料品不足と価格高騰に直面
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済
	政府の支援策	農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施
	民間企業の事業動向	オンラインプラットフォーム利用増加/ 工場操業停止/ 安全措置実施/ オムニチャネル強化 など
	第3国(企業)・国際組織の動向	FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援



FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



課題への対応事例は下記の通り

課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

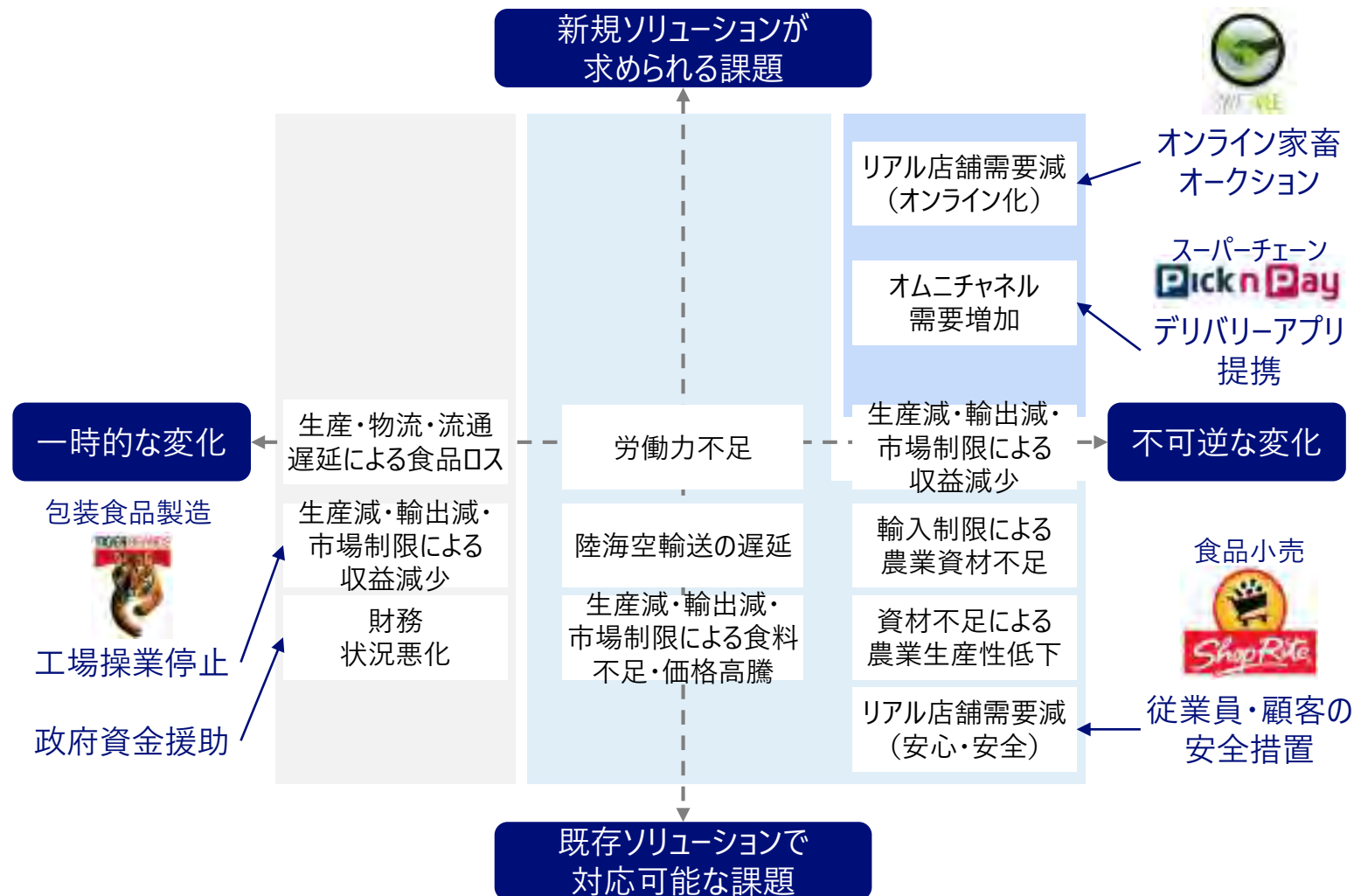
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス（耐性）	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応





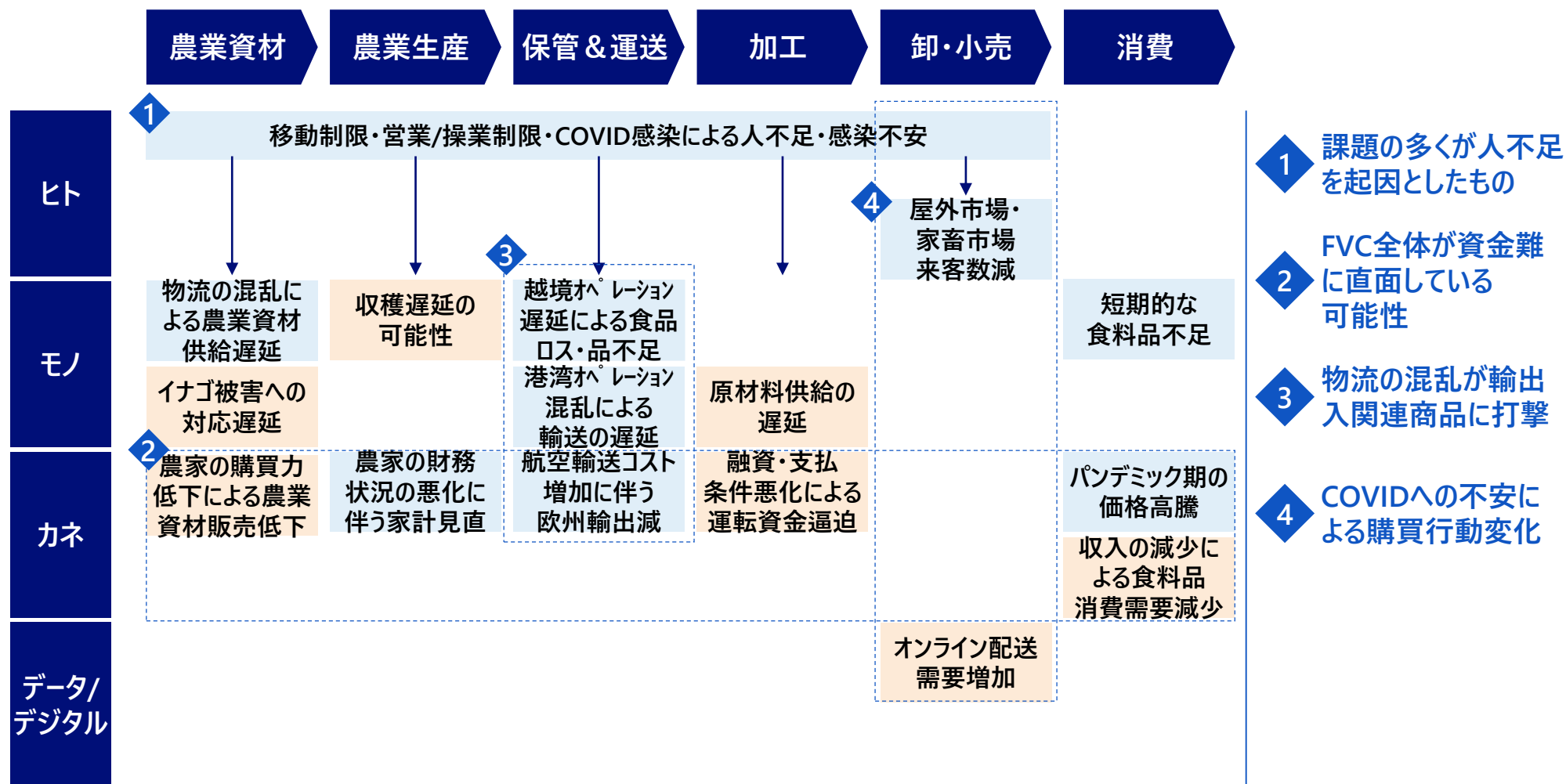
ケニアの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り

報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少
	主要な農林水産物の消費量	COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性 輸出 航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向け輸出量への影響は軽微
	Eコマースによる取扱量	レストランなどB2B向けが減少する一方、小売店の営業時間短縮などの影響でB2C向けが増加
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	消費者マインド	必需品を中心に富裕層・小売店による買占めが発生。全体的に、買い物頻度を減らし一回当たりの購入量を増やす買い溜めが増加
	農業資材	物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も
	農業生産	財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性
	保管・輸送	欧州向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生
	加工	融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	卸・小売	外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生
	消費	物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面
	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済
	政府の支援策	農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施
	民間企業の事業動向	輸出業者による国内向け販売拡大/提携による消費者へのオンライン配送/ 零細小売支援など
	第3国(企業)・国際組織の動向	世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援



FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

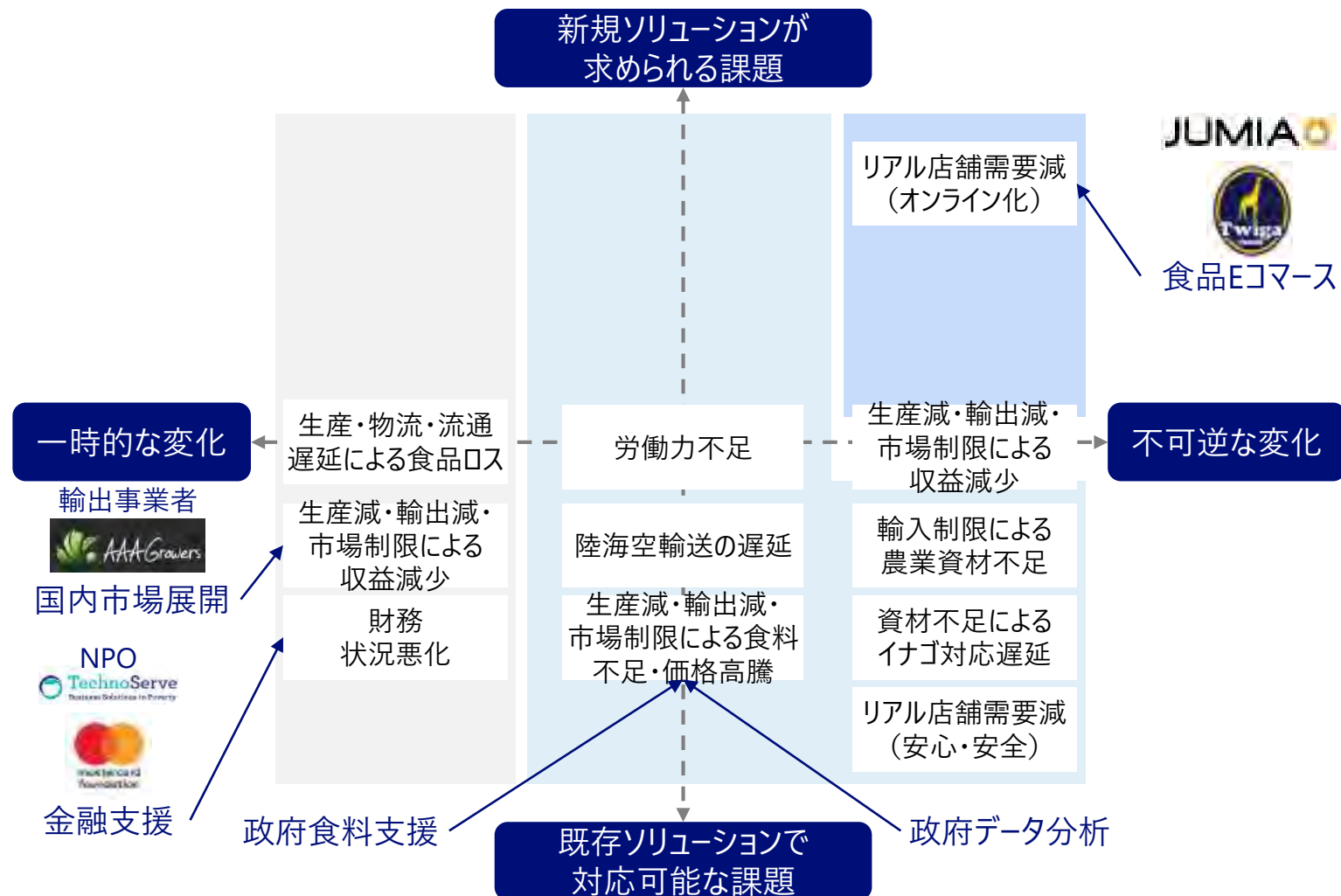
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）ナイジェリア 2020年10月

ナイジェリアの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り

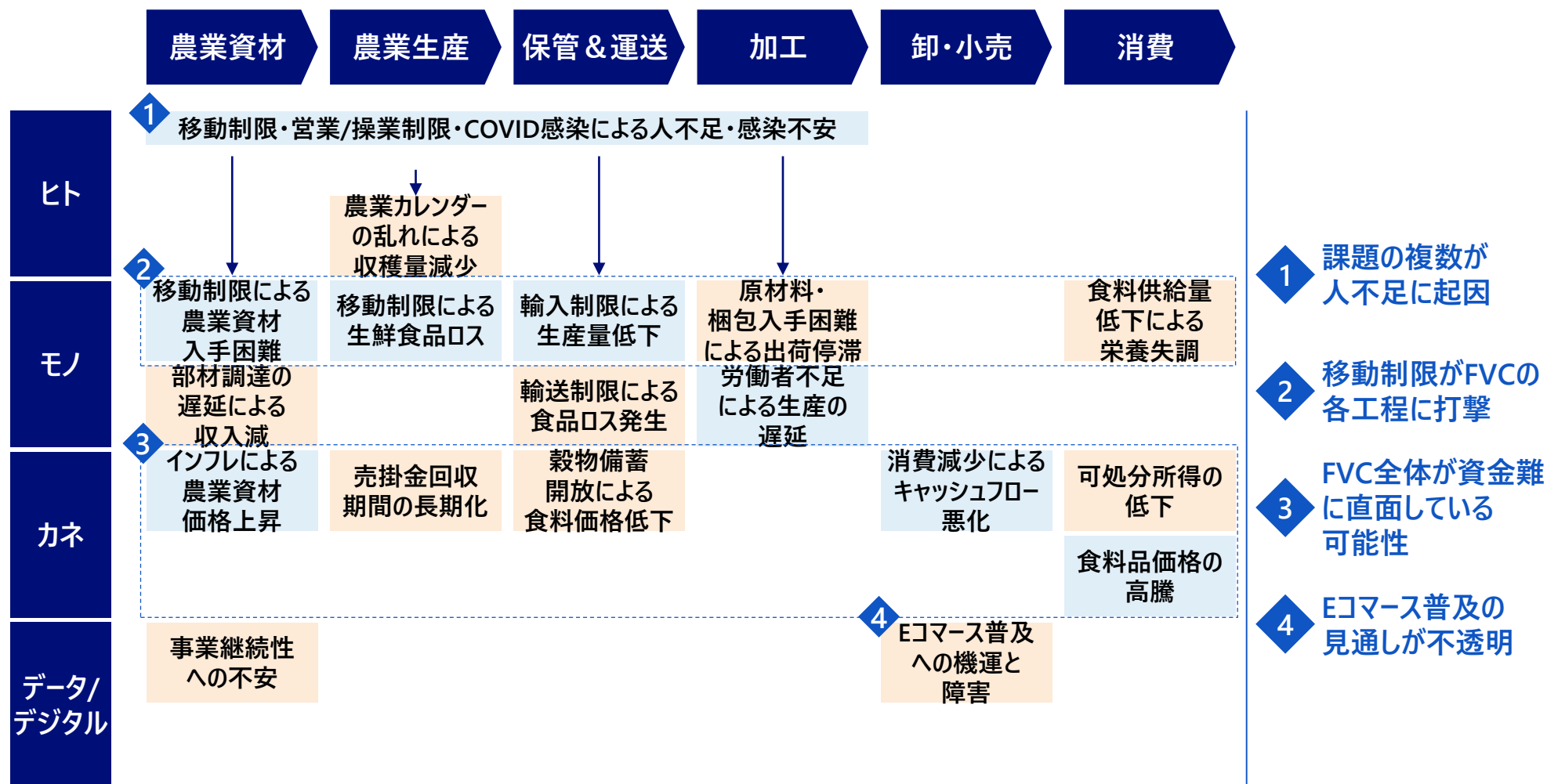


報告内容	目次	サマリ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新計画を発表
	主要な農林水産物の消費量	CPIが約8%上昇するなど食品価格が高騰
	主要な農産物・食品の輸出货量・輸入量	輸入 国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性 輸出 国境封鎖の影響で減少する可能性
	Eコマースによる取扱量	Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	消費者マインド	レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目
	農業資材	農業資材の輸入価格が増加し、移動制限による供給遅延も相まって入手困難
	農業生産	労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性
	保管・輸送	輸入制限により農業生産が減少。また各地で食品ロスが発生している可能性
	加工	労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	卸・小売	リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性
	消費	価格高騰が発生。また供給量の減少も相まって食料へのアクセスが制限されている可能性
	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済
	政府の支援策	農家向け 資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施 FVC全体向け 金融支援、雇用創出に注力
	民間企業の事業動向	ドローンによる消毒剤散布/ バイクによる配送サービス / 輸出向け割引 / トマト工場建設/ 食品寄付 など
	第3国(企業)・国際組織の動向	生産者向けトレーニング/ 政府プロジェクト支援 など



FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

課題への対応事例は下記の通り

課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

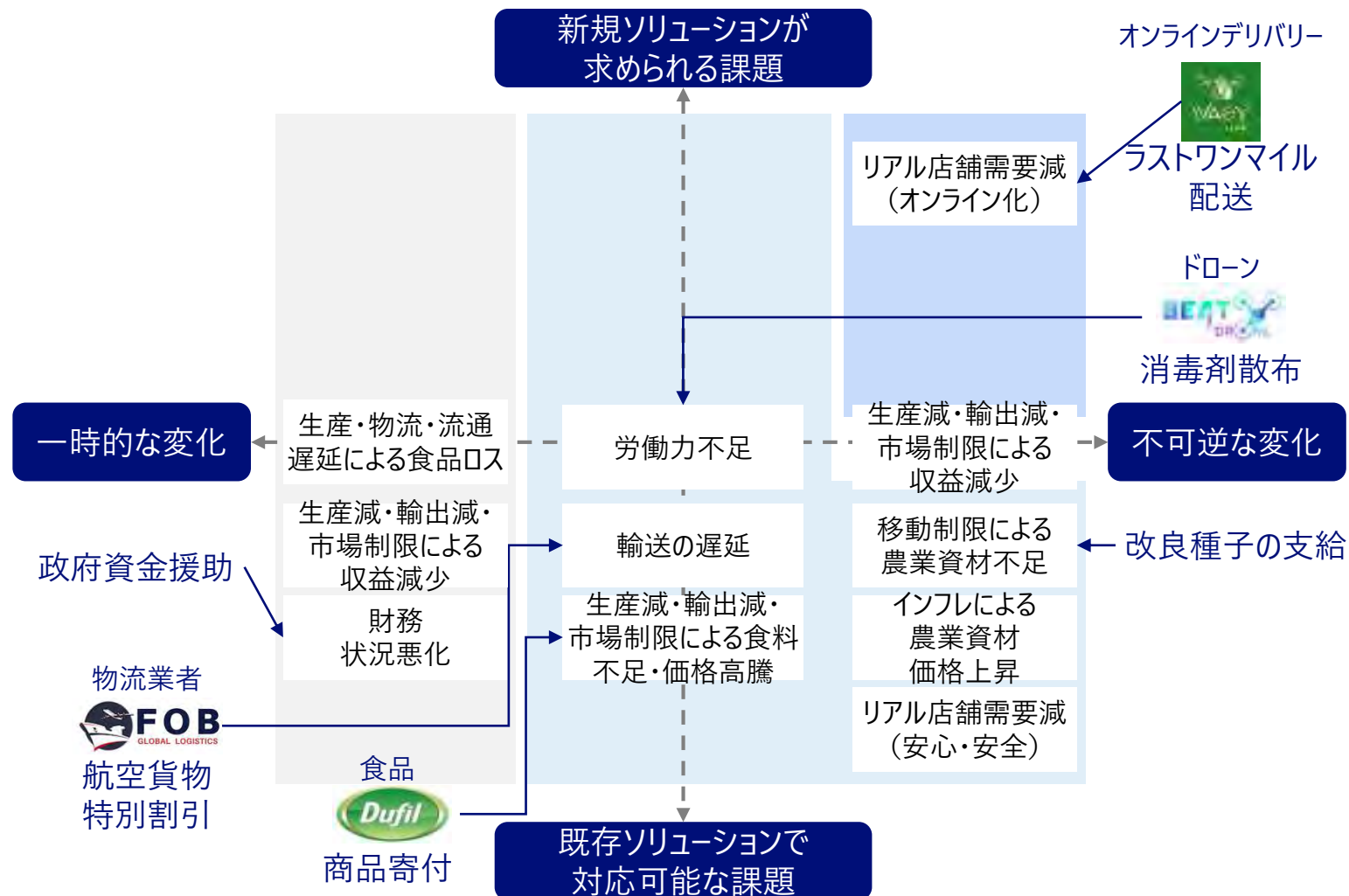
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸—
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

2. ケニア

3. ナイジェリア

令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）南アフリカ 2020年10月

南アフリカの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り

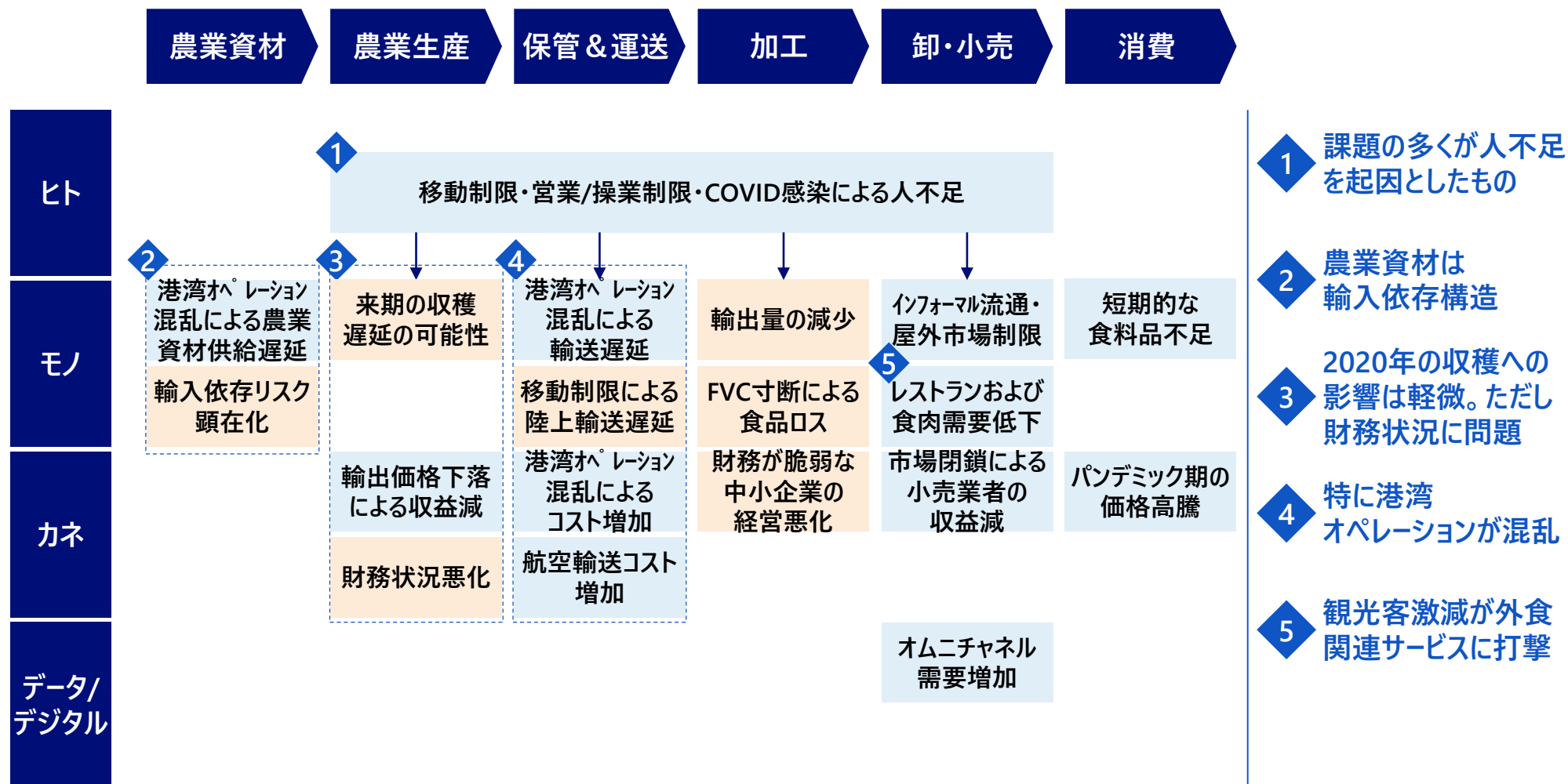


報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増）	18
	主要な農林水産物の消費量	レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込	19
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 輸入元国における輸出制限により減少見込 輸出 短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性	20,21
	Eコマースによる取扱量	包装食品におけるEコマースの利用割合は依然低いものの、COVIDにより0.3%から1.9%に増加	22
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	COVIDを受け自宅消費需要が高まり、外食サービスに占める利用割合は宅配・テイクアウト合わせて前年度から12.3%増加	22
	消費者マインド	高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。COVIDを経て全所得層で低価格食品・オンライン注文需要が増加	24,25
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	農業資材は輸入依存構造のため、港湾オペレーションの混乱により資材調達に遅延が発生	28
	農業生産	2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDによる生産量への影響は限定的。ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生	29
	保管・輸送	主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生	30
	加工	サプライチェーンの混乱や輸出先の輸入規制により中小加工業者を中心に影響を受ける可能性	31
	卸・小売	移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化	32
	消費	消費者は食料品不足と価格高騰に直面	33
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済	36
	政府の支援策	農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施	37
	民間企業の事業動向	オンラインプラットフォーム利用増加/ 工場操業停止/ 安全措置実施/ オムニチャネル強化 など	38-41
	第3国(企業)・国際組織の動向	FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援	42



FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

南アフリカ コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り



課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

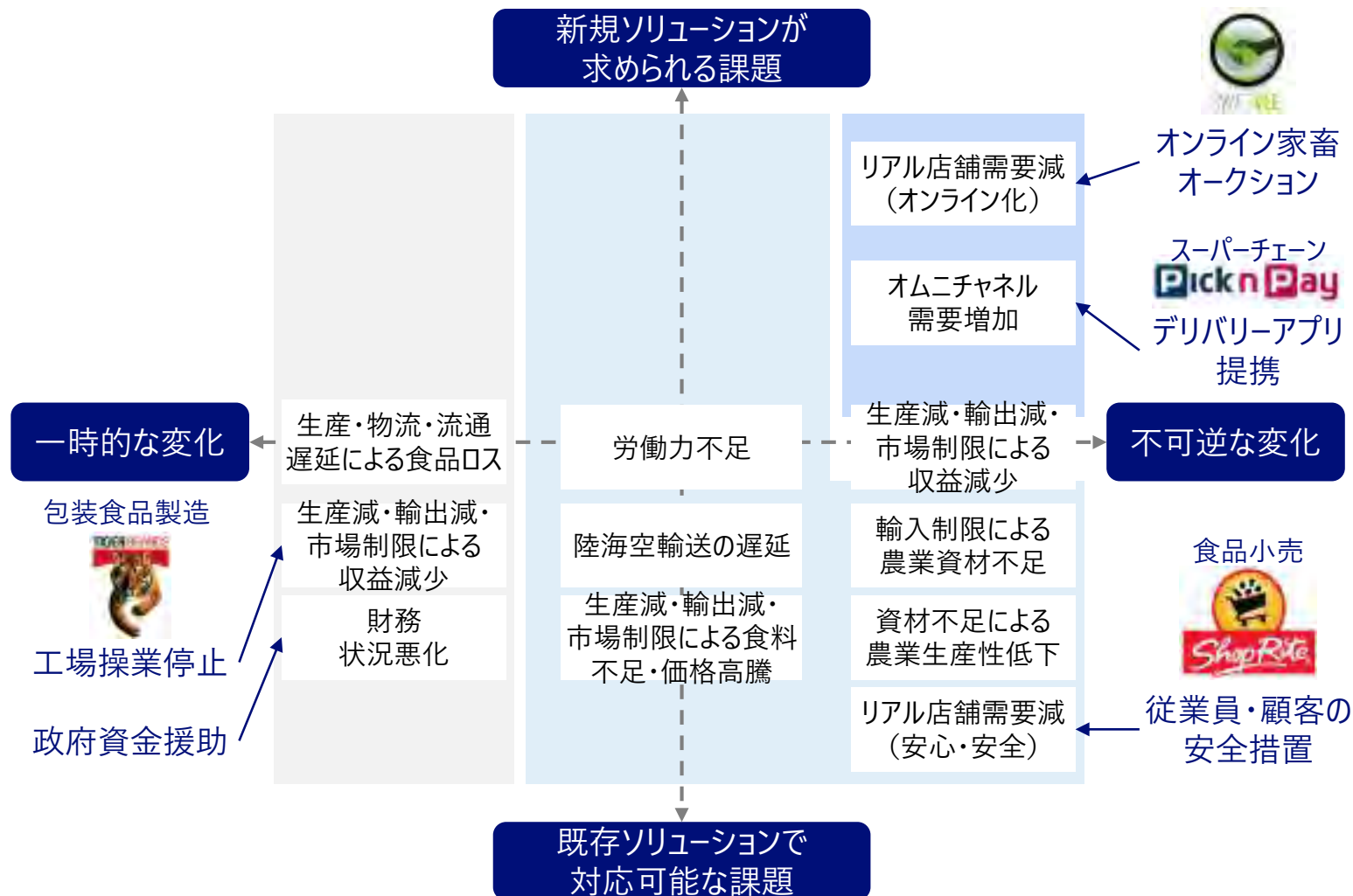
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス(耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

2. ケニア

3. ナイジェリア

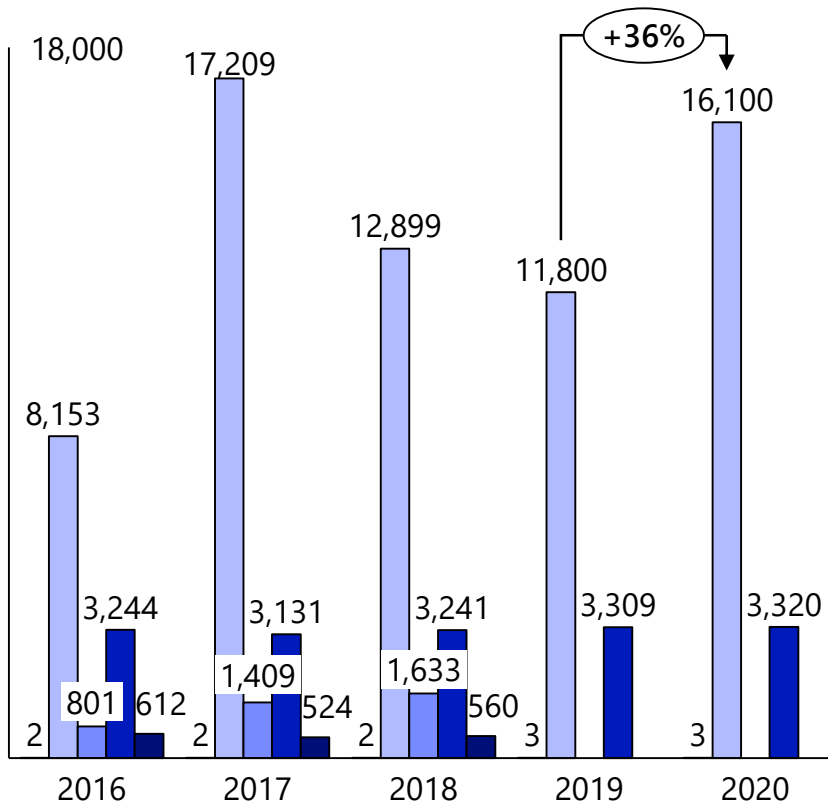
COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し | 生産量

農業がロックダウン対象から外れ、また好天候も追い風となったため、
COVID下にも関わらず生産量は増加見込（特にトウモロコシは前年比30%増）

主要農林水産物の生産量推移, 2016-2020（千トン）

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20はデータなし

キートrend/特徴

トウモロコシ：
主要な生産
地域

- トウモロコシは主に北西州、ムプマランガ州、自由州、クワズール・ナタール州で主要農産品として生産

トウモロコシ：
天候により
左右

- 2015・16・18年は干ばつによる降雨量の減少や霜によるダメージなど悪天候に見舞われたためトウモロコシの生産量が減少
- 2017・19年は良好な気候となったために生産量が増加

豆：財布に
優しい栄養源

- 加工・缶詰豆は南アフリカでは多くの郷土料理に使われており、手ごろな価格で栄養価が高いため全所得層で人気
- 近年、芳しくない経済状況が続く中（2016-19年のGDP成長率は0.15～1.4%、失業率25%以上）、缶詰豆を栄養源として選択する傾向

COVID-19による変化

他セクターに
比バダメージは
軽微

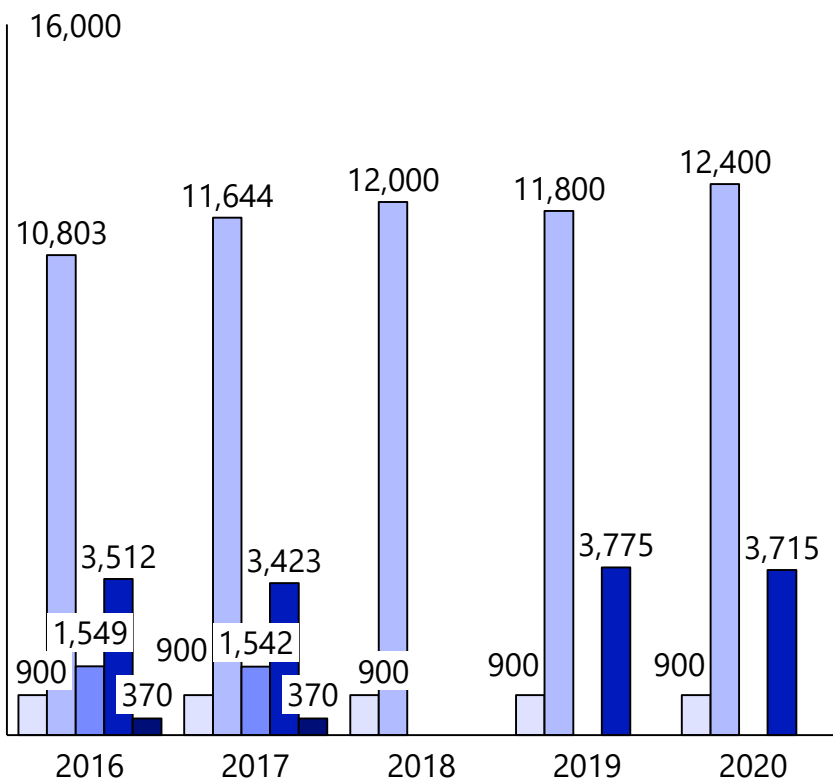
- 農業は政府により必須サービスに指定。ロックダウン下でも稼働可能で、また今年度は天候に恵まれたため、トウモロコシなどコモディティの生産量が増加見込み
- 上記理由から製造業など他産業と比較してCOVIDによるダメージは少ないと想定

レストランや小売の営業停止・縮小により食肉を中心に減少見込

主要農林水産物の消費量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20、肉の2018はデータなし。肉についてはEuromonitorにデータがあるが、FAOと乖離するため記載していない

キートrend/特徴

トウモロコシ：
主食

- トウモロコシは南アフリカの最も重要な主食作物で全国的に生産・消費。とりわけト低所得者層の食生活はトウモロコシが中心

魚介類：
健康食品
として注目

- 魚介類は肉類よりも健康に良いと考える人が増加。健康意識の高い富裕層を中心に消費が増加
- また、政府は食料安全保障の観点から持続的な魚介類の供給量増加を目指してOperation Phakisaを2018年に開始。魚介類の消費量増加を後押し

COVID-19による変化

レストラン営業
停止および
貿易制限に
よる消費減少

- COVIDによるレストラン・小売店の営業停止や縮小により、**2020年度の農林水産物の国内消費量は肉類を中心として減少する見込み**
- 米の主要輸入元であるインド・ベトナムにおける輸出制限により米の供給量が減少**。また世界的な米価格の上昇が消費量に影響を与える可能性
- トウモロコシについては影響は軽微との見込み**

COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し | 輸入量

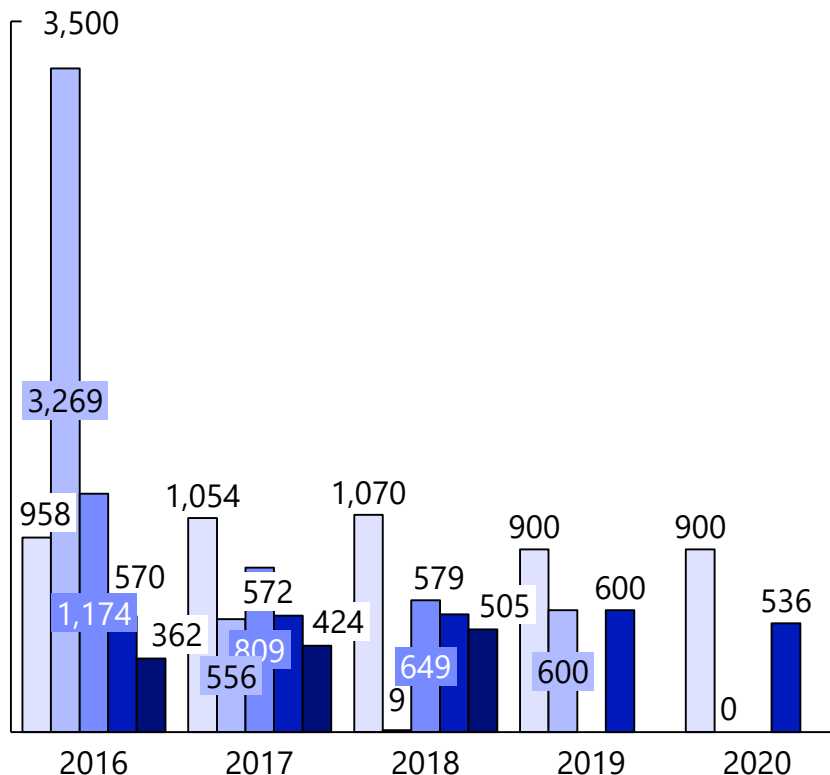
輸入元国における輸出制限により減少見込



主要農林水産物の輸入量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20はデータなし

キートrend/特徴

主要輸入元

- トウモロコシ：ブラジル、アルゼンチン
- 米：タイ（80%）、インド（20%）
- 豆：中国、エチオピア、米国
- 肉：ブラジル（50%）、オランダ、スペイン、イギリス
- 魚介類：ナミビア、米国、ベトナム、ノルウェイ

魚介類： 健康食品 として注目

- 富裕層の中で健康食品への関心が高まっており、魚介類は肉類よりも健康と考えられていることで輸入量が増加

豆：輸入から 国産にシフト

- 2016年以降、安い国産豆の人気の高まったことで輸入量減少

鶏肉：鳥イン フルの発生に よる輸入増加

- 2018年に鳥インフルエンザが流行したことで約500万羽の鶏を殺処分。鶏の供給量が不足し、結果として特にブラジルからの輸入量が増加

COVID-19による変化

輸入元国 における 輸出制限

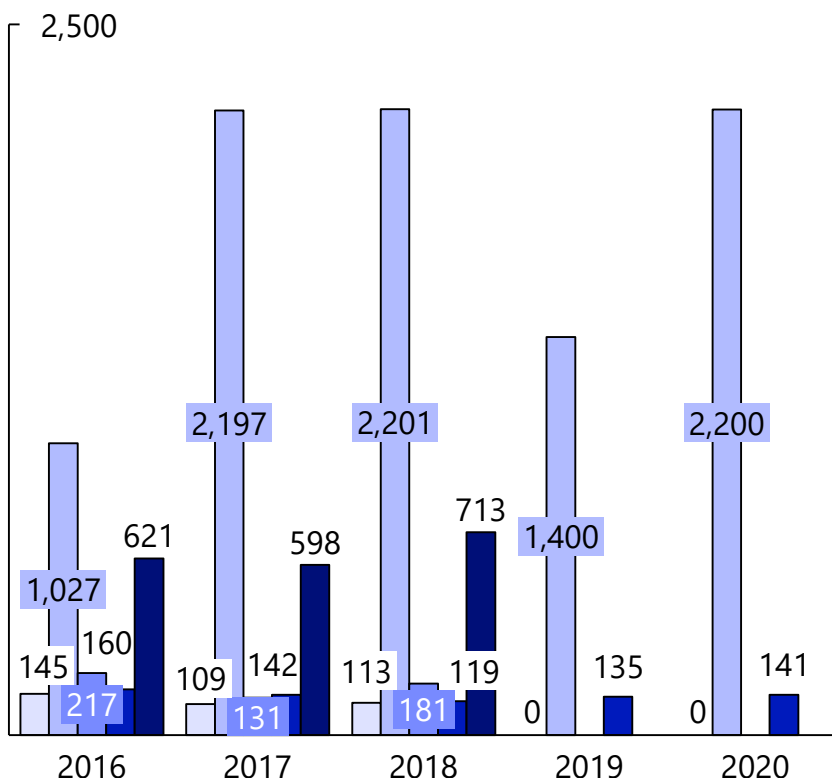
- COVIDにより輸入元国において輸出が制限され（収穫量の減少による自国内流通の優先、輸出業務の停止・遅延など）、特に米の輸入が悪影響を受ける可能性

短期的には減少したものの、生産状況が良好のため輸出機会が増える可能性

主要農林水産物の輸出量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類の2019-20はデータなし

キートrend/特徴

主要輸出先

- トウモロコシ：ベトナム、韓国、ボツワナ、イタリア、日本
- 米：エスワティニ、ジンバブエ、ボツワナ（近隣諸国への再輸出）
- 豆：エスワティニ、UAE、インド
- 肉：モザンビーク、レソト、ナミビア、クウェート、ベトナム
- 魚介類：欧州（主にスペイン・フランス）、日本、イギリス、米国、中国、豪州、モザンビーク

トウモロコシ： 生産量減少による輸出減少

- 2018年は干ばつの影響で生産量が落ち込み輸出量も減少

COVID-19による変化

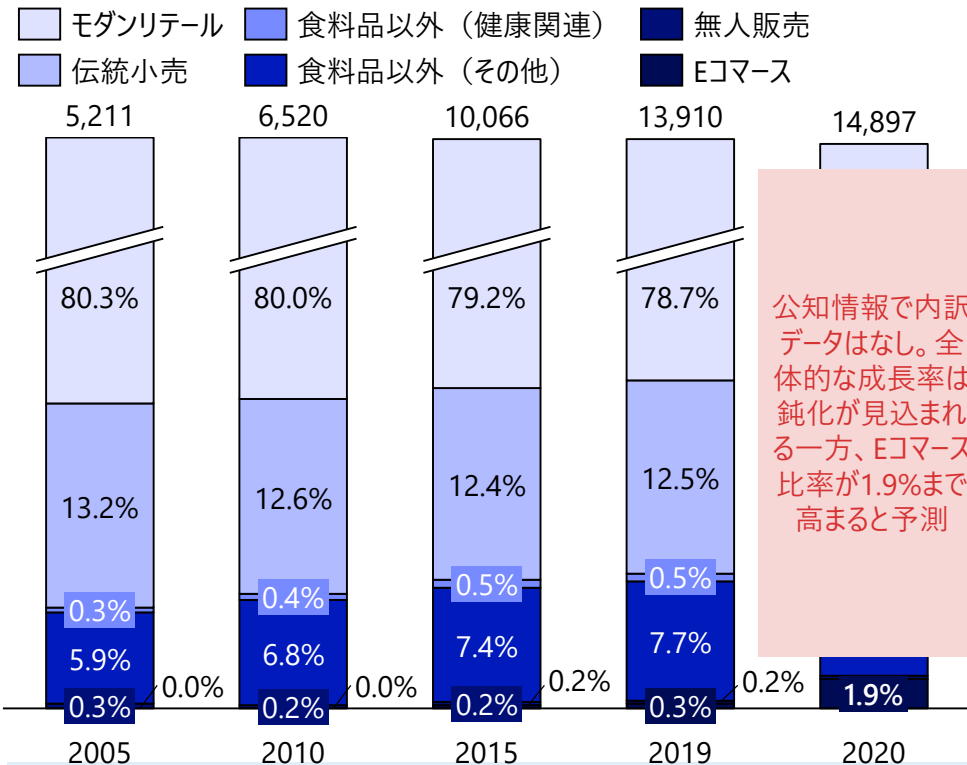
輸出市場での 他国代替の 可能性

- COVIDを原因としたサプライチェーン・物流の混乱により短期的に輸出量が減少
- 一方、生産量には大きな影響がなく、影響を受ける他国に代わって輸出機会が増える可能性。実際にデータ上では昨年比で大幅増加見込み

包装食品| Eコマースの利用割合は依然低いもののCOVIDにより0.3%から1.9%に増加

外食サービス| COVIDを受け自宅消費需要が高まり、宅配・テイクアウト合わせてシェア12.3%増加

包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）

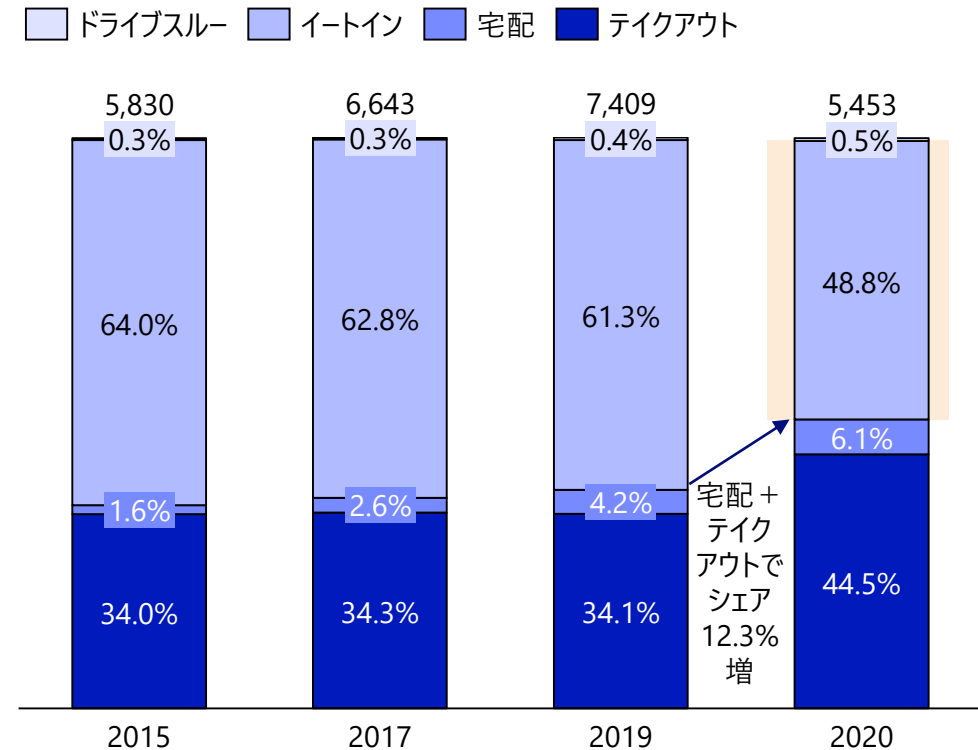


- 包装食品の主要チャネルはモダンリテール（スーパーマーケット、ハイパーマーケット、コンビニ）で特に全体の約60%がスーパーマーケット
- COVIDによりリアル店舗が営業停止したことで、オンライン販売が増加。
例えば伝統的小売はWhatsAppを通じて注文を受ける取組を開始

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

外食サービスの利用チャネル割合（百万ドル）

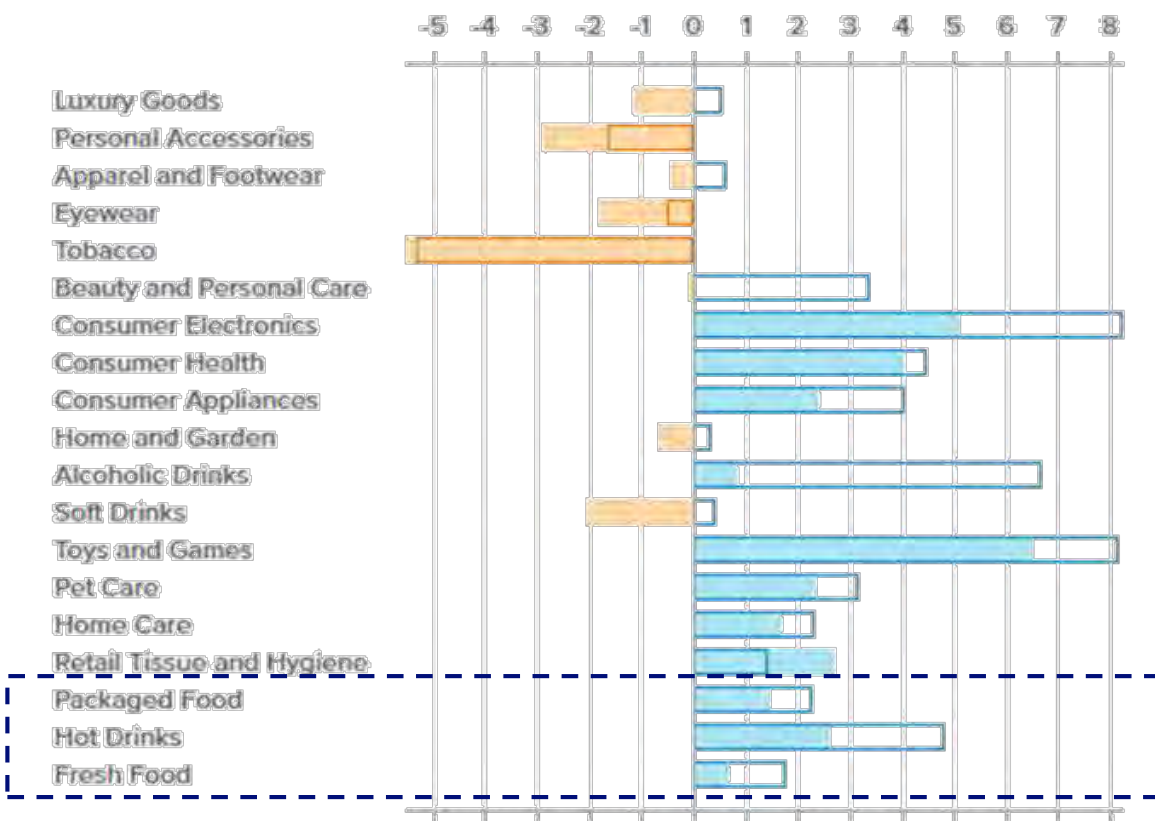


- ・ イートイン（61%）およびテイクアウト（34%）が外食の太宗
- ・ 割合は未だ小さいものの、宅配への関心が近年徐々に増加。**COVIDにより自宅消費需要が高まっているため、この傾向は加速していく見通し**

【参考】COVID-19により、食品小売の今年度の成長率は1~2%下落する見込み

2019-20年のカテゴリー別小売販売の成長率予測（％）

COVID発生前の予測値 COVID発生後の修正値

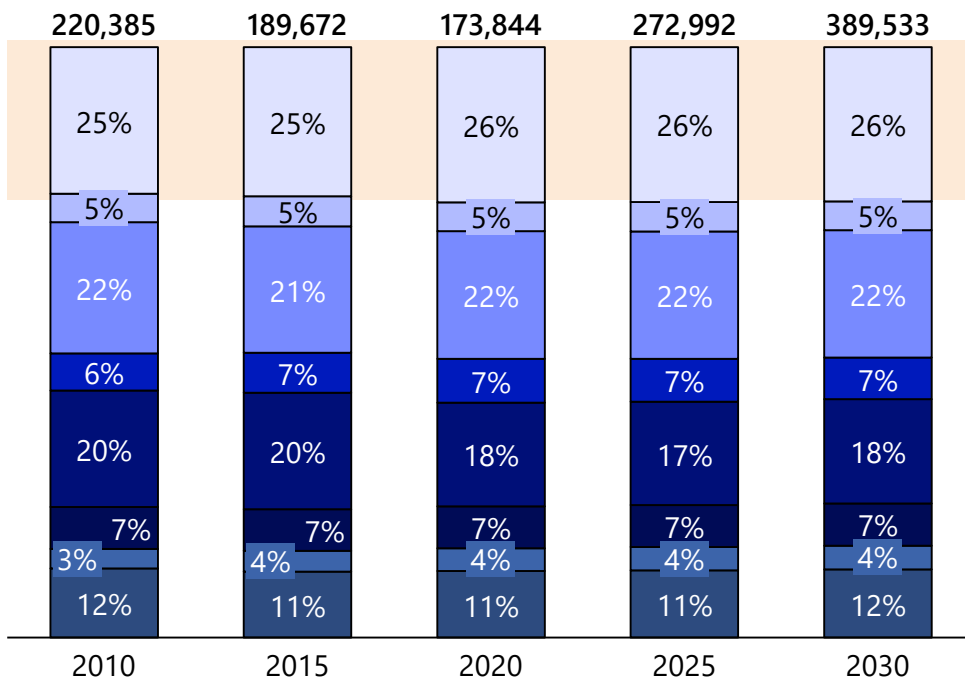


- ほとんどの小売セグメントの成長率は、COVID発生前の予測値から下方修正
- 包装・生鮮食品で1%、ホットドリンクで2%程度下振れるとの予測
- パニック購買や店舗の早期再開により、包装・生鮮食品への成長鈍化圧力は相対的に軽微

必需品以外の製品需要や衝動買いが減少する一方で巣ごもり需要が増加するなど購買行動が変化

消費者支出内訳 (百万ドル)

飲食料
 住宅
 移動
 教育
 衣料
 健康
 レジャー
 その他



- 消費者支出合計に占める飲食料の割合は約26%を占め、COVIDを経ても今後10年の間に大きな変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で6%成長する見込み

(2020年以降は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

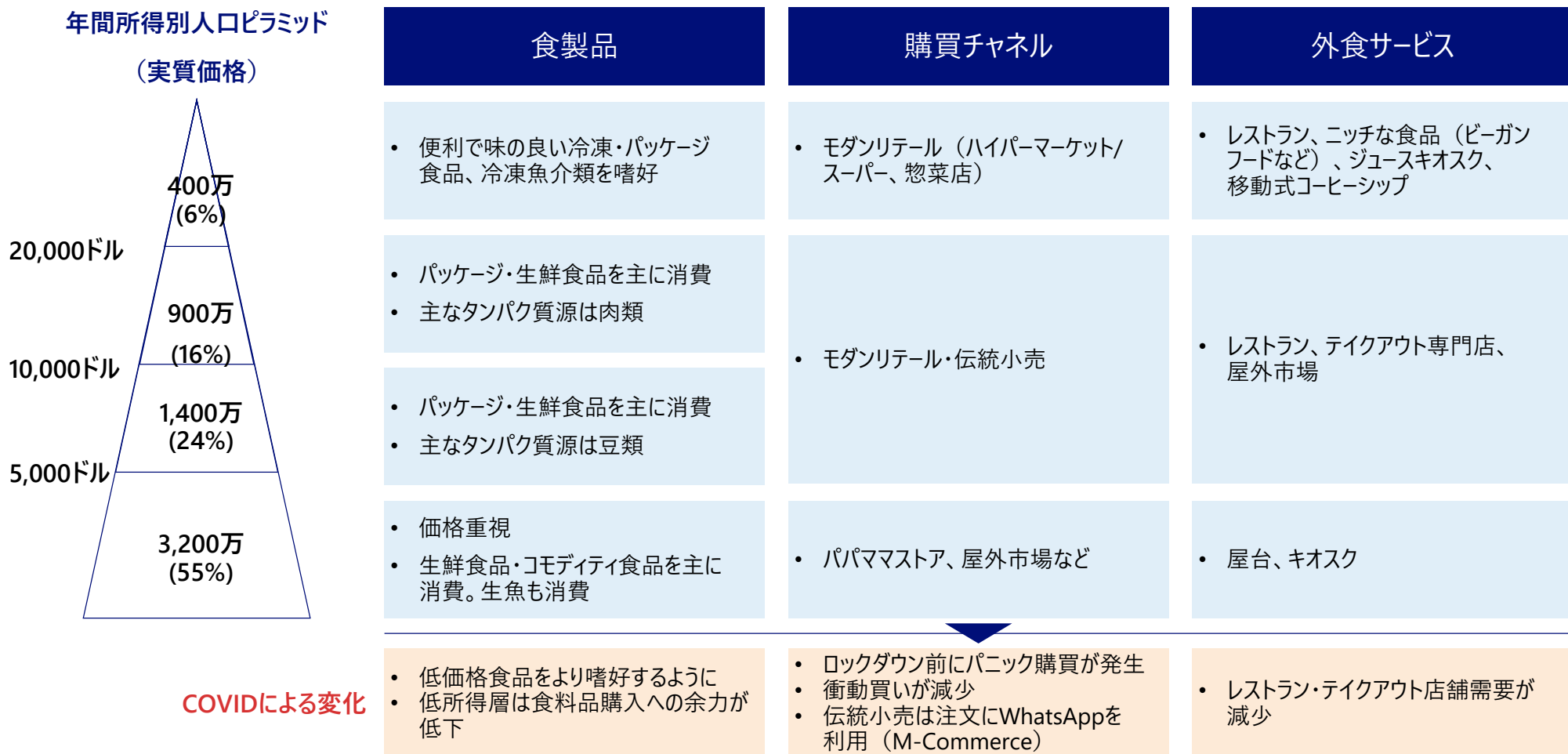
主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

背景	▪ 若者・拡大する消費者層が食料消費の成長を下支え ▪ 人口成長が消費量を刺激。一方、高い失業率、政策の不確実性、腐敗の蔓延などが消費意欲を阻害
便利さ = 最重要	▪ 消費者の生活がますます多忙となる中、宅配サービスやテイクアウトの需要が増加。この傾向はCOVIDにより加速
植物由来製品の 需要増加	▪ 肉製品の人気の高い一方、健康志向の高まりを受けて植物由来製品需要も増加
販売・ マーケティング チャンネルの変化	▪ 食品・ブランド認知を高めるための重要なファクターとしてソーシャルメディア利用率が増加 ▪ COVIDにより宅配サービス事業者が増加し、個人経営店による宅配サービス利用率が増加
健康志向の 高まり	▪ 健康志向の高まりを受け、ビーガン・ベジタリアン向け飲食料品への需要が増加
購買行動の 変化	▪ 必需品への需要はコンスタントである一方、必需品以外の製品への需要が減少 ▪ 衝動買いが減少し、より目的に沿った買い物が増加。また一回当たりの購買量も増加 ▪ 自宅で過ごす時間が増えたことで巣ごもり製品需要が増加
購買決定者の 変化	▪ 例えば夫の買い物機会が増加するなど買い物時の意思決定者が多様化しており、ブランド・製品選択要素が変化

高所得者層ではビーガンフードなど健康志向が高まっている。

COVIDを経て全所得階層で低価格食品・オンライン注文需要が増加

所得別の消費者行動



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

2. ケニア

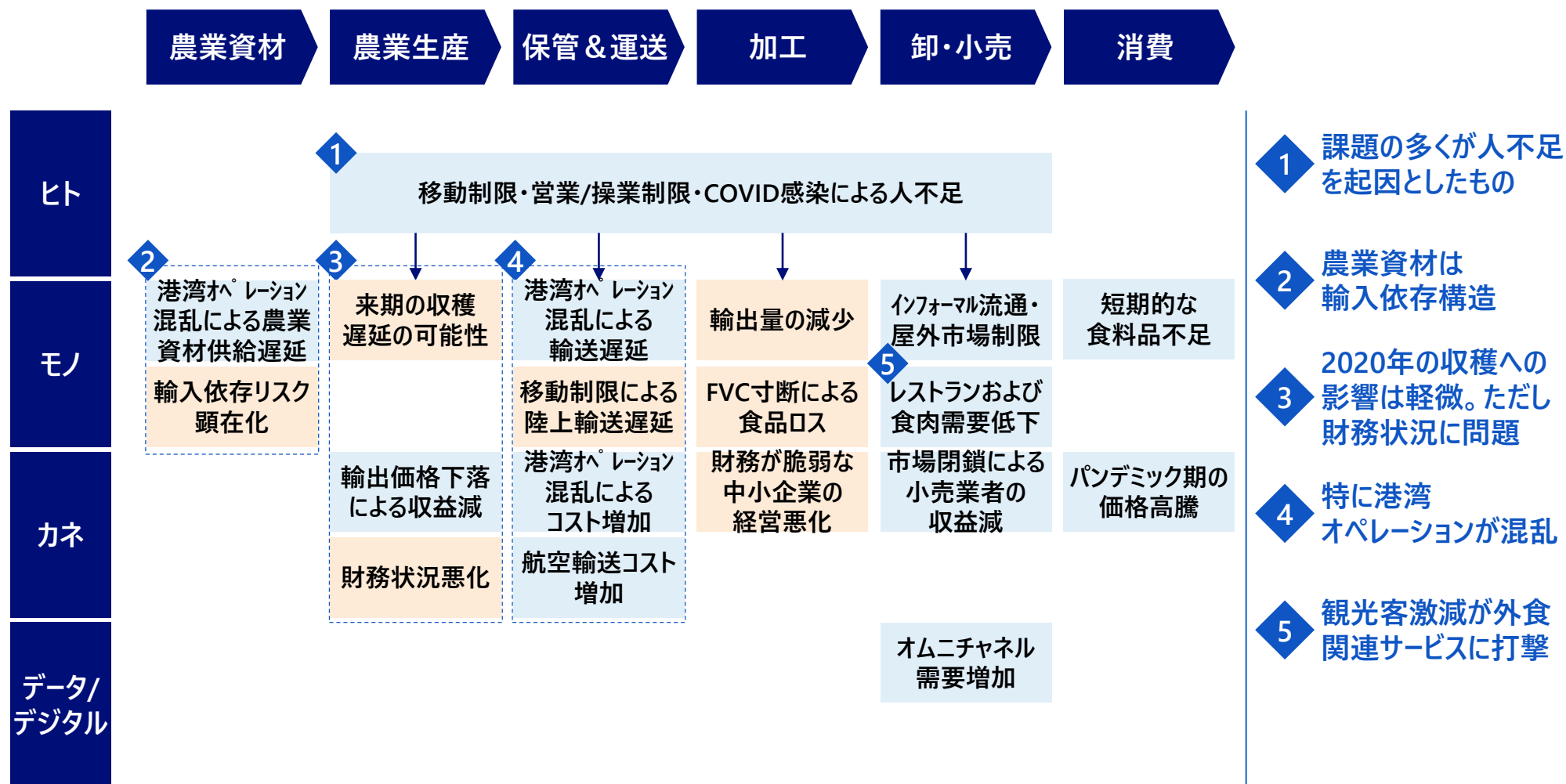
3. ナイジェリア



南アフリカ コンテンツ&サマリ - COVID-19により顕在化したFVCの課題

FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

農業資材は輸入依存構造のため、港湾オペレーションの混乱により資材調達に遅延が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農業資材供給



① ②

港湾オペレーションの
混乱による農業資材
供給の遅延

②

輸入依存リスク顕在化

- 南アフリカは肥料・農薬・農機の多くを輸入に依存。例えば肥料は80%、農薬は95%が輸入品
- 港湾施設の稼働停止・縮小により、農薬、肥料、植物材料、農機などの農業資材の輸入供給に遅延が発生
- 農業資材は輸入依存のため、国際価格・為替レート、輸入元国での流通コストが影響
⇒ 輸入元国のサプライチェーンでの供給量減少や輸出制限がかかった場合、価格高騰や流通制限が発生し、収穫が遅延するなどの影響を受ける可能性



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

2020年の農産物生産量は増加しており、COVIDの生産量への影響は限定的。
ただし、消費・輸出需要の減少で農家収益への打撃は発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農家の収益



③

輸出価格下落による
収益減少

- トウモロコシ（10%）、大豆（8%）、小麦（6%）など、3月から4月にかけて主要な農産物価格が世界的に下落しており、農家の収益に打撃

③

財務状況の悪化

- 2018年時点の農業債務残高は過去最高の1,680億レアルに到達。うち60%が商業銀行、29%が土地銀行、残りは農協、民間人、その他の機関からの負債。また2019年度の干ばつによる作付期、収穫期の損失が農家の財務状況に深刻な影響
⇒当初は2020年度は回復期と見込まれていたが、COVID-19による需要低下により短期的な財務状況の改善は困難と想定

① ②

来期の収穫遅延の
可能性

- トウモロコシ、粟、モロコシ、大豆などの主要農産物の生産は、種付、収穫、収穫後の処理など多くの工程を近隣の町や集落から移動してくる季節労働者に依存
- 農業が必須事業に認定されたことから影響は最小限にとどまったものの、今後移動制限が厳しくなる場合、来期への準備段階での影響を受ける可能性

農業生産



主要穀物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トウモロコシ (東部)												
トウモロコシ (西部)												
粟												
モロコシ												
大豆												
小麦												
大麦												

作付期
生育期
収穫期



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

主に船舶・航空輸送の混乱により流通の遅延・価格高騰が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

船舶輸送



① ②

港湾オペレーションの
混乱による輸送遅延

- ・ ケープタウンで稼働している港湾施設数が減少し、オペレーションに遅延が発生
- ・ 輸入量の減少により、特に海上輸送に必須となる冷凍用コンテナが不足
- ・ ロックダウン後、港湾施設のキャパシティは通常の30%にまで縮小し、貨物の積み込み時間が増加（1隻当たり最大25日必要）

① ③

港湾オペレーションの
混乱によるコスト増加

- ・ ケープタウン港において、港湾オペレーター間で感染が拡大したためにオペレーションが遅延し、入港できない沖待ちの船が発生
- ・ 港湾が混雑すると船会社・物流業者は荷主に対して船混み割増料金（congestion surcharge）を請求するため、荷主の物流コストが増加

航空輸送



②

航空輸送コスト増加

- ・ 生鮮食品や季節性商品は、南アフリカでは航空輸送により流通
- ・ ロックダウン後、新型コロナ割増料金（Covid-19 Surcharge）が課されたことなどを原因として、航空貨物運賃が1,80ドル/kgから3,00ドル/kgまで上昇。結果として生鮮食品や季節性商品の価格が高騰
- ・ 10月時点でも航空貨物運賃は依然として高止まりの状況

陸上輸送



① ②

移動制限による輸送の
遅延

- ・ ロックダウン・州間移動の制限により農産物品の輸送でも遅延が生じている可能性



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

サプライチェーンの混乱や輸出先の輸入規制により中小加工業者を中心に影響を受ける可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農産物加工



① ②

FVC寸断による食品ロス

- 包装・加工工程あるいは前工程での労働力の制限により生産量の減少やオペレーションの遅延が発生し、結果として食品ロスが増加する可能性
- 例えばフルーツでは、パックハウス、トラック輸送施設、市場、港など各工程で遅延することにより鮮度が劣化し、廃棄処分が増加する可能性



③

輸出量の減少

- 今後収穫され加工・輸出されていく農産物は、輸出量が輸出先国の輸入制限措置に依存
- 例えばフルーツでは、ブドウは既に大部分が加工・輸出済みのため影響は軽微。一方、これからシーズンとなる柑橘類の輸出は欧州諸国の輸入措置次第

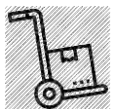


② ③

財務体質が脆弱な
中小企業の経営悪化

- 南アフリカの食品加工産業は10社が76%を占める構造。これら大企業は強固なサプライチェーン（小売・レストランへ直販も可能）・財務基盤を有しているためCOVIDによる影響は限定的
- 一方、中小企業は小規模かつ分散している卸や小売、Spaza（パパママストア）などに製品を提供しており、特に財務基盤が脆弱な企業ほど物流網の混乱により打撃を受ける可能性

調達・輸送



②

部材調達の遅延

- サプライチェーンの混乱により原材料・包装材料・化学品・スぺアパーツの調達に遅延が発生し、加工・生産に影響が生じる可能性



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

移動制限や店舗利用制限により卸・小売事業者の収益性に影響が生じている一方、オムニチャネルへの新たな動きが活発化

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

流通・小売



① ②

インフォーマル流通・屋外食品市場の制限による流通量の低下

- 治安部隊がインフォーマル流通を扱う小売業者の移動や屋外食品市場の営業を制限
- その結果、インフォーマル小売業者は生鮮市場からの購入や農村部での通常販売ができなくなり、流通網に悪影響が発生

② ③

市場閉鎖による小売業者の収益減

- 6月にハウテン州プレトリアのツワネ市場を閉鎖した結果、最大2,800万レアル（160万米ドル）の売上損失が発生（南アフリカの生鮮食品卸企業 RSAグループCEOのJaco Oosthuizen氏談）

① ④

オムニチャネル需要増加

- 食料品のリアル小売店や外食サービスの多くが営業停止・縮小あるいは顧客の来店数が減少する中、オムニチャネルの重要性が増加
⇒例えばレストランチェーンのMr D Foodは、小売のforecourts、薬局のMedirite pharmaciesとの提携を通じて業態を食品・医療品のデリバリーサービスに転換

外食サービス



① ③

レストランおよび食肉需要の低下

- イートインの営業停止は特にイートイン利用が多いカフェ・バー・レストランに影響
- ロックダウンにより外食チェーンの需要が減少したことで食肉需要も減少し、食肉生産者の収入に打撃



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

消費者は食料品不足と価格高騰に直面

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

食料品流通



②

短期的な食料品不足

- 特定都市（Central Karoo州のMurraysburgやMerwevilleなど）は、食品物流が弱く、ロックダウンの結果として必要不可欠な食料品の不足が発生

食料品価格



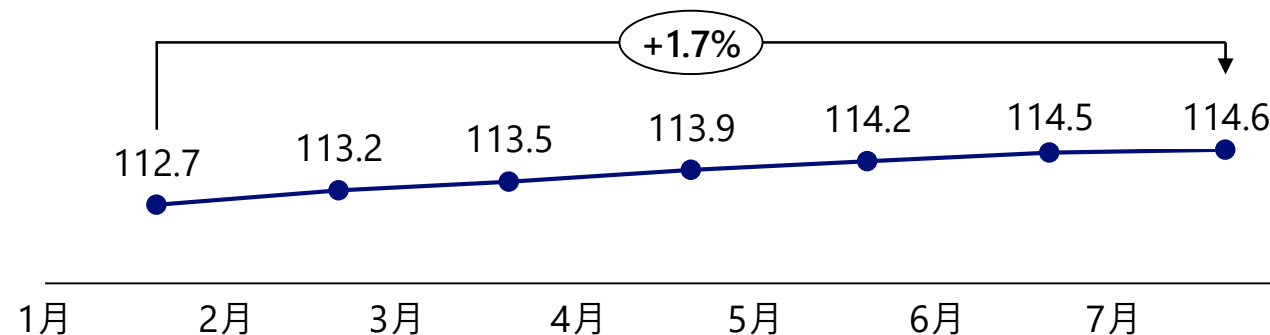
② ④

パンデミック期間における
価格高騰

- 4月前半の間に、ロックダウンによるパニック購買やサプライチェーンの遅延の影響により必須食品の価格が3～10%上昇
- 主な製品の上昇率は下記：牛乳、卵 & チーズ（+3%）、牛ミンチ（+7%）、果物（9%）、野菜（10%）、果物（3%）

食品における消費者物価指数（2020年1月—7月）（2016年12月を100とする）

- 食品価格全体としては、2020年1月と7月を比較すると1.7%程度上昇



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

2. ケニア

3. ナイジェリア



南アフリカ コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り

課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

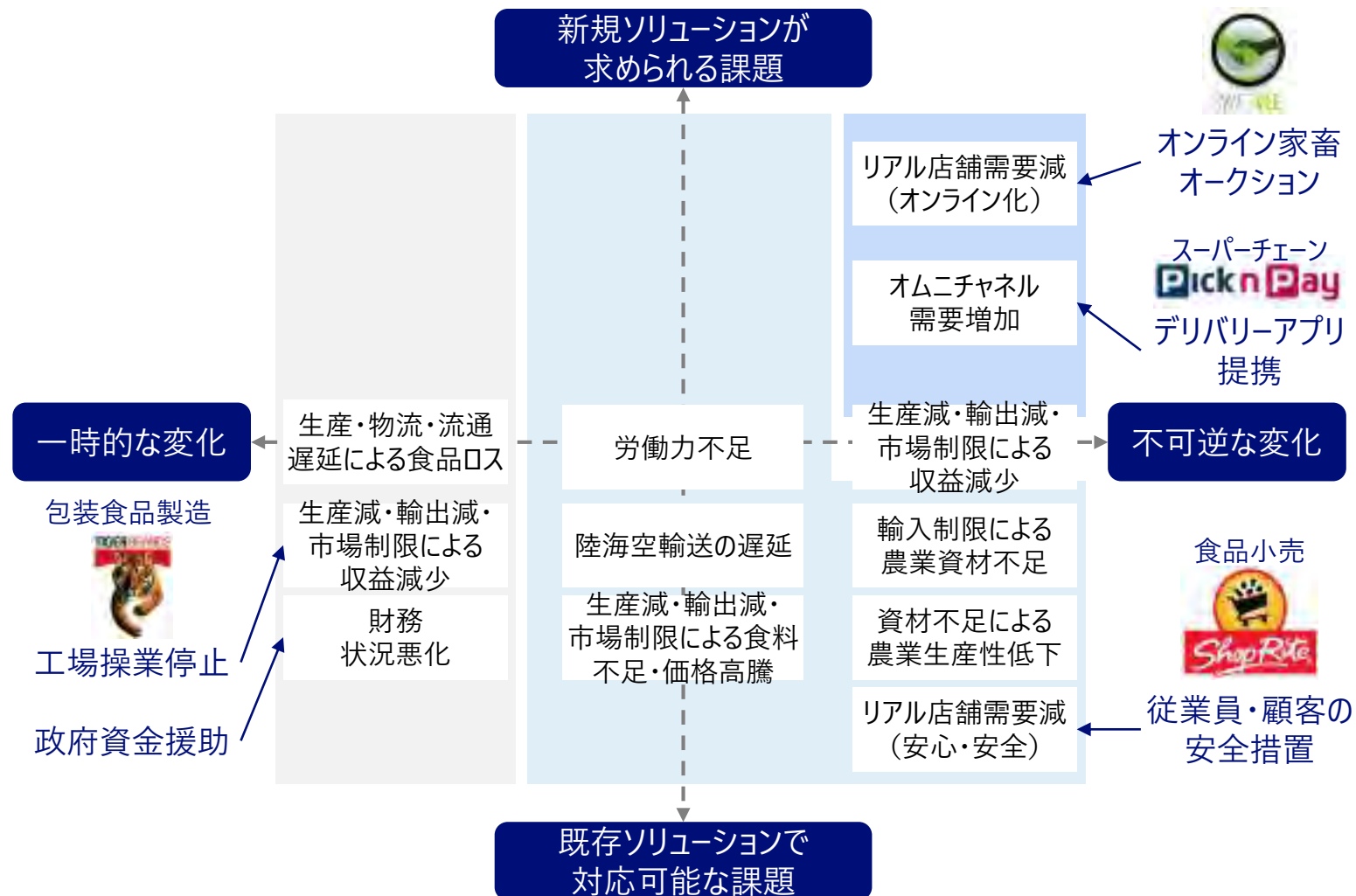
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応





現地FVC 再構築に向けた最新動向

多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済

		COVID-19による制限	2020年10月現在の状況
個人	国内移動	3月にすべての国内移動を制限 - 午後10時～午前4時までの夜間外出を禁止	5月よりビジネスやその他の必要不可欠な目的での州間移動を許可（承認が必要） 8月よりすべての州間移動を許可 - 夜間の外出禁止時間を午前0時～4時までに短縮
	国際移動	5月に入国を禁止（旅行はGDPの8.5%を占める重要産業）	10月より入国禁止を解除 - 感染者数が多い国からの入国は依然として制限中
	その他	すべての集会を最大50人までに制限	9月より社会・宗教・政治集会の最大数を集会所の50%まで（屋内は250人・屋外は500人）に緩和
ビジネス	農業	- 食品・農業活動は必須サービスに認定 - ワイン・漁業は認定されず	5月よりワイン（輸出）・漁業も操業開始を許可。また農家が収穫用に従業員を雇用することを許可
	ロジスティクス	輸出入向け貨物を含む輸送・ロジスティクスサービス事業を必須製品を扱う場合に限定	4月より必須製品以外を扱う場合の輸送・ロジスティクスサービスも事業再開
	製造業	3月に開始されたシャットダウン期間中は製造業の生産オペレーションを停止	6月より鉱業・製造業・建設業の生産を通常化
	小売・レストラン	- すべての外食サービスおよび必須製品以外を扱う小売店舗の営業を停止 - アルコール・タバコの販売を禁止	5月よりテイクアウト・小売店、6月よりイートインの営業を再開 8月よりアルコール・タバコの販売を再開

必須製品は食品、ガソリン、医療機器など



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

農家や中小企業への金融支援、食料価格のモニタリングなどを実施

対象	政策	政策概要	インパクト
農家	12億レアル（7,100万ドル）の金融支援	農地改革・農村開発省は、財務状況が悪化した小規模農家を対象として12億レアルを支援	COVID-19の影響を受ける零細農家に即時～短期的支援を提供することで収入の悪化を軽減
FVC関連 中小企業	6か月間の融資条件緩和	- 南アフリカ中小企業開発局は、COVID-19によって、あるいは2020年4月から6か月間の間に財務上の悪影響を受けた中小企業を対象に債務救済スキームを発表 - 本スキームは女性・若者・障害者が経営する企業を優先対象	COVID-19の影響を受ける中小企業に即時～短期的支援を提供することでキャッシュフローの悪化を軽減
FVC全体	食料不足監視のための農業バリューチェーントラッカー	- 南アフリカ政府は産業界のキープレイヤーとのパートナーシップの下で農業バリューチェーンを監視するトラッカーを開発 - バリューチェーン上のボトルネックや異常を早期に検知し、生産・加工・小売に至る産業全体の状況をシステムに上げ、政府は48時間ごとに情報を更新する仕組み - また、食料不足が深刻となった場合には輸出制限をかけることを決定	食料へのアクセス状況・価格変化を監視することで対応を迅速化
	食料品に対する価格制限	- パニック購買により食料品価格が高騰したことを受け、政府はトウモロコシ・米・小麦など指定食品の価格引き上げと買いだめを禁止 - また、輸入食料品に対する付加価値税を免除	価格高騰を回避



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

SwiftVEEが運営する家畜オンラインオークションプラットフォームはCOVID19を受けて利用が急増

家畜のオンラインオークション

農業資材

農業生産

保管&運送

加工

卸・小売

消費

- SwiftVEEは家畜のオンラインオークションプラットフォームを運営
- SwiftVEEの利用者はCOVID19以降急増しており、2020年第1四半期の12件から第2四半期に160件へと成長



Afrikaner BULVEILING
14 OKTOBER 2020
Webcast Auction

Starts 14 Oct 2020 11:00 AM SAST
HOOPSTAD AFRIKANER BULVEILING (Vleissentraal Bloemfontein)
(76 items)
Hoopstad, South Africa



MID VRYSTAAT BONSMARAS
15 OKTOBER 2020
Webcast Auction

Starts 15 Oct 2020 11:00 AM SAST
MID VRYSTAAT BONSMARAS (Vleissentraal Bloemfontein)
(76 items)
Bloemfontein, South Africa



Dorland Meatmasters - Parys Afridome
17 OKTOBER 2020
Webcast Auction

Starts 17 Oct 2020 11:00 AM SAST
DORRLAND MEATMASTERS (Vleissentraal Bethlehem)
(298 items)
Parys, South Africa

SwiftVEEの家畜オンラインオークションウェブサイト。プラットフォームは牛や羊などが対象



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

最大の飲食品製造業のTiger BrandsはCOVID19を受け複数の工場を停止

工場の操業停止

農業資材

農業生産

保管 & 運送

加工

卸・小売

消費

- 南アフリカ最大の包装食品・飲料会社であるTiger Brandsは、COVID19を受けた需要低下などが原因で、コスト削減のためスナック菓子・調味料・飲料などの複数工場の操業を停止
- 同社は人員削減や資産売却により危機を乗り切る可能性があるとBloombergが報道





現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

南アフリカ最大の食品小売事業者Shoprite Groupは複数の安全措置・新たな取組を実施

小売店による安全措置（体温チェックなど）の開始

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

卸・小売

消費

- アフリカ最大の食品小売業者であるShoprite Groupは複数の対応策を実施
 - 従業員の体温をチェックし、規定値を越えた従業員は簡易診療所に紹介
 - 店舗スタッフは消毒・ソーシャルディスタンスを徹底しており、入店者数も管理
 - 入店・レジが混雑する場合、医療関係者・法律関係者・高齢者・障害者を優先（IDカードなどで確認）
 - デリバリーサービスとして食料品向けの「Sixty60」とご当地食材向けのCheckers Food Servicesを開始
 - 店舗・配達担当の従業員にボーナスを支給



店舗内での安全措置



従業員の毎朝の健康チェック



体温が高く追加検査や措置が必要な従業員は簡易診療所に紹介



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

スーパーマーケットチェーンのPick n Payはデリバリーアプリとの提携によりオムニチャネル販売を強化

O2O（Offline-to-Online）小売サービスの台頭

農業資材

農業生産

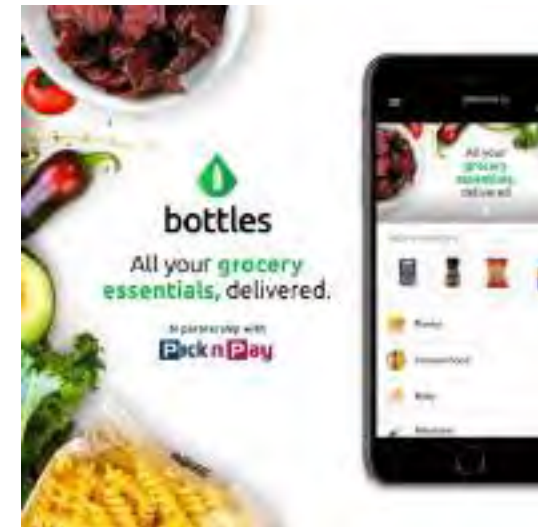
保管＆運送

加工

卸・小売

消費

- COVID-19により、購買行動がリアル店舗訪問からオンライン注文に変化
- これを受けて、南アフリカの最大のスーパーマーケットチェーンの1つであるPick n Payは、アルコール飲料配送アプリ「Bottles App」と提携し、70以上のPick n Pay店舗（ヨハネスブルグ、プレトリア、ケープタウン、ダーバン）から必要な食料品を当日中に配達するサービスを開始
- また、一部の店舗では買い物客が食料品リストをメールで受け取ることができるようにしたり、モバイル非接触型決済を導入してソーシャルディスタンスを維持したりすることも可能



Pick n Payとfood products社
（bottlesアプリ）との提携



小売店から必須食料品の自宅配送



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

FAOは害虫監視アプリを開発し、農家の被害抑制を支援

害虫（ツマジロクサヨトウ）監視アプリ

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

卸・小売

消費

- FAOは、ツマジロクサヨトウ（Fall army worm）*の発生を追跡し、退治するためのリソースへアクセスできるようにするための農家向けアプリFAMEWSを開発
- COVID19の移動制限により農家が監視できる機会が減少し、被害の悪化が想定される中、アプリを利用することで、近隣の害虫発生状況をリアルタイムで把握することが可能
- また、デジタルライブラリー・チャット機能を通じて、対策を調べることやコミュニティの関係者と状況を確認・共有することも可能

*ツマジロクサヨトウは、トウモロコシ、小麦及びモロコシの成長を阻害する害虫



ツマジロクサヨトウの発生状況をリアルタイムで監視するアプリ
FAW Monitoring and Early Warning System (FAMEWS)

コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

3. ナイジェリア

令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）ケニア 2020年10月

ケニアの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り

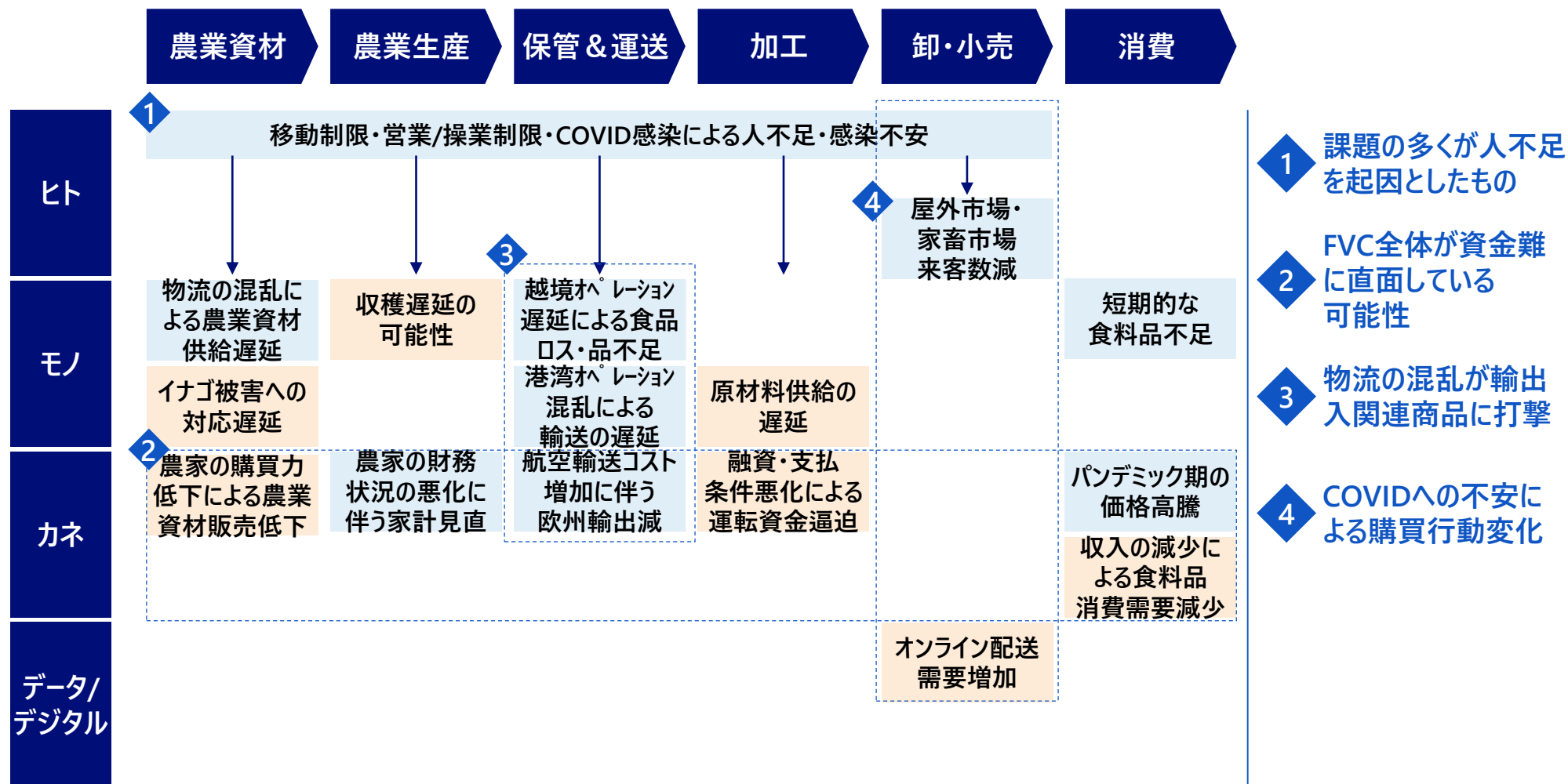


報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少	48
	主要な農林水産物の消費量	COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化	49
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性 輸出 航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向けの輸出量への影響は軽微	50,51
	Eコマースによる取扱量	レストランなどB2B向けが減少する一方、小売店の営業時間短縮などの影響でB2C向けが増加	52
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大	52
	消費者マインド	必需品を中心に富裕層・小売店による買占めが発生。全体的に、買い物頻度を減らし一回当たりの購入量を増やす買い溜めが増加	53,54
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も	57
	農業生産	財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性	58
	保管・輸送	欧州向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生	59
	加工	融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生	60
	卸・小売	外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生	61
	消費	物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面	62
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済	65
	政府の支援策	農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施	66
	民間企業の事業動向	輸出業者による国内向け販売拡大/提携による消費者へのオンライン配送/ 零細小売支援など	67-69
	第3国(企業)・国際組織の動向	世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援	70



FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

南アフリカ コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り



課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

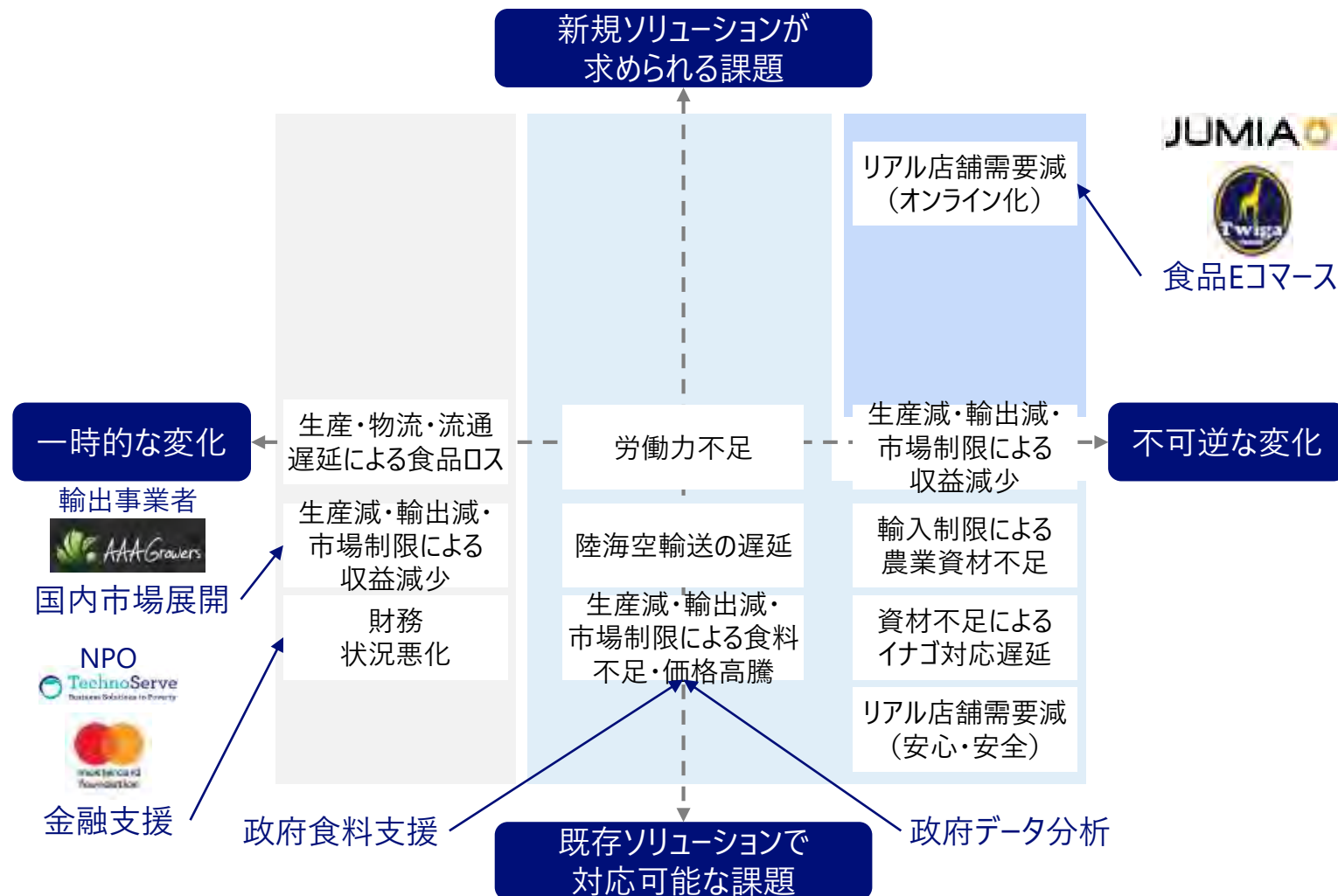
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸ー
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸ー
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

3. ナイジェリア

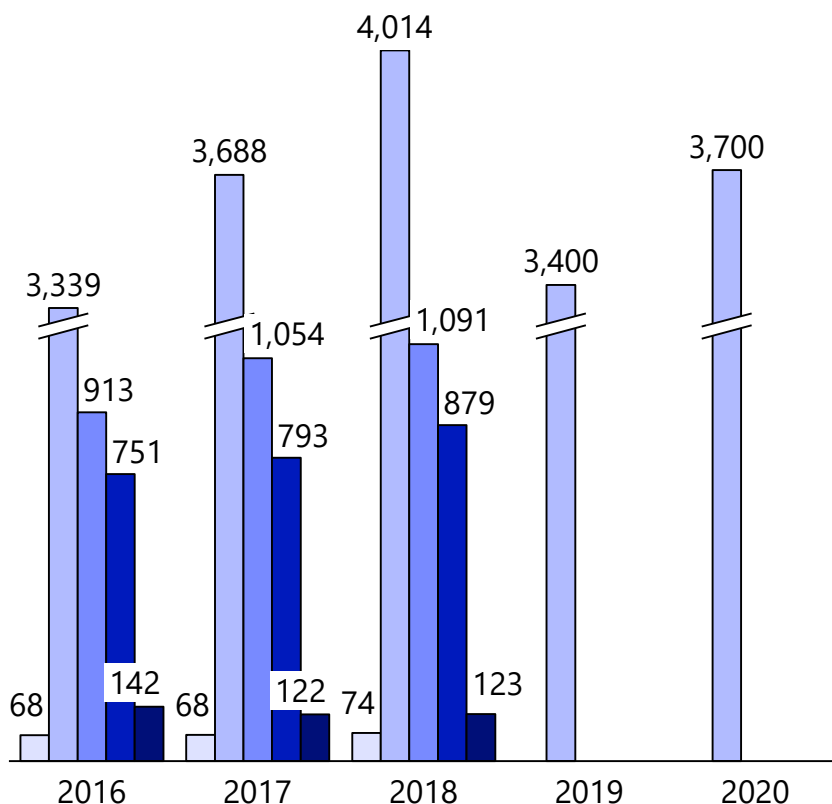


失業した兼業農家の間で農業労働者の解雇が発生し、これら兼業農家の生産量が減少

主要農林水産物の生産量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2019-20はデータなし

キートンド/特徴

穀物：
自然条件に
依存

- 天水栽培が主流
- 悪天候（収穫期の雨）による小麦や豆などの農作物の腐敗やカビ毒（アフラトキシン）リスクにより収穫量が不安定
- 2018年に約1,500万羽のコウヨウチョウが小麦農場に侵入し、農場の約半分の小麦の種子が食べられる被害が発生

肉・魚：
低品質かつ
高価な飼料
への対処

- 2009年より政府が魚の養殖業に投資し養殖場が増加した一方、飼料が不足し低品質な飼料が流通したため、政府は飼料基準を設定
- 商業用飼料は高額で酪農家や養殖場にとってコスト負担が大きいことが課題であったが、近年は農業・製造業の廃棄物を使用した低価格、且つ高品質な飼料の利用が拡大。例えば、ケニア西部の酪農家では醸造所の廃棄物Wet Brewer's Grain (WBG)を使用して月約460ドルの節約に成功

COVID-19による変化

兼業農家の
収穫減少

- ・ 失業により農業外収入が減少した兼業農家により農業労働者が解雇
- ・ 結果として、これら兼業農家の収穫・販売量が減少

政府による
家庭菜園
キット提供

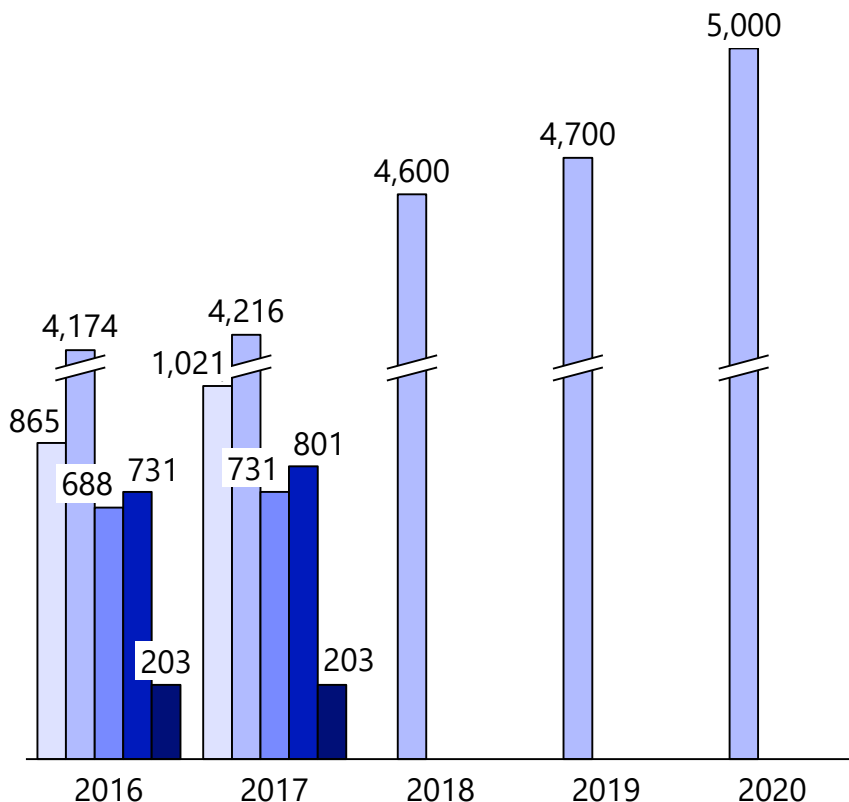
- ・ 政府はCOVID-19影響下の食料危機に備え、農村部・都市部の低所得世帯など100万世帯に家庭菜園キットを提供。また、農業市場への販売を促す方策として、余剰生産者には野菜のソーラードライヤーを提供



COVIDを受けて買い溜めや安価品に嗜好がシフトするなど国民の消費形態・嗜好が変化

主要農林水産物の消費量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類
(2020年は予測)



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2018-20はデータなし

キートrend/特徴

全体：
インフォーマル
市場からの
購入

- 消費者の食料調達の約55%は非公式市場からの購入
- スーパーマーケットなどの公式市場は生産者側の品質管理や店側の衛生管理が不十分なケースも存在。消費者は新鮮な食品を販売するインフォーマル市場を選択
- インフォーマル市場では消費者の好む伝統食材や地元の食材、品種を提供

穀物：
必須食材

- トウモロコシの粉は伝統食品のウガリ（国民の78%が消費）などに使用
- 毎年約200万トンの小麦をパンやペイストリーとして消費

肉：都市部
での消費増加

- 都市部ではホテル、レストラン、家庭での鶏肉の消費が増加
- 食肉処理される家畜の数は年々増加傾向。2018年は前年比で豚約8%、ヤギ約11%、牛約7%上昇

COVID-19による変化

輸送コスト増
による
価格上昇

- 輸送トラックの運転手が陰性証明を受けるための感染検査が課税対象に。消費者価格へ転嫁される見込

消費形態・
嗜好の変化

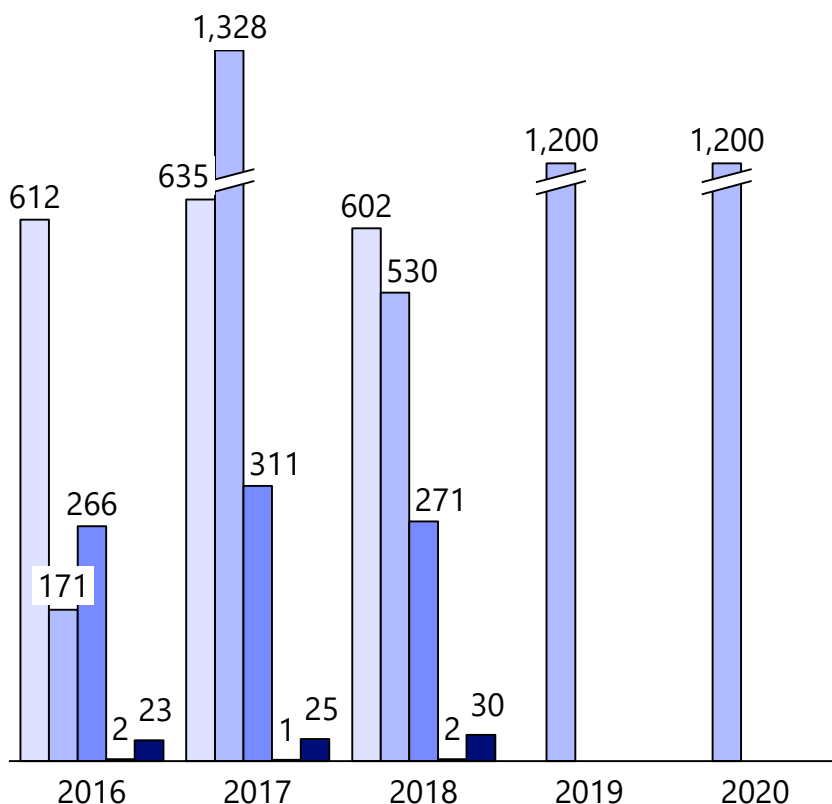
- 4月後半に行われた世論調査（ケニア人対象者400名）では、食品購入頻度低下(60%)、買い物時に大きいパックサイズの商品を購入(42%)、食料確保に不安がある(80%)、通常より安価なブランドの商品に切り替えた(64%)との回答結果

輸入量の減少により、輸入依存度が高い穀物や農業資材の供給不足が発生する可能性

主要農林水産物の輸入量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。米・豆・肉・魚介類の2019-20はデータなし

Source: FAO, ニュース記事

キートrend/特徴

主要輸入元

- トウモロコシ：ウガンダ（64%）、ザンビア、タンザニア（2018年）
- 米：パキスタン（58%）、タイ、インド（2018年）
- 豆：ウガンダ（84%）、エチオピア、タンザニア（2018年）
- 肉：ウガンダ（38%）、ドイツ、スペイン（2018年）
- 魚介類：中国、タンザニア、韓国（輸入額ベース、2018年）

穀物： 輸入依存

- タンザニア、ウガンダなど東アフリカ共同体(EAC)が主要な穀物輸入元
- 人口増加や灌漑化の遅れなどが原因で米、トウモロコシ、小麦などの主食の需要量が国内生産量を超過する年が続いており、輸入が不可欠
- 2017年、雨の遅れとツマジロクサヨトウが国内各地で蔓延し、トウモロコシ収穫量の減少が予測された影響で輸入量は680%近く増加(*)
- 政府は国産小麦の流通を促すため、製粉業者に輸入品ではなく国産の小麦を購入するよう要請

鶏肉：密輸 への対処

- 隣国（ウガンダ等）から違法輸入された鶏肉が安価で市場に出回り、国産品を圧迫
- ケニア家禽飼育協会は政府へ鶏肉の輸入制限を要請

COVID-19による変化

輸出入制限による 食品価格の上昇

- 輸入量減少の結果、特に穀物で供給不足が発生し価格が上昇する可能性
- 航空貨物便数の減少に加え医薬品などの輸入が優先され、**輸入に依存していた種子や肥料、害虫駆除剤の入荷が減少する可能性**

(*) ツマジロクサヨトウはトウモロコシを好む害虫。トウモロコシ農家のある地域で飛来が確認され、主食としての需要を賄うため輸入量を増加。インタビュにて生産トレンドとの整合性を要確認

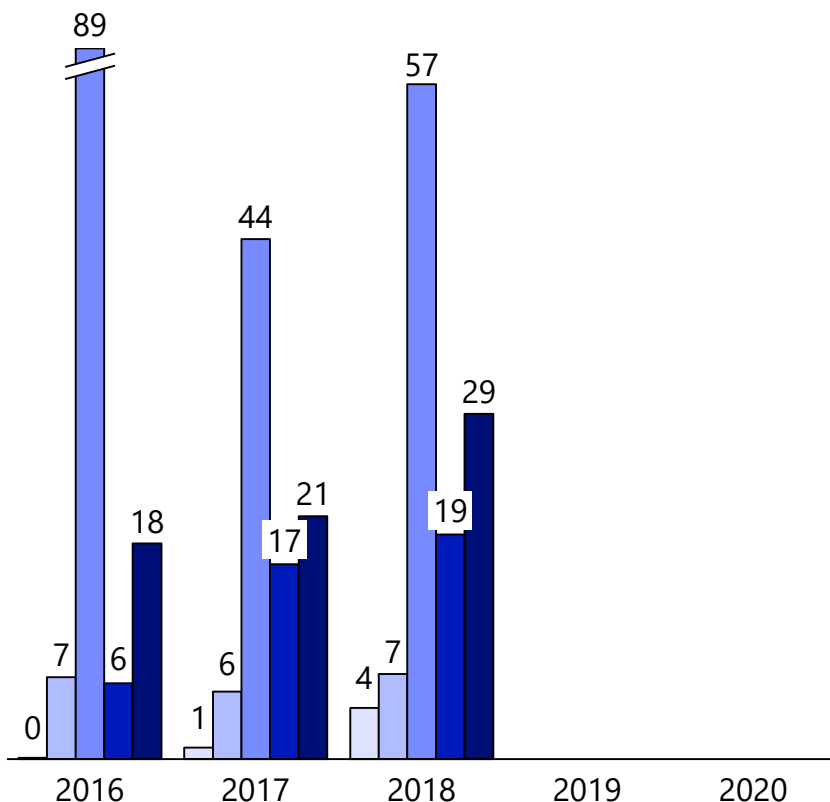


航空輸送の高騰により欧州向け輸出量が1/3に減少。近隣諸国向けの輸出量への影響は軽微

主要農林水産物の輸出量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。2019-20はデータなし

キートrend/特徴

主要輸出先

- トウモロコシ：ウガンダ（58%）、ルワンダ、韓国（2018年）
- 米：ウガンダ（93%）、ルワンダ、タンザニア（2018年）
- 豆：パキスタン（30%）、インド、ウガンダ（2018年）
- 肉：ベトナム（48%）、UAE、オマーン（2018年）
- 魚介類：イタリア、イスラエル、ウガンダ（輸出額ベース、2018年）

全体：高い輸送コスト

- 輸送ルートの複数地点で課される諸税、港の混雑によるPort Chargeなどで輸送コストが上昇
- 税金を支払うための待ち時間で魚が腐るなど食品ロスも発生

豆：悪天候の影響

- 悪天候（平均気温の低下や収穫期の雨など）が続き、茶、インゲン、コーヒーなどの輸出作物の生産量が減少

その他：輸出市場拡大

- 国際市場での需要の高まりを受け、アボカド、マンゴー、カシューナッツの欧州や中国への輸出を拡大。特にアボカドは中国への輸出が年々増加
- 外資系輸出会社は、太平洋島嶼部での供給量減少に伴いケニア産のアボカドに着目。有機栽培されたアボカドの油の加工・輸出を実施

COVID-19による変化

感染対策の必要性

- 夜間外出禁止令/ロックダウン発動中に食品輸送を行う場合、**許可証とトラックの感染対策が義務化**

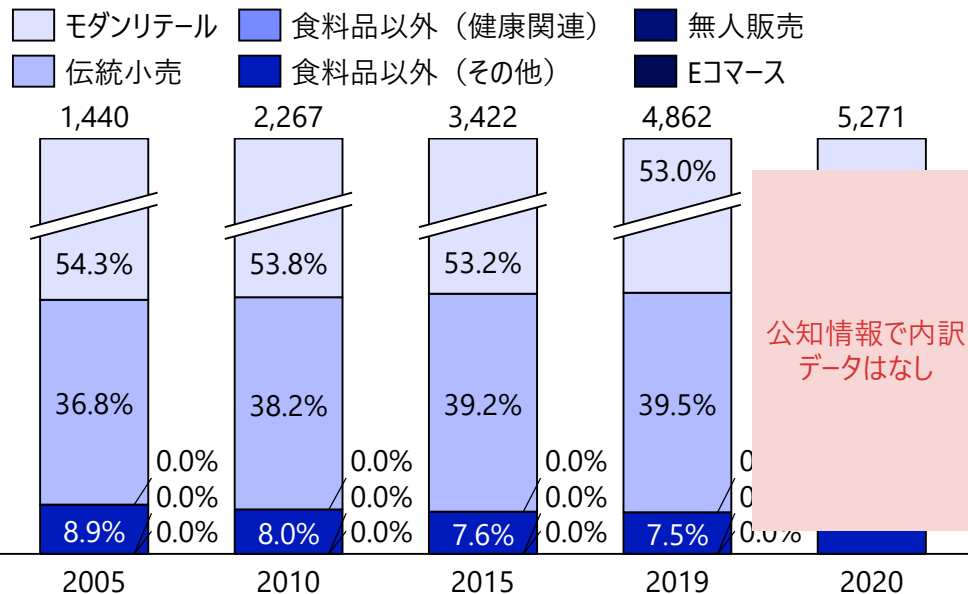
欧州への輸出量の減少

- 欧州向け：利用できる航空貨物量が少なくCOVID-19前と比較して**輸送費が2倍に高騰し、輸出量も3分の1以下に減少**
- 近隣諸国向け：食品輸出については4-5月の輸出額が増加しており、**COVIDの影響は軽微**



包装食品| 小売店の営業時間が短縮。Eコマース利用量はB2B向けが減少する一方、B2C向けが増加 テイクアウト・デリバリー| 主要オンラインデリバリーサービスの利用量が3倍に拡大

包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）



- モダンリテールと伝統小売が主要チャネル
- 伝統小売は利用顧客の好みや購買習慣への理解があり、モダンリテールのシェアを徐々に吸収
- Eコマースはまだニッチな市場だが、現地小売のTuskysが2019年にオンラインストアを開業、Carrefour、NaivasがEコマースのJumiaと契約を締結するなどEコマース参入の動きが見られ今後利用が拡大する可能性
- モダンリテール、伝統小売共に夜間外出禁止令で営業時間を短縮
- Eコマースは必要サービスと見なされ営業を継続。対レストラン等へのB2Bは減少、B2Cの宅配は増加

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

テイクアウト・デリバリーのトレンド（赤色はCOVIDによる影響）

背景	- インターネットの普及（2,620万人、約50%）、モバイルの普及（4,700万人、約90%） - ケニアの食品・飲料の市場価値約81億ドル
テイクアウト：スーパーマーケットデリの広まり	都市部では長時間労働や渋滞により料理時間の節約を志向する消費者がスーパーマーケットのデリを利用
デリバリー：オンラインフードデリバリーサービスの拡大	2013年、Jumia Foodはオンラインレストラン予約エンジンのEatOutと提携しオンラインフードデリバリーを開始 2019年時点でGlovo、Yum deliveries、Uber Eatsなど複数のオンラインフードデリバリーアプリが存在。COVIDを受け、これらオンラインフードデリバリーの注文が3倍に増加
デリバリー：現金支払中心	- 消費者の支払方法としては、代金引換やM-Pesa（プリペイドが可能なモバイル決済サービス）など現金支払が多数 - 銀行口座やクレジットカードを持たない消費者向けに、JumiaやAmazon、Alibabaは小売代理店で支払いができるオプションやM-Pesaを導入
デリバリー：選択肢と利用時間の多様化	- 店の選択肢：KFC、Subwayなど外資系チェーン参入が増加 - 利用時間：夕食での利用が主流だが、近年は昼食・朝食での利用率も増加（2017年 - 夕食60%、昼食36%、朝食4%、2019年 - 夕食54%、昼食41%、朝食5%） - Glovoの取り組み：ドライバへの安全キット提供、レストラン集荷時の人の介入制限など非接触配送を開始

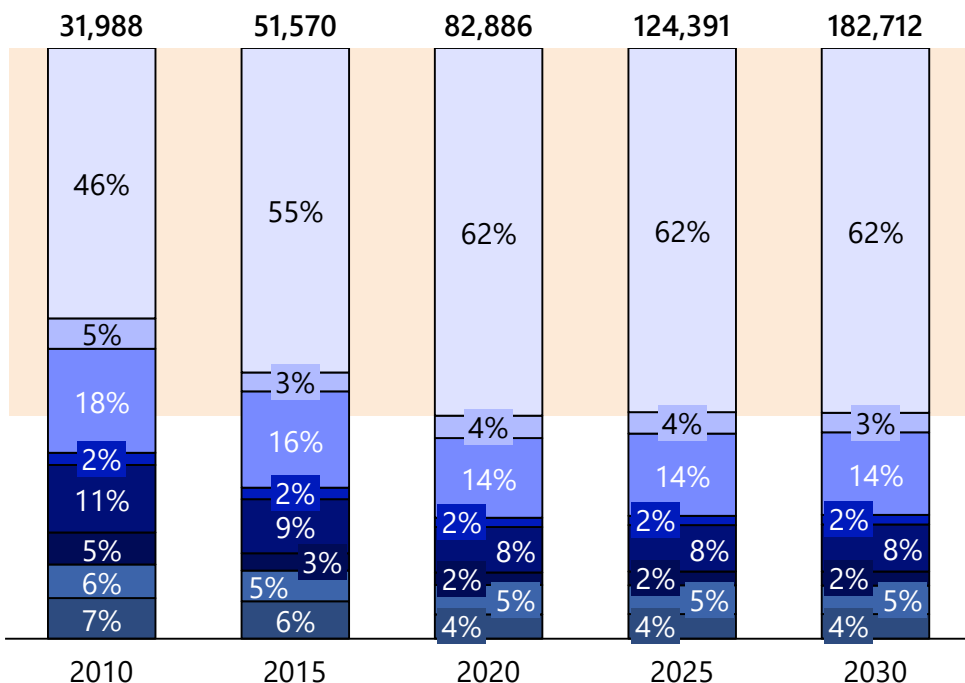
※外食サービスに関する定量データ取得できず

食料品の購入頻度が減少し、一回あたりの購入量が多い買い溜めが増加



消費者支出内訳 (百万ドル)

飲食料 住宅 移動 教育
衣料 健康 レジャー その他



- 消費者支出合計の大半を占め、割合は2010年の46%から2020年には62%まで増加。今後10年において割合に変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で8.5%成長する見込み

(2020年は予測)

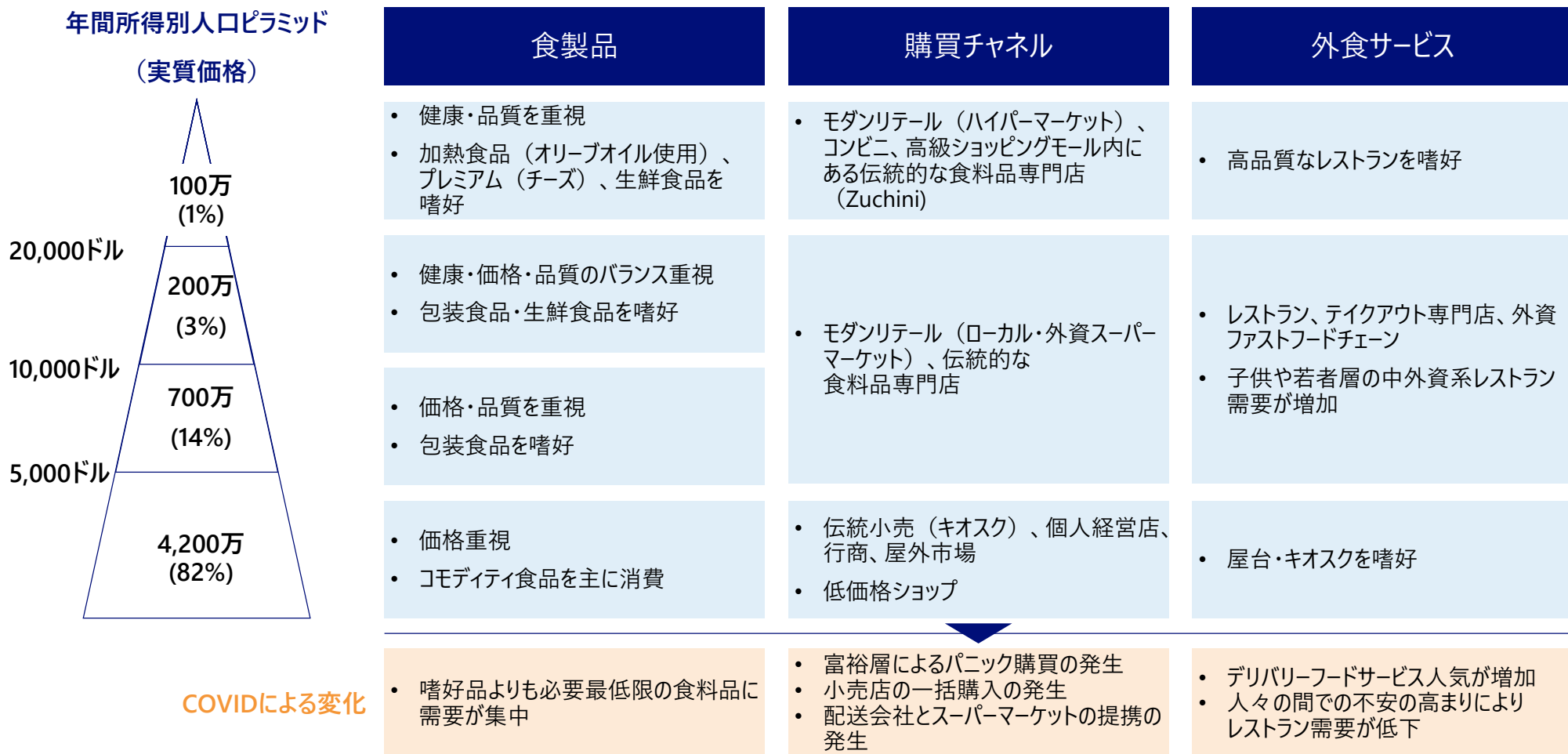
Source: Euromonitor、ニュース記事

主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

背景	- 中間層および富裕層の拡大が食品需要を牽引 - 近隣諸国と比較して高い所得格差が存在
低価格志向がモダンリテールを推進	消費者が低価格商品を好むため、コストパフォーマンスが高い多国籍企業の小売店（スーパーマーケット/ハイパーマーケット）と地元の小売店との間での競争が激化
モダンな外食レストランの人気の高まり	都市化の進行、若者層のキャリア機会の向上、ライフスタイルの変化により、モダンな外食レストラン需要が増加
健康志向の高まり	ケニアでは健康志向が高まっており、特に最も生活にゆとりがあるとされる65歳以上の年齢層の人々が健康・医療関連の商品需要を喚起
外資系外食チェーンの人気の高まり	中間層の台頭と文化の変化（ファストフードを食べる子供への受容性の高まり）により外資系外食チェーンへの人気上昇
営業時間の短縮	夜間府外出禁止令で小売店が営業時間を短縮
購買行動の変化	- 食品購入頻度が低下する一方、買い物時に大きいパックサイズの商品を購入するなど巣ごもり需要が増加 - 飲食料など必需品以外の製品需要、衝動買いが減少 - デリバリーやEコマースでの購入が増加



所得別の消費者行動



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

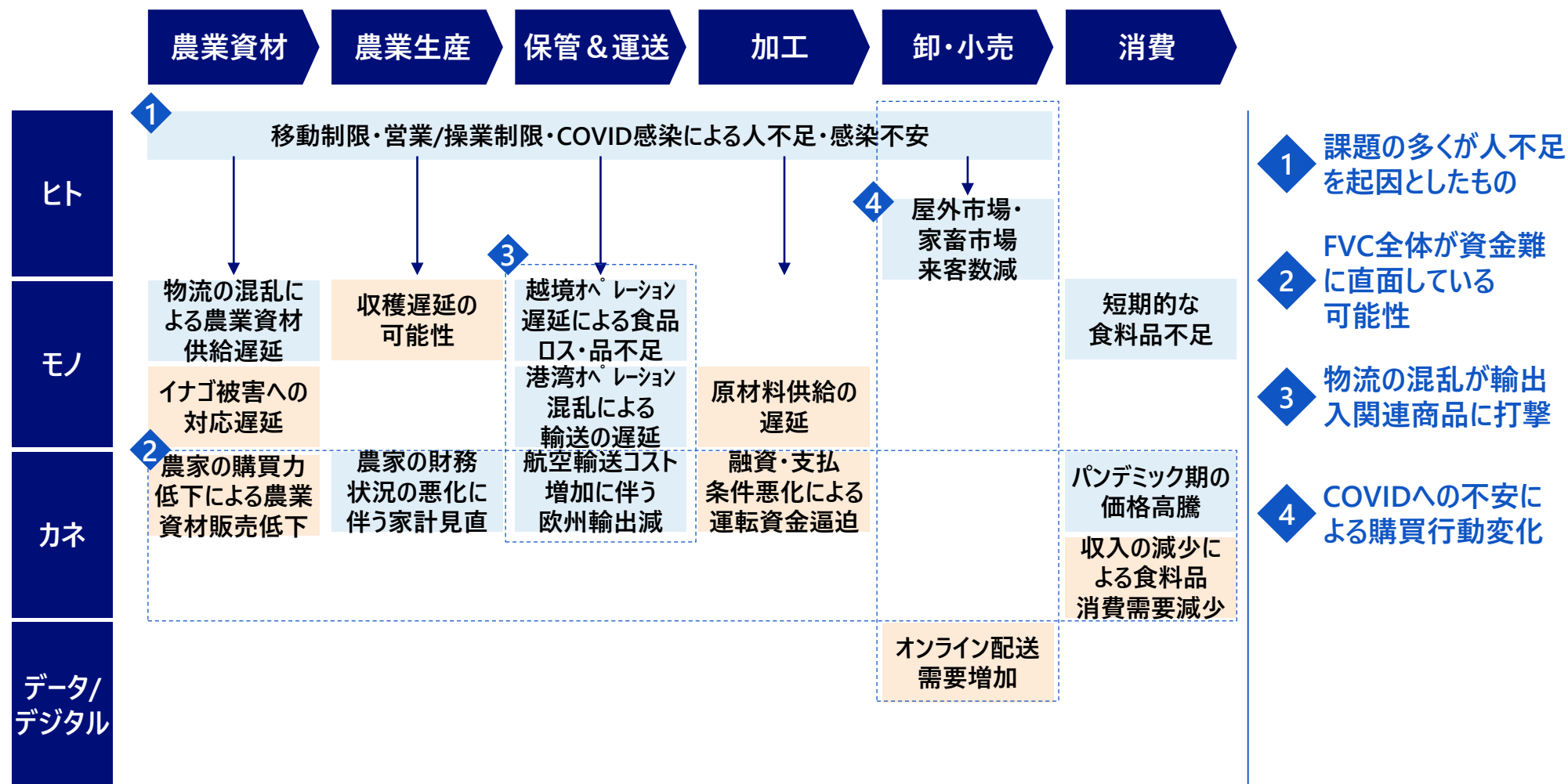
3. ナイジェリア



ケニア コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題

FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

物流の混乱により肥料などの農業資材供給不足が発生。イナゴ被害への対処が遅れる可能性も

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農業資材供給



① ②

物流の混乱による農業
資材供給の遅延

- 都市間の移動制限、夜間外出禁止令、国境閉鎖が肥料や農機など農業資材供給に影響
- 例えば、肥料が港からモンバサに到着するまでに要する時間は本来1日であったところ、港での通関業務の遅れなどの影響により現在は3日に遅延

②

農業資材不足への備え

- 種子や肥料などの不足により来期の作物の植付けに遅延が発生する可能性があるため、これを見越した国内の農業資材物流プレイヤーが資材在庫量を増加

イナゴ被害



②

殺虫剤などの供給遅延
によるイナゴ被害への
対応の遅れ

- ケニアは2019年に大量発生したイナゴに苦しんでおり、2020年現在までに約7万ヘクタールの農地で被害が発生
- 害虫駆除剤などの供給がCOVIDにより遅延することでイナゴ被害がさらに拡大する可能性

農業資材 プレイヤーの収益



② ③

農家の購買力低下に
よる農業資材販売量
低下

- COVIDの影響で農家の収入が減少する結果として農業資材の販売量も減少する可能性



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

財務状況悪化を受け、保険解約など農家による家計見直しが発生。生産では労働者不足の可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農家の財務状況



① ③

農家の財務状況の悪化に伴う家計の見直し

- 都市部や海外からの送金が減少したことで貯蓄額が減少
- 収入や貯蓄額の減少により、農業保険を解約するなど家計の見直しが発生

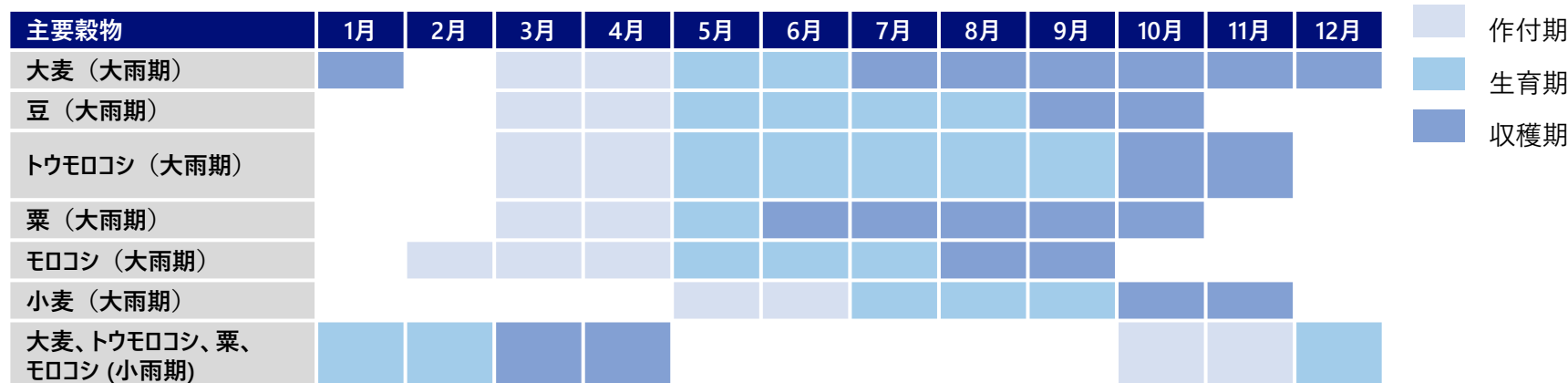
農業生産



①

収穫遅延の可能性

- 大麦、豆、トウモロコシ、粟、モロコシ、小麦などの主要農産物の生産は、種付、収穫、収穫後の処理など多くの工程を近隣の町や集落から移動してくる季節労働者に依存
- 州間移動制限により、今シーズンおよび来シーズン向け準備のための農作業員不足が発生している可能性





COVID-19 により顕在化したFVC の課題

欧州向け輸出は航空輸送費の高騰、近隣諸国との輸出入は国境での遅延が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

航空輸送



② ③

航空輸送コスト増加に伴う欧州向け輸出減少

- 航空貨物輸送コストが2.8米ドル/KGから4米ドル/KGに上昇し、食品価格・航空輸出に影響
- 欧州諸国のロックダウンやケニアの国際線停止により、花、野菜、ハーブ、果物など園芸農作物の欧州向け輸出量が50%減少（欧州はケニアの園芸農業作物の主要輸出先）
- 輸血量減少の結果、例えば園芸産業では350万ドル/日の損失が発生（ケニア生鮮食品輸出協会談）。またケニア第3位の輸出業者であるAAA Growersによるオランダへの花の輸血量は、140万本/週（COVID以前）からほぼゼロにまで減少

陸上輸送



①

越境オペレーションの遅延による生鮮食品のロス・品不足

- トラック輸送の制限が国内流通および近隣諸国への輸出に影響
- 例えば、6月から開始されたタンザニアとの国境間でのCOVID-19検査やルワンダへの入国制限（ルワンダ人ドライバーのみ許可）により国境地帯での輸送で遅延が発生
- 結果として生鮮品のロスが発生しており、ナイロビのスーパーでは生鮮食料品が不足

船舶輸送



①

港湾での検査などCOVIDオペレーションによる輸送の遅延

- 港湾施設はCOVID下においても稼働を継続
- ただし、港湾におけるトラックドライバーの検査などが原因で通常時と比べて遅延が発生



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

融資条件や支払条件が悪化したことで運転資金の逼迫が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

資金



③

融資条件・支払条件の悪化による運転資金の逼迫

- 融資の減少、サプライヤーによる支払条件の変更により流動性や企業の運転資金の逼迫が発生。食品加工業界においても、食品原料サプライヤーが支払日の延長停止を通告するなどの事例が発生

原料調達



②

原材料供給の遅延

- 物流の混乱により原料供給に遅延が発生する可能性
- 例えばトウモロコシでは、夜間外出禁止令が輸送に影響を与えることを恐れ、長距離輸送に不安を感じるサプライヤーも存在



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

外出制限・移動制限により市場アクセスが減少。消費者の間でもリアル店舗での消費に不安が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農作物・家畜 流通



① ③

屋外市場への来客数 減少

- 主要な屋外市場は営業していたものの、外出制限によるアクセス制限、混雑した場所での感染の恐れ、消費者の収入低下などが原因で来客数が減少

① ②

家畜市場へのアクセス 制限

- 家畜市場が営業停止された影響で畜産農家・卸・小売業者の収入が低下
- 移動制限により農場内販売機会も減少

購買チャネル



①

店舗における食料品 購買への不安

- COVIDの影響で、ソーシャルディスタンスの観点や農作物の新鮮度への不安から、個人販売店から直接購入することに不安を感じる消費者も存在。こうした不安が全土に広がっている可能性

②

オンラインデリバリー需要 増加

- ワークフロムホームの勤務体系が浸透した結果、食品のデリバリー需要が増加
- その結果、レストランによるUber、Safe Boda、Glovo & Jumiaなどのオンラインデリバリー業者の活用が活発化していく見通し



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

物流の混乱などの影響で食料品不足と価格高騰に直面

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

食料品流通



① ②

短期的な食料品不足

- ・ 移動制限など物流の混乱が原因でケニアの一部で短期的な食料品不足が発生
- ・ 特にナイロビのスーパーでは生鮮品が不足

食料品価格



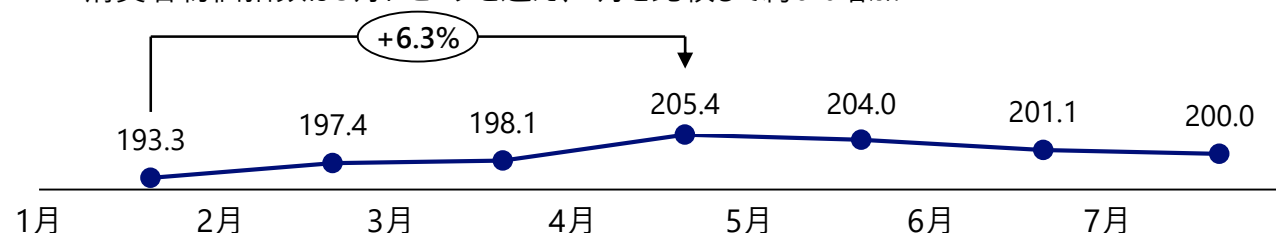
②

パンデミック期間における
価格高騰

- ・ ナイロビでは生鮮品が90%高騰するなど、供給不足により食料品価格が高騰

消費者物価指数 (2020年1月—7月) (2010年12月を100とする)

- ・ 消費者物価指数は5月にピークを迎え、1月と比較して約6%増加



- ・ 食料価格についてはCOVID期間中に4.2%増加

世帯収入



③

世帯収入の減少による
食料品消費需要減少

- ・ ロックダウンはとりわけインフォーマルセクターの家計収入に影響。世帯収入の減少が食料品消費にも影響を与える可能性

コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

3. ナイジェリア



南アフリカ コンテンツ&サマリ - COVID-19により顕在化したFVCの課題&現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り

課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

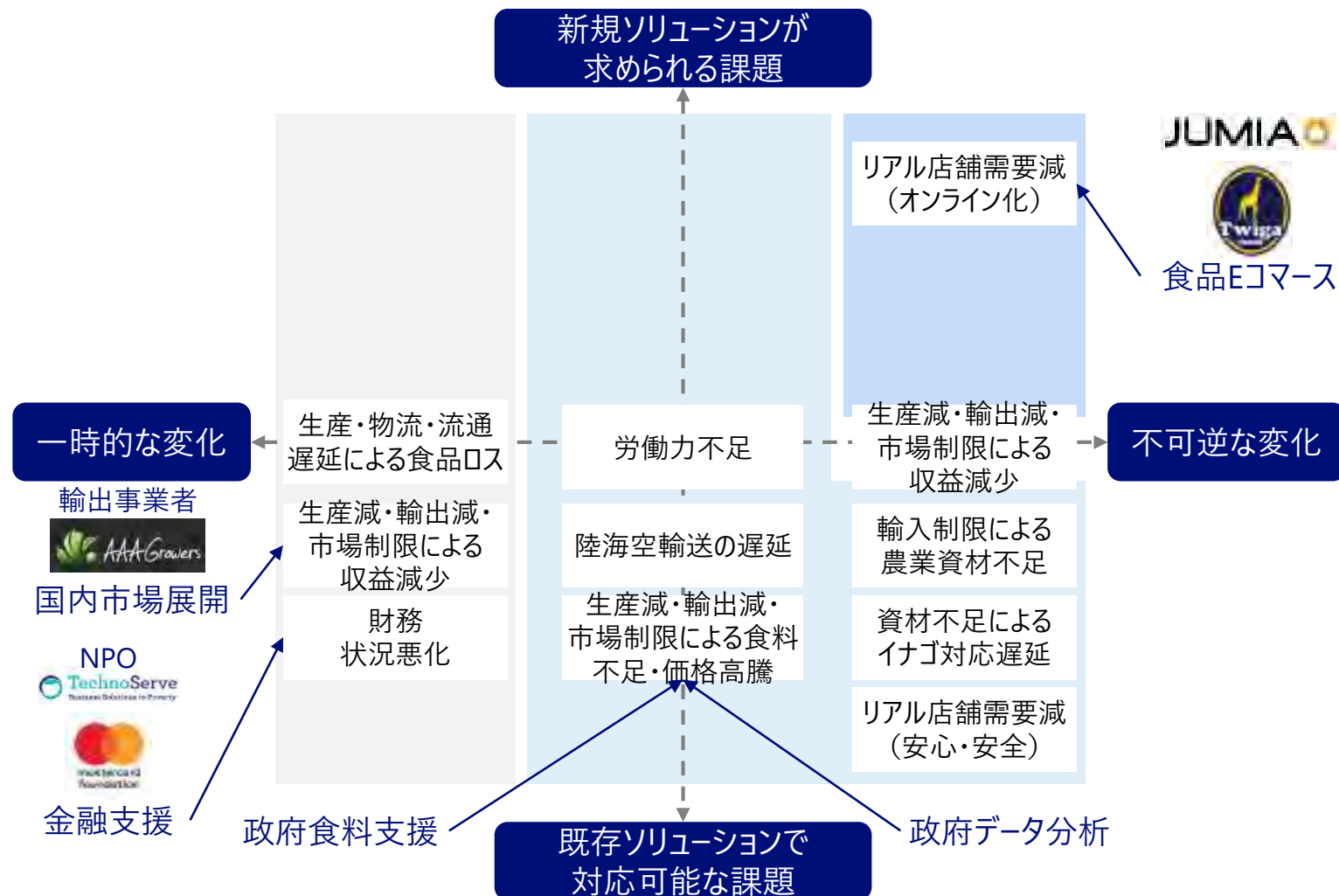
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応





現地FVC 再構築に向けた最新動向

多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済

		COVID-19による制限	2020年10月現在の状況
個人	国内移動	3月にすべての国内航空便を停止 4月にナイロビ・モンバサ・マンデラへの出入りを制限（食料輸送事業者を除く） 3月に午後7時から午前5時までの外出を禁止	7月よりすべての国内航空移動制限およびナイロビ・モンバサ・マンデラへの出入り制限を解除 9月より外出禁止時間を午後11時から午前4時までの間に短縮。夜間外出禁止は11月まで継続予定
	国際移動	3月に緊急便・貨物便を除くすべての国際航空便を停止	8月より国際航空便を再開。PCR検査の陰性証明を有する場合は強制隔離を免除
	その他	結婚式場、モール、ナイトクラブ、教会での集会を禁止。病院への来院を制限	9月より集会人数の上限を200人まで緩和
ビジネス	農業	食品・農業活動は必須サービスに認定	-
	ロジスティクス	5月にケニア-タンザニア、ケニア-ソマリ間で出入国制限（検査済みのドライバーによる貨物輸送は除外）	6月よりケニア-タンザニア、ケニア-ソマリ間の出入国を再開
	製造業	製造業そのものに制限は無いものの、人・モノの移動が間接的に影響	-
	小売・レストラン	- テイクアウトを除く外食サービスの停止 - 必須製品以外の製品を扱う小売は来店人数の制限の上で営業継続	9月より外食サービスが再開 （営業時間は午後10時まで）



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

農家向けには中長期、消費者向けには緊急的な措置を実施

対象	政策	政策概要	インパクト
農家	園芸産業に対する金融支援	- 生鮮食品を扱う農家向けに中長期的な競争力を向上を目指し約1,400万ドルの経済支援策を発表 - 内訳は以下の二つ：農家の生産性・マーケティング力向上支援、国際基準を順守できるレベルに到達するため温水処理・燻蒸設備などのインフラへの投資	農家の中長期的な生産性向上に貢献
FVC全体	食料の供給・価格状況把握のための管理ユニット設置	- 食料安全保障を確保するための中央戦略・計画ハブを立ち上げ - 同ハブにおいて、デジタルツール・データ収集システムを導入することで、食料の供給情報、アクセスのしやすさ、価格などを管理し、同時にバリューチェーン関係者を支援 - 政府の介入が必要なポイントを把握するため、コモディティ農作物10品目に関して価格データ・供給情報を収集	食料品不足・価格高騰への迅速対応を実現
消費者	低所得者層100万世帯に家庭菜園キット提供	- 食料不足の影響緩和を目的として、農務省は低所得者層100万世帯に対して家庭菜園キットを提供 - キットはお菓子・種子・ネット・水槽を含む	低所得者層への短期的なダメージを軽減
農家・加工業者・消費者	400万袋のトウモロコシ輸入	- 食用・肥料用として400万袋（1袋90kg）のトウモロコシの輸入を承認 - 政府が備蓄しているトウモロコシはアフマトキシンに汚染されていることもあり食用に使えず、備蓄量が不十分だったことが輸入措置に至った要因	短期的なトウモロコシ不足を軽減



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

国内大手輸出業者AAA Growersは、輸出売上の損失を補填するため国内市場向けに農産物を販売

輸出業者の国内市場強化

農業資材

農業生産

保管&運送

加工

卸・小売

消費

- AAA Growersはケニアで3番目に大きい輸出業者で、ヨーロッパ全土に高級バラ、果物、野菜を輸出
- COVIDへの影響により、AAAのオランダへの花の輸出量は、140万本/週（COVID以前）からほぼゼロにまで減少
- 損失を補填するため、AAAはCarrefour、Quick Mart、KFCなどの有名小売店と提携し、国内での販売を促進





現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

共にEコマース企業であるJumiaとTwigaは提携を通じて消費者に食品のオンライン配送を実現

生鮮・加工食品のオンライン流通

農業資材

農業生産

保管&運送

加工

卸・小売

消費

- COVIDを受け、アフリカ全土で事業を展開する消費者向けEコマース企業のJumiaと、農家と食品加工業者をつなげるオンラインプラットフォームを展開する農業物流企業のTwigaが提携を発表
- 提携は安全で手ごろな食品を消費者に届けることが目的。提携によりJumiaのプラットフォームを通じたTwigaの生鮮・加工食品の消費者への販売・配送を実現
- 具体的には、Jumiaのウェブサイト・アプリ上でTwiga商品の注文が入ると、Jumiaの配送員がTwigaの倉庫・配送センターから商品をピックアップするオペレーション
- 消費者は、支払にJumiaPayを使うことで注文から配送まですべてオンラインで完結させることが可能



消費者向けEコマースのJumiaとB2B食品EコマースのTwiga Foods,が提携を発表

JUMIA



Jumiaのプラットフォーム上でTwiga商品を販売



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

NPOのTechnoServeとMastercard基金は約2万8千の零細小売業者向けに金融支援を提供

零細小売業者向け金融支援

農業資材

農業生産

保管 & 運送

加工

卸・小売

消費

- 政府によるCOVID封じ込め政策はサプライチェーンの混乱・労働者不足・需要低下などを引き起こし、特に零細小売業者にとって大きな打撃
- 係る状況下において、貧困支援を目指すNPOのTechnoServeとMastercard基金が零細小売業者を支援することを目的に提携
- 二つの団体はMicro-Enterprises Strengthened for Pandemic Adaptation and Resilience in Kenya (mSPARK) プログラムを立ち上げ、ナイロビ・モンバサ・キリフィで事業を構える2万8千の小売事業者に金融支援、専門的アドバイス、必要に応じてCOVID下に適応するためのスキル開発支援を提供
- さらに、mSPARK はフィンテック企業である4G Capitalとも提携し、緊急的な運転資金ニーズ に対応するための助成金（返済義務有）を提供



NPOのTechnoServeと Mastercard基金が零細小売業者への金融支援で提携



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

世界銀行はケニアの農家向けに補助金を交付。電子クーポンにより農薬などの購入を支援

世界銀行による農家向け金融支援

農業資材

農業生産

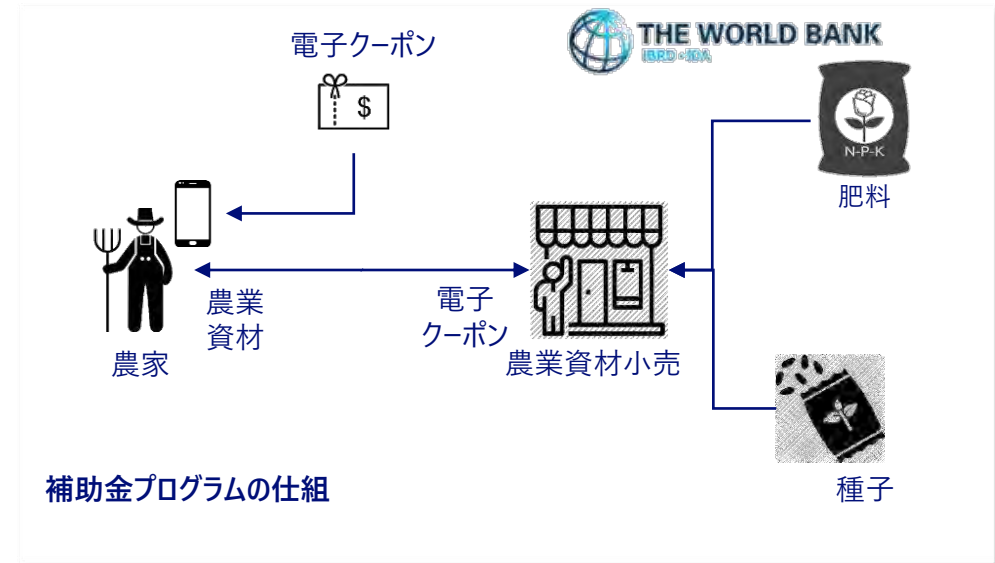
保管 & 運送

加工

卸・小売

消費

- 5月20日、世界銀行は、低所得層および農家を支援し経済格差を軽減するために10億ドルの予算支援を発表
- 農家に対しては、補助金プログラムを通じた農業資材へのアクセス改善を支援
- 具体的には、肥料・種子・農薬などを購入可能な電子クーポンを農家の携帯端末に送付。これにより、農家による近くの農業資材販売店での必要物資購入を実現
- 効果として、農業資材サプライヤーの収益、農家の生産性が向上する見込み



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

3. ナイジェリア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

令和2年度COVID-19によるグローバル・フードバリューチェーンへの影響分析調査（アフリカ地域）ナイジェリア 2020年10月

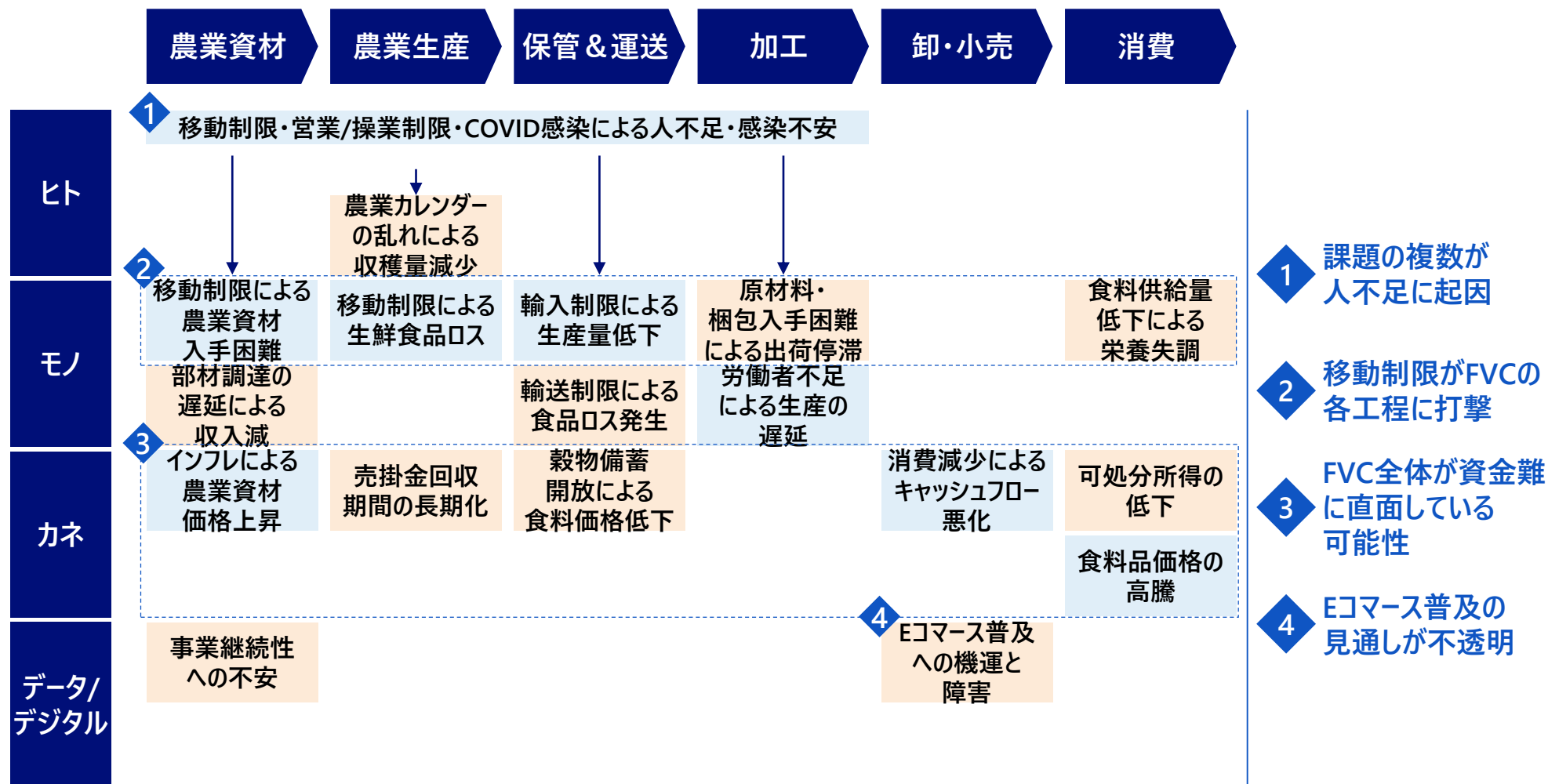
ナイジェリアの2020年10月号のコンテンツとサマリは下記の通り



報告内容	目次	サマリ	ページ
COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し調査	主要な農産物の生産量	COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新計画を発表	76
	主要な農林水産物の消費量	CPIが約8%上昇するなど食品価格が高騰	77
	主要な農産物・食品の輸出量・輸入量	輸入 国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性 輸出 国境封鎖の影響で減少する可能性	78,79
	Eコマースによる取扱量	Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在	80
	テイクアウト・デリバリーによる取扱量	デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性	80
	消費者マインド	レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目	81,82
COVID-19により顕在化したFVCの課題調査	農業資材	農業資材の輸入価格が増加し、移動制限による供給遅延も相まって入手困難	85
	農業生産	労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性	86,87
	保管・輸送	輸入制限により農業生産が減少。また各地で食品ロスが発生している可能性	88
	加工	労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生	89
	卸・小売	リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性	90
	消費	価格高騰が発生。また供給量の減少も相まって食料へのアクセスが制限されている可能性	91
現地FVC再構築に向けた最新動向調査	各種制限の緩和の動き	多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済	94
	政府の支援策	農家向け 資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施 FVC全体向け 金融支援、雇用創出に注力	95,96
	民間企業の事業動向	ドローンによる消毒剤散布/ バイクによる配送サービス/ 輸出向け割引/ トマト工場建設/ 食品寄付 など	97-100
	第3国(企業)・国際組織の動向	生産者向けトレーニング/ 政府プロジェクト支援 など	101-103

FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

ナイジェリア コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り



課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

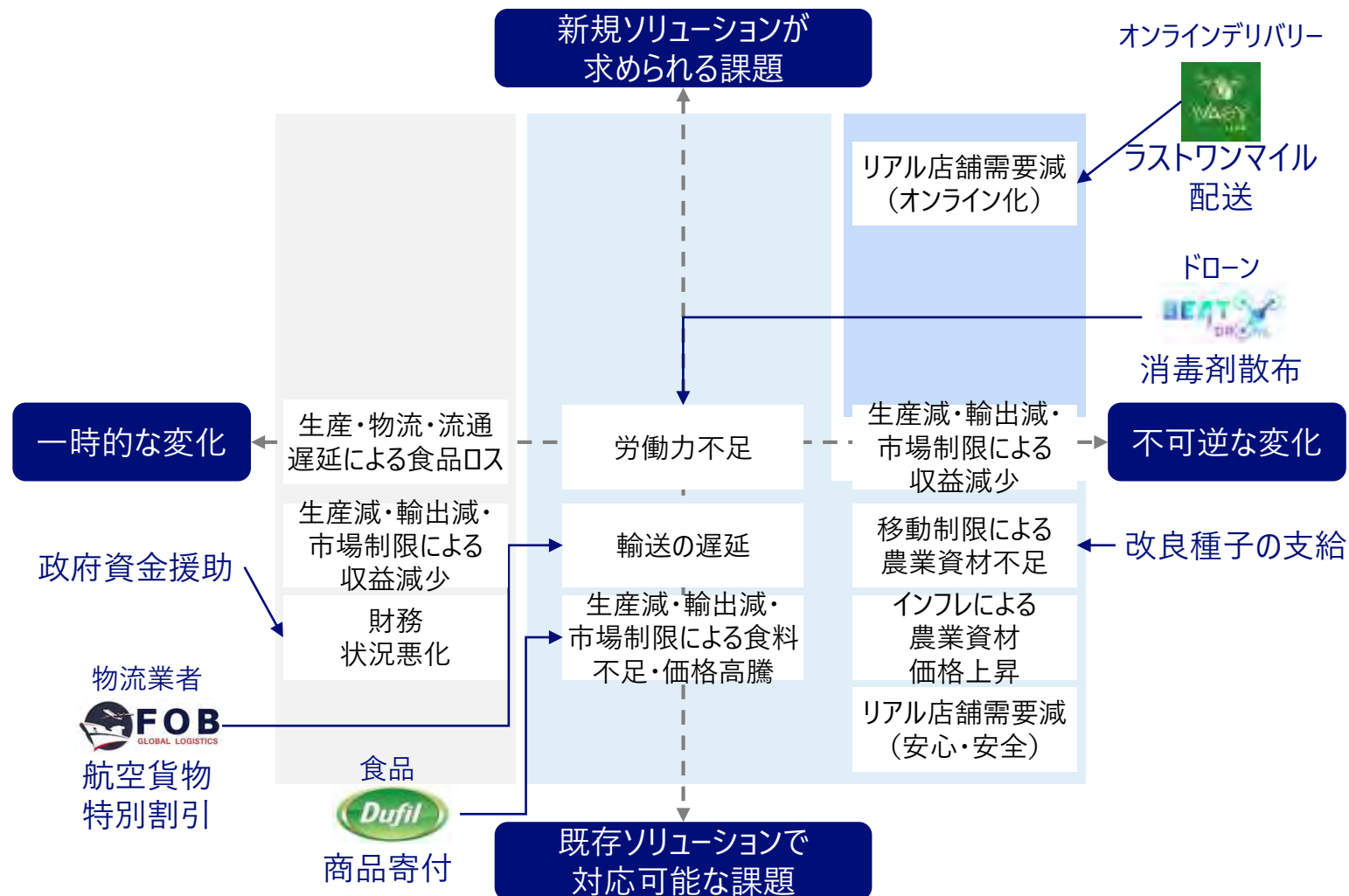
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸—
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸—
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

3. ナイジェリア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

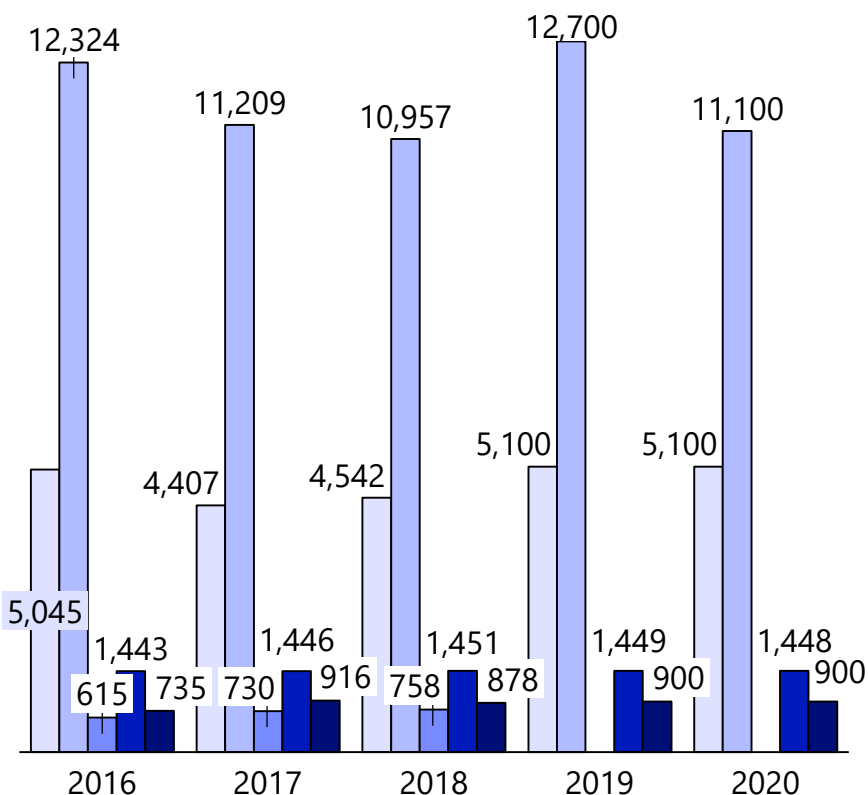
3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

COVIDによる生産への影響は軽微であると見込まれているが、政府は対策として新たな計画を発表

主要農林水産物の生産量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆は2019-20データなし

キートンド/特徴

米：低い生産効率

- 1ha当たりの米の平均収量は約2トンで世界平均の約半分
- 灌漑化率が低く、1%(世界平均は20%)。灌漑設備不足や機械化の遅れにより手作業が発生し、生産効率が低く米の需要に対して生産が追いつかない状況
- 小規模農家が80%、大企業（Coscharisグループ、Dangote、Olamなど）が20%を生産しているが、多くを占める小規模農家の収入ではトラクターなどの農業器具が入手困難

肉：食肉産業への投資促進

- ナイジェリア畜産学研究所（NIAS）が動物性タンパク質の需要に応えるため家畜生産を6倍にすることを提唱し、政府もこれを推進

COVID-19による変化

生産量への影響薄

- 2020年の各食品の生産量は例年並みになる見通し。
COVID-19による生産量への影響は薄い可能性

国内生産商機拡大

- ①COVIDに対策として政府が打ち出した「ナイジェリア経済持続可能性計画2020（NESP2020）」の中の新規開墾計画、②陸路国境封鎖措置、③食品や農産品の輸入決済での外為禁止の影響で、**国内生産に商機が拡大**

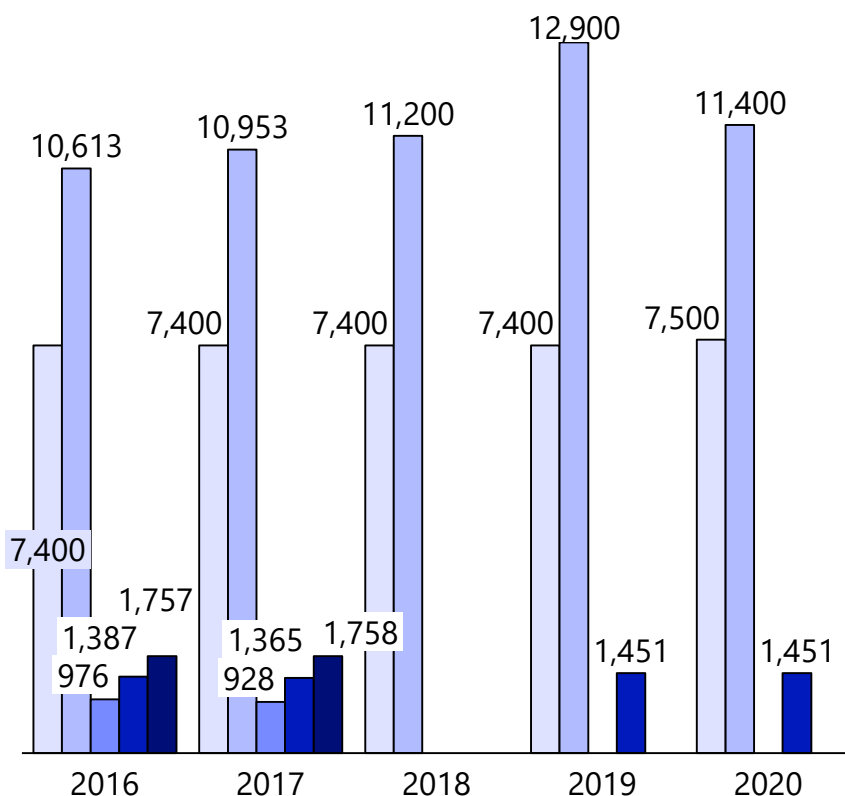
COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し | 消費量

CPIが約8%上昇するなど食品価格が高騰

主要農林水産物の消費量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類は2019-20、肉は2018データなし

Source: FAO, Euromonitor, ニュース記事

キートrend/特徴

米：
輸入制限での
価格上昇

- 輸入規制の影響で、規制前の2018年7月と比べて米の価格が約2倍に上昇（ラゴスでは50 kgの米袋1つが約63ドル）

肉：食肉の
消費状況

- 年間36万トンの牛肉を消費、2050年までに4倍に成長見込み
- 年間約200万トンの家禽肉を消費
- 牛肉、羊肉、山羊肉の供給は需要の半分未満、牛乳や豚肉製品は4分の1未満

肉・魚介類：
タンパク質
不足と対応

- 平均的なナイジェリア人の食事ではタンパク質が必要摂取量より約20%低く（FAO, 2009年）、タンパク質欠乏症となり栄養失調、発育阻害、感染症などの健康被害が発生（PAA※, 2020）
- PAAは大豆収穫量を増やすため政府や国内外の団体と協力し、若者など500人に生産知識・スキルを訓練するカリキュラムを開始（団体は米国大豆輸出評議会(USSOY)、ナイジェリア栄養協会(NSN)、ナイジェリア畜産学研究所(NIAS)、国際熱帯農業研究所(IITA)等）

COVID-19による変化

価格上昇
による負担増

- ロックダウンによりFVC上流の農業資材制限、輸送制限がかかり**食品価格が高騰。米の値段は8%上昇**
- パン、シリアル、魚、肉などの価格上昇により**食品の消費者物価指数は2020年1月～7月で約8%上昇**
- 学校閉鎖で給食がなくなり**低所得層の食費の負担が増加**

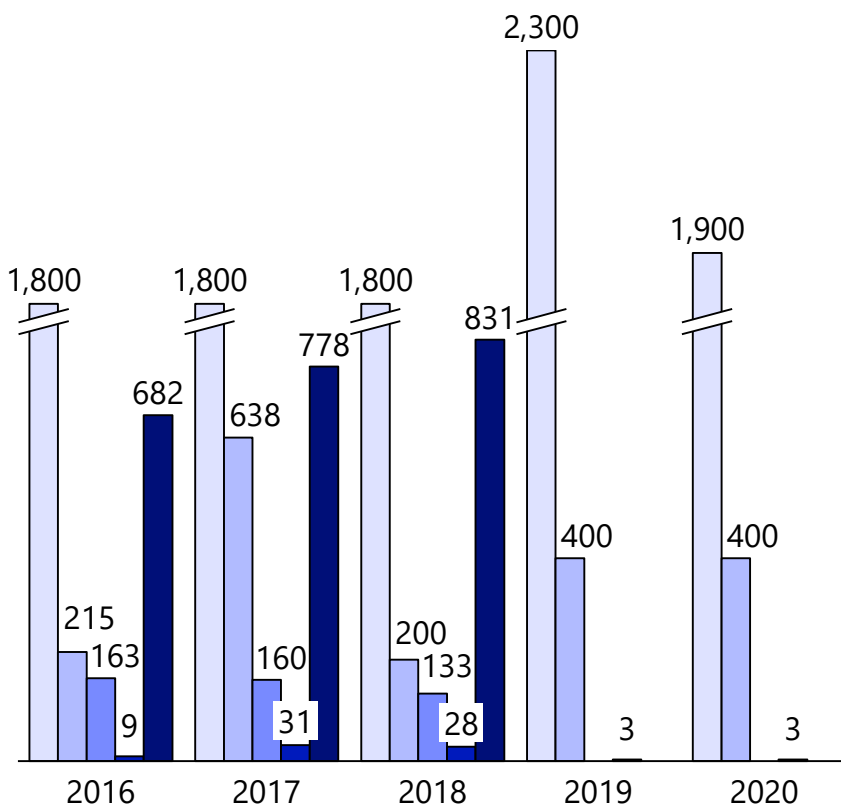
※PAA：プレミアアグリビジネスアカデミー。ナイジェリアの農業ビジネストレーニング機関

国境封鎖により物流が混乱した影響で特に米などで減少する可能性

主要農林水産物の輸入量推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類は2019-20データなし

キートrend/特徴

主要輸入元

- トウモロコシ：アルゼンチン、中国（2018）
- 米：ブラジル、インド（2018） 豆：中国、ニジュール（2018）
- 肉：中国（2018） 魚介類：オランダ、チリ、ロシア（2018）

全体：需要大を輸入で対応

- 生産・輸送能力の低さと人口増加により食料供給が不足し輸入に依存
- 2006年～2019年上半期にかけて、国内生産を増強するために農産物（米、小麦粉、魚、鶏肉、牛肉など）の輸入に約1億ドルを投資

米：国産品保護のための輸入規制

- 2015年、米の自給自足に向け中央銀行は米の輸入への外国為替の使用を禁止、港経由の輸入に対して70%の関税付与
- 2019年8月、政府は隣国ベナンからの米の密輸対策のため国境を封鎖。エコノミストらは産業の発展や外国投資の阻害要因になると批判

肉：食肉輸入拡大による失業

- 国内で食肉処理される家畜のうち、30%を隣国から輸入。また、家禽肉の消費量（年間約200万トン）のうち70%が輸入、あるいは密輸されたもの。食肉の供給に占める輸入の割合が高い状況
- 低品質だが低価格の輸入肉が国内市場へ出回った影響で、養鶏場をはじめとする家禽ビジネスやその雇用が消失

COVID-19による変化

国境封鎖による食料減

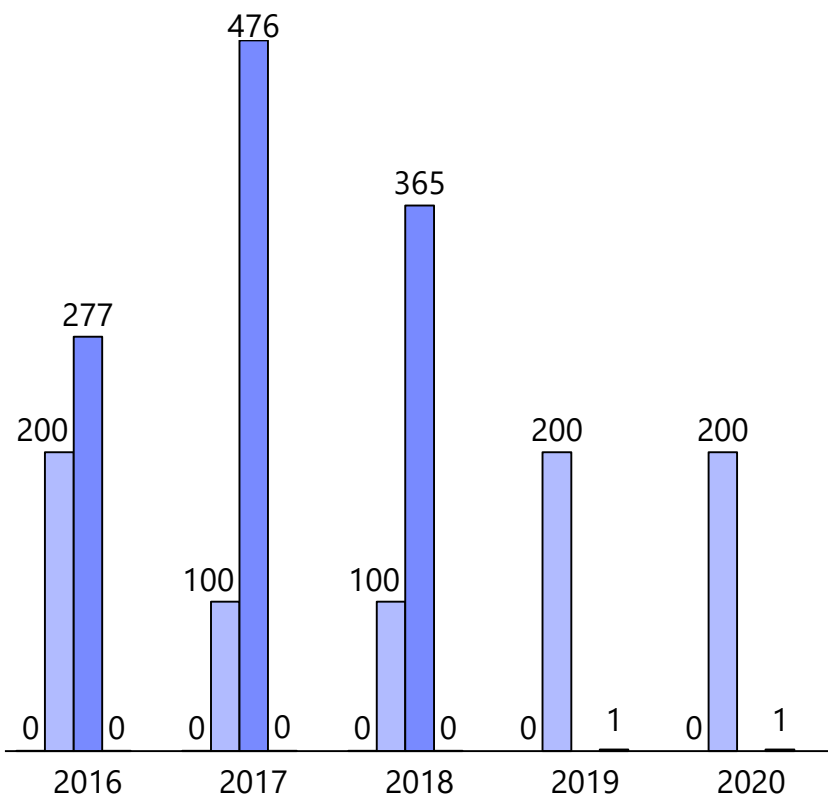
- ロックダウンの国境封鎖で物流が混乱し、米、肉等で**輸入食品による食料供給が減少する可能性**

国境封鎖の影響で減少する可能性

主要農林水産物の輸出品推移, 2016-2020 (千トン)

米 トウモロコシ 豆 肉 魚介類

(2020年は予測)



※データはFAOを使用。豆・魚介類は2019-20データなし

※0と記載のあるものは百トン以下のもの

Source: FAO、Euromonitor、ニュース記事

キートrend/特徴

主要輸先

- トウモロコシ：ガーナ（2018）
- 米：データなし（2016-2018）
- 豆：インド、アメリカ、ガーナ（2018）
- 肉：ベトナム、中国、ミャンマー（2018）
- 魚介類：オランダ、ベルギー（2018）

全体： 石油から 農作物へ

- ナイジェリア輸出促進評議会（NEPC）は石油依存(80%)からの脱退を目指しており、農作物は石油に代わる主要輸出品の候補
- 候補として注目されている輸出品の一例は、50億ドル市場といわれる生姜。有機栽培を行うなど欧州や中東の国際市場を視野に入れた栽培をすでに開始

全体： 国際市場 進出への課題

- 主要輸出品として国際市場に出すに当たり、農業資材の品質の低さや技術不足、国際的なバイヤーとのつながりの欠如などの課題に直面
- 州政府と企業は連携して課題の解決に向けた取り組みを進行（デジタルで農場投資を促すFarmcrowdyなど）

COVID-19による変化

輸出業者 移動制限

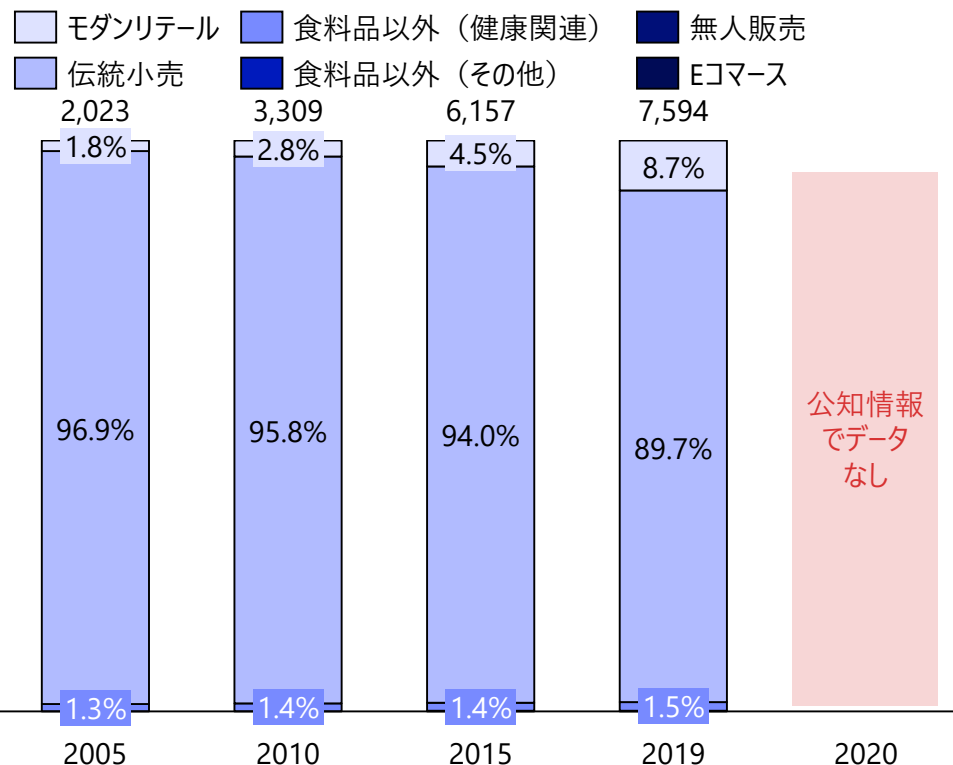
- 国境封鎖により輸出業者の移動が制限され、輸出品が減少する可能性

輸出促進

- 輸出業者の活動促進のため、NEPCはFree on Board（FOB）Global Logistics Limitedと提携しラゴスからロンドンへの特別割引航空貨物サービスを導入

包装食品| Eコマースへの機運が高まり需要が増加するとの意見とともに普及に否定的な意見も存在
 外食サービス| デリバリー事業に参入するスーパーが登場しており、取扱量が増加していく可能性

包装食品の販売チャネル割合（百万ドル）

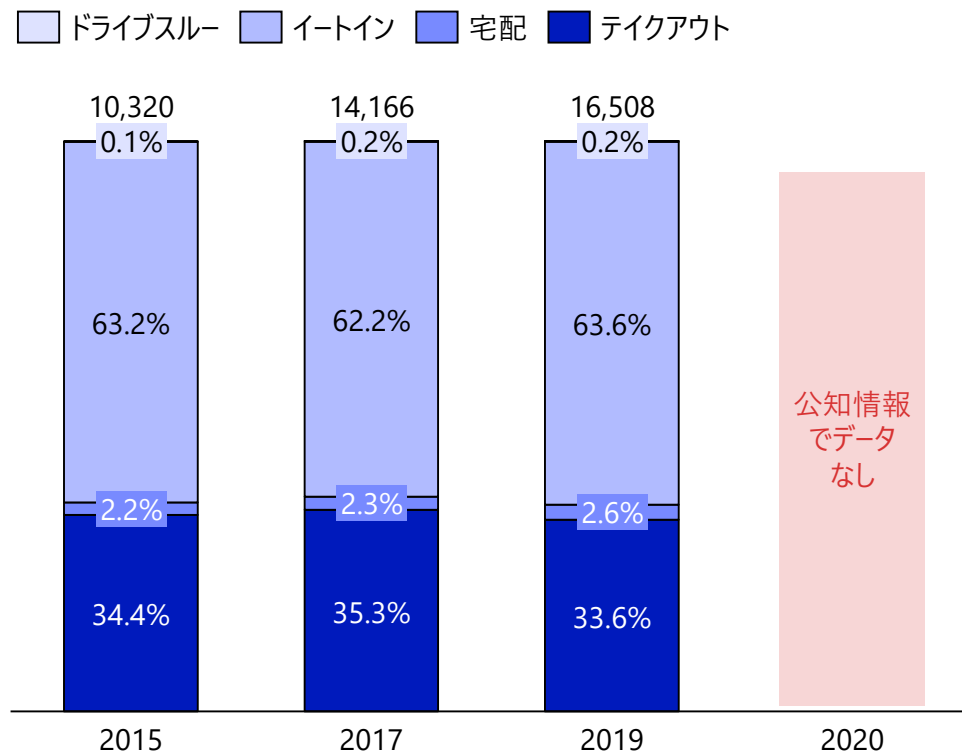


- 包装食品の主要チャネルは伝統小売（個人経営小売店、食品・飲料・タバコなどの専門店）
- COVIDに起因する消費者のEコマース利用拡大は見られないという見解と、Eコマース需要が増加するという見解が混在。
 WAeYなどEコマースに参入する企業の動きは活発化

(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

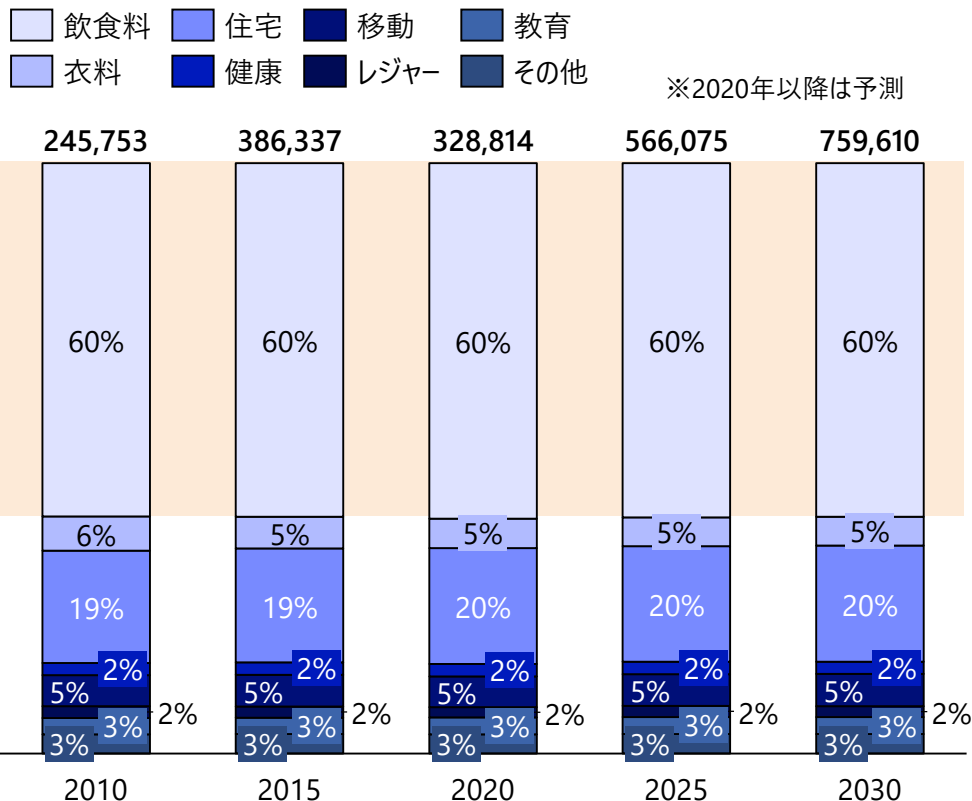
外食サービスの利用チャネル割合（百万ドル）



- イートインとテイクアウトで外食の98%の割合
- 高級ホテルやレストランは、デリバリーやテイクアウトに注力
- スーパーマーケットチェーンSPARは夜間外出禁止令で営業時間を短縮後、デリバリー事業に新規参入し新しいチャネルを開拓

レストランの営業停止や小売店の取引先閉鎖でオンライン取引やデリバリーに注目

消費者支出内訳 (百万ドル)



- 消費者支出合計に占める飲食料の割合は約60%を占め、今後10年の間に大きな変化は見られないと予測
- 2020-30における消費量は年平均で8.7%成長する見込み

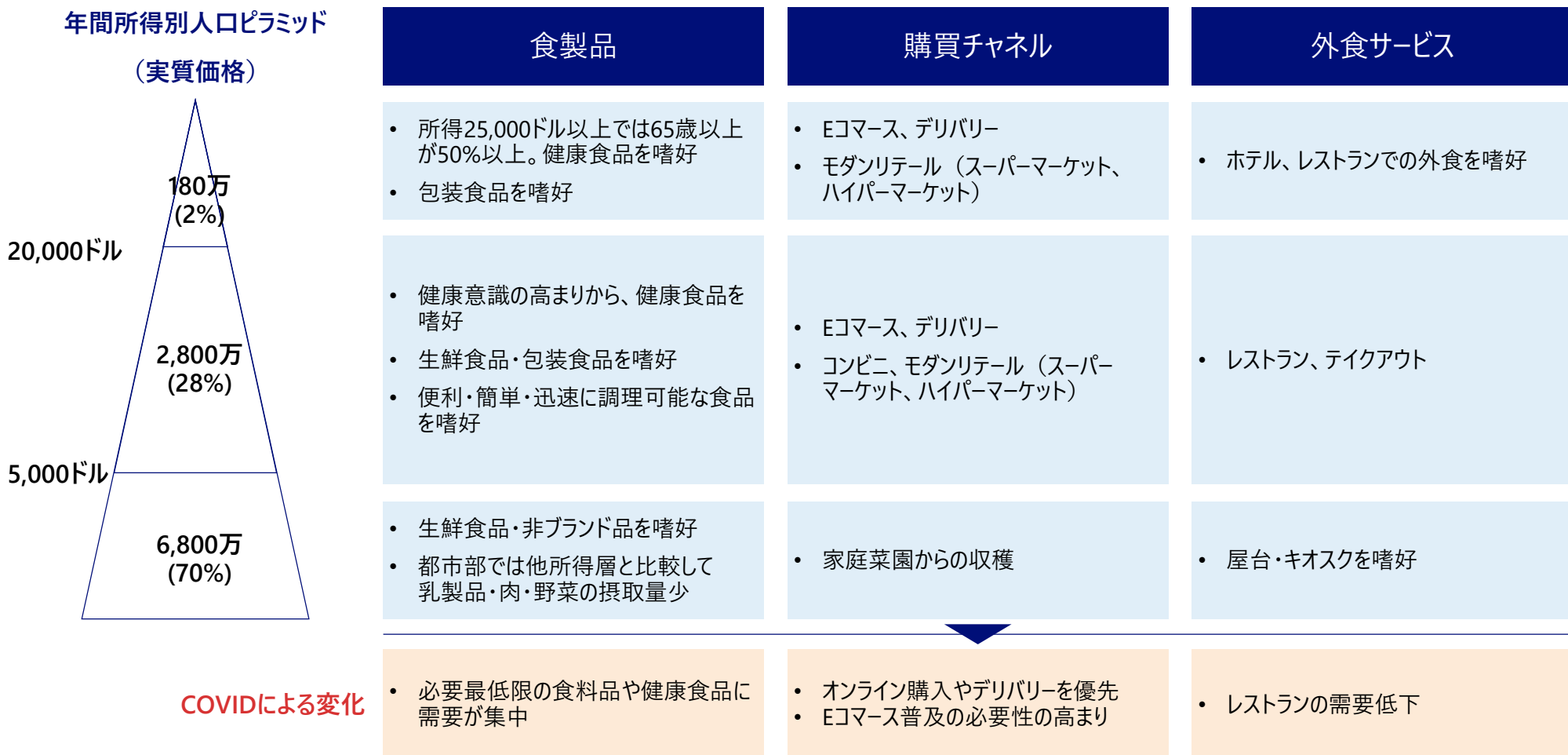
(2020年は予測)

Source: Euromonitor、ニュース記事

主要な消費者トレンド (赤色はCOVIDによる影響)

背景	- 人口はアフリカ最大（約2億人、2019年）で、増加傾向が継続（人口増加率約2.5%） - インターネット利用者人口の増加。インターネットユーザーは約1億1,000万人（2019年）、過去20年間で55%上昇
健康志向の高まり	最も裕福と想定される65歳以上の年齢層の人々が健康・医療関連の商品需要を喚起
サードパーティ宅配プラットフォーム	- オンラインでの宅配プラットフォーム利用の広まり - WAeYなどデジタルを利用したデリバリーサービスの開始
個人経営の小売店の根強い人気	- 低価格かつ伝統的なナイジェリア料理が好まれるため整備された小売店よりも個人店への人気が根強い傾向 - 食品を販売するキオスクや非公式小売点は消費者に食料品を行きわたらせる拠点として営業継続 - 仕入れにTradeDepotなどオンライン取引を利用
モダンな外食レストランの人気の高まり	- 若者層を中心に時間節約のために外食する層が増加し、そのため低価格レストランの人気の高まり - レストランは営業停止。その後オンラインを使用したデリバリーでの販売に移行

所得別の消費者行動



コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

3. ナイジェリア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

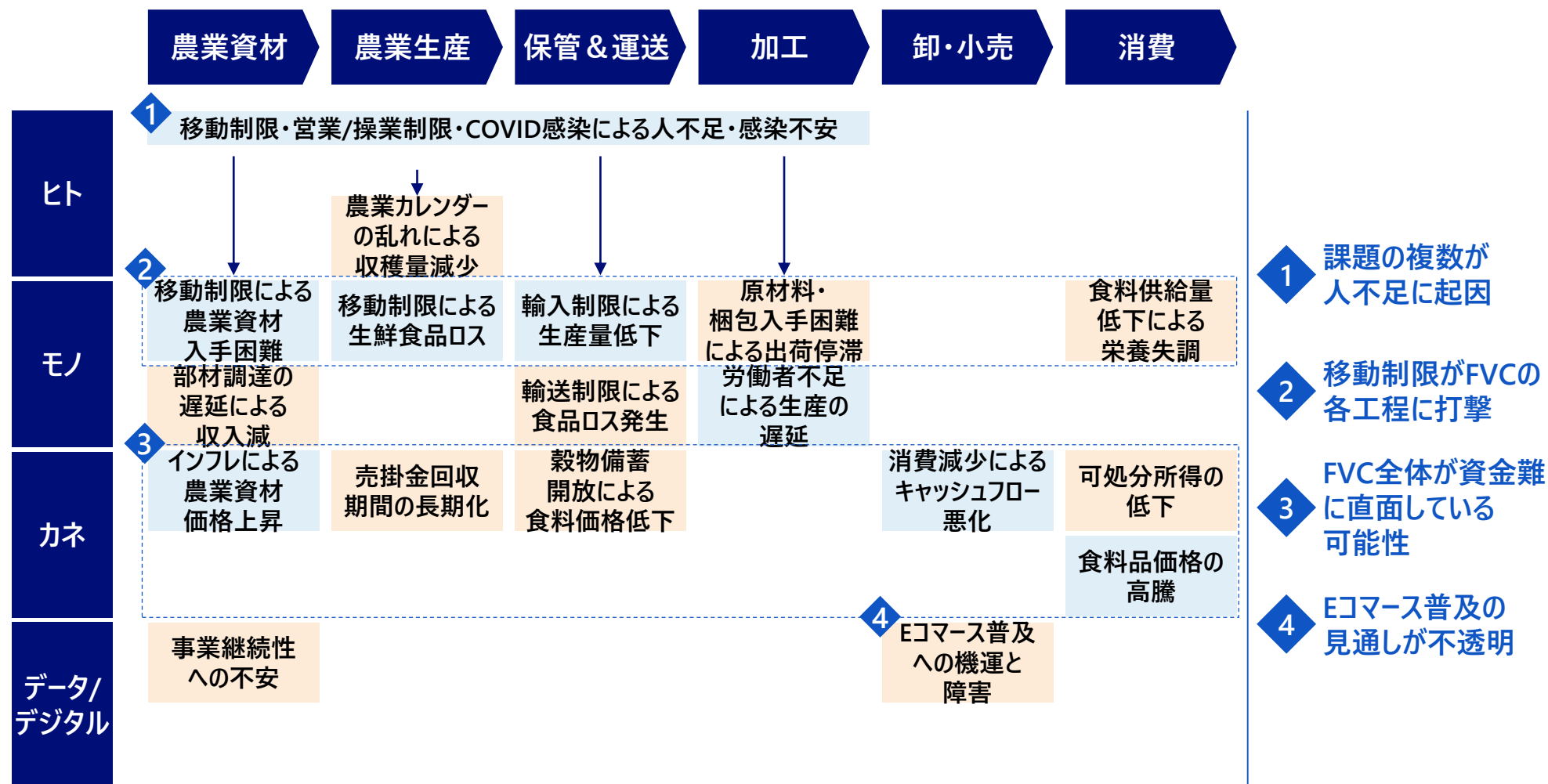
2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

ナイジェリア コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題

FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題は下記の通り

FVC上の課題 顕在課題 潜在課題*



*潜在課題：発生している可能性・発生する可能性がある課題

COVID-19 により顕在化したFVC の課題

農業資材の輸入価格が増加、移動制限も相まって農家の農業資材が入手困難

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

農業資材供給



③

インフレによる農業資材
価格上昇

- ・ 予想されるインフレと通貨切り下げ（石油価格の下落に関連）による経済の不確実性に対する懸念から、輸入農業機器や原材料の輸入価格が24%増加

農業資材供給



②

移動制限による
農業資材入手困難

- ・ ナサラワ州などではロックダウンで事業所が閉鎖し農薬、種子、肥料など農業資材の入手が困難
- ・ ナイジェリア畜産学研究所（NIAS）によると、輸送制限により動物飼料が農家に届く時期が遅延

事業継続性



④

事業継続性への不安

- ・ 農業生産を含む必要不可欠なサービスを移動制限の対象から除外している一方、農業資材業や食品加工業が含まれるかどうかは曖昧な状態でこれら産業の事業運営が可能か不透明

農家の運転資金



②

部材調達の遅延による
収入減

- ・ 農業資材のコスト増やアクセス困難により、生産に必要な分の農業資材を購入できない農家は収入が減少する可能性

COVID-19 により顕在化したFVC の課題

労働力不足、農業カレンダーの乱れで収穫量が減少する可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

労働力



①

移動制限による
労働力不足

- COVID-19による州間移動制限により、今年度の農業シーズンの農作業員が不足の可能性

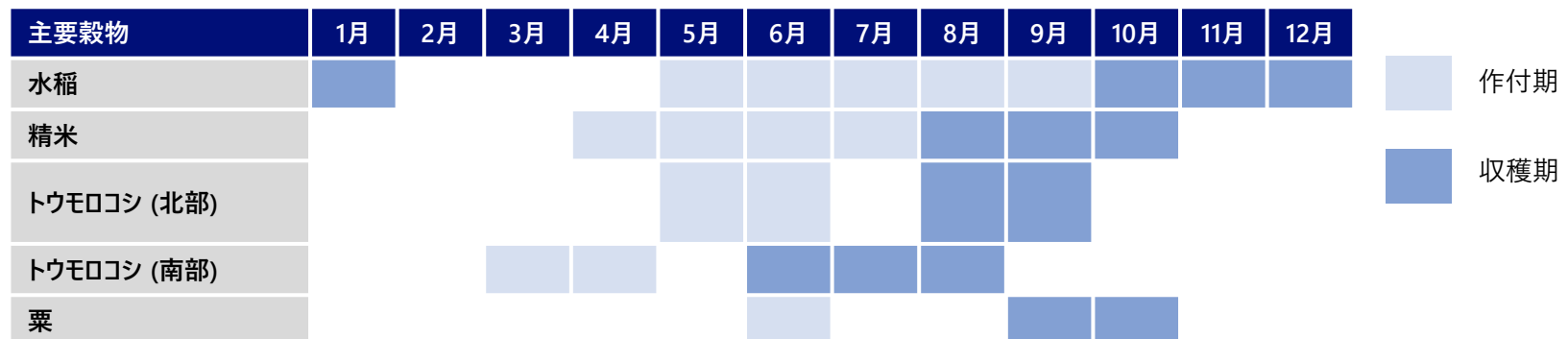
収穫



① ②

農業カレンダーの乱れに
よる収穫量減少

- 農業カレンダーの乱れ（播種・収穫期の喪失）により、2020年第3～4四半期の農作物の供給量が減少する可能性





COVID-19 により顕在化したFVC の課題

州間移動制限により販売が制限され、売れ残りが発生。農家の財政状況も悪化する可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

食品ロス



②

移動制限による
生鮮食品ロス

- 州間移動制限、夜間移動制限で卵や雛、家禽肉を運ぶ車両の移動が制限され市場への農産物供給が停滞
- その結果、カドゥナ州では外出が制限された影響で家禽農家で卵の売れ残りが発生しロスが増加

農家の財政状況



③

売掛金回収期間の
長期化

- 農家の約80%はキャッシュフローのバッファーに余裕を持たない中小農家であり、売掛金回収期間の延長が運転資本に悪影響を及ぼす可能性



COVID-19 により顕在化したFVC の課題

輸入制限により農業生産が減少。また各地で食品ロスが発生している可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

航空輸送



②

輸入制限による
生産量低下

- 空港制限や貿易の制限により農業資材が入手困難・利用困難となり、生産量が低下

陸上輸送



②

輸送制限による
食品ロス発生

- 夜間外出禁止令を含む国内外の移動制限や輸送制限により、食品の輸送に遅延が発生し、食品ロスが増加する可能性
- 移動制限により飼料が届かず家畜が死亡する可能性

食料貯蓄



②

穀物備蓄開放による
食料価格低下

- 食料不足を抑えるための政府による穀物備蓄の開放により、食料価格や農業関連企業の収益性が低下する可能性

船舶輸送



①

港湾での検査など
COVIDオペレーションに
よる輸送の遅延

- (次回調査)

COVID-19 により顕在化したFVC の課題

労働力不足により生産・出荷の遅延や停止が発生

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

労働力



① ②

労働者不足による
生産の遅延

- 食品加工はロックダウンによる閉鎖を免除されたものの、輸送制限と検疫措置の影響で従業員が出社できない工場では加工・出荷の遅延や停止が発生

原材料供給



②

原材料・梱包材
入手困難による
加工・出荷停滞

- 移動制限に伴うサプライチェーンの混乱により原材料・包装材料・化学品・スペアパーツの調達に遅延が発生し、加工・出荷が停滞する可能性

COVID-19 により顕在化したFVC の課題

リアル店舗の収益性悪化に伴いEコマースへの期待が高まるが、普及に時間を要する可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類 ① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

収益性



③

消費減少による
キャッシュフロー悪化

- COVID-19の終息が見えず不確実性が続く間、消費者は現金を節約し必需品以外への支出が減少。また金融機関の利用制限などもあり、零細/中小企業のキャッシュフローが悪化

販売チャネル



②④

Eコマース普及への機運と
障害

- ロックダウンやソーシャルディスタンスの影響で、消費者の購買チャネルはオンラインへ移行。リアル店舗の収益性が悪化する可能性
- Eコマースの需要が増加する一方、移動制限により労働力が不十分。またナイジェリアは物流インフラが貧弱（世界銀行による2018年度のLPI（物流パフォーマンス指標）で世界160か国中110位）で、物流産業の発展に障害

COVID-19 により顕在化したFVC の課題

価格高騰が発生。また供給量の減少も相まって食料へのアクセスが制限されている可能性

トピック

課題

内容

顕在課題

潜在課題

課題分類

① ヒト

② モノ

③ カネ

④ データ

世帯収入



③

可処分所得の低下

- ・ ナイジェリア人は世帯年収の57%を食料品に消費しており（ナイジェリア国家統計局（NBS）・2019）COVID-19による食品価格の高騰は消費者の可処分所得をより圧迫する可能性

食料品価格



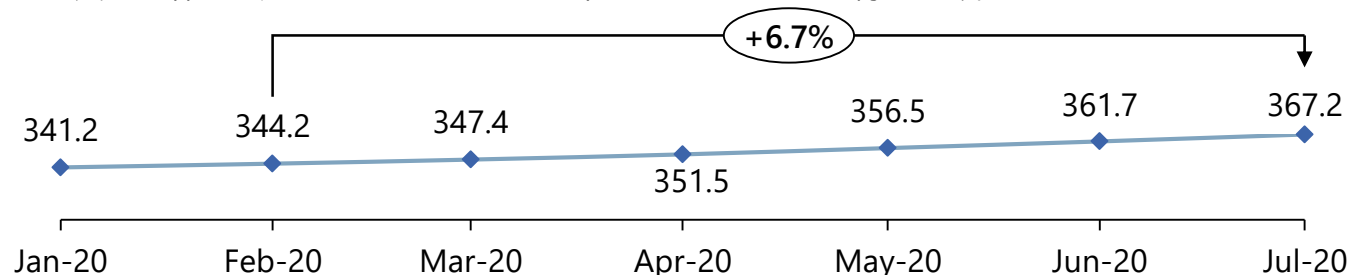
③

食料品価格の高騰

- ・ ロックダウンの影響により消費者のパニック購買が発生。主要農産物の価格が高騰しており、例えばコメ、山芋、キャッサバなど主食の価格が2020年3月～4月にかけて8～12%上昇

食品・ノンアルコール飲料の消費者物価指数（CPI）（2020年1～6月）

- ・ 食品全体では、CPIがCOVID前の2020年2月から7月にかけて約7%上昇



食料供給



②

食料供給量低下による
栄養失調

- ・ 農家の生産量低下により収穫期に農作物が十分収穫できず、食料不足や飢餓に陥る危険性
- ・ 農作物の販売店が営業停止することで、消費者への農作物が行き届かなくなり、食料不足や栄養失調につながる可能性
- ・ 食料品の輸入量の減少や政府の戦略的食料備蓄によって食料アクセスが悪化する可能性

コンテンツ & サマリ

1. 南アフリカ

2. ケニア

3. ナイジェリア

1. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

2. COVID-19 により顕在化したFVC の課題

3. 現地FVC 再構築に向けた最新動向

ナイジェリア コンテンツ&サマリ - COVID-19 により顕在化したFVC の課題 & 現地FVC再構築に向けた最新動向

課題への対応事例は下記の通り

課題対応の方向性

課題整理フレームワーク

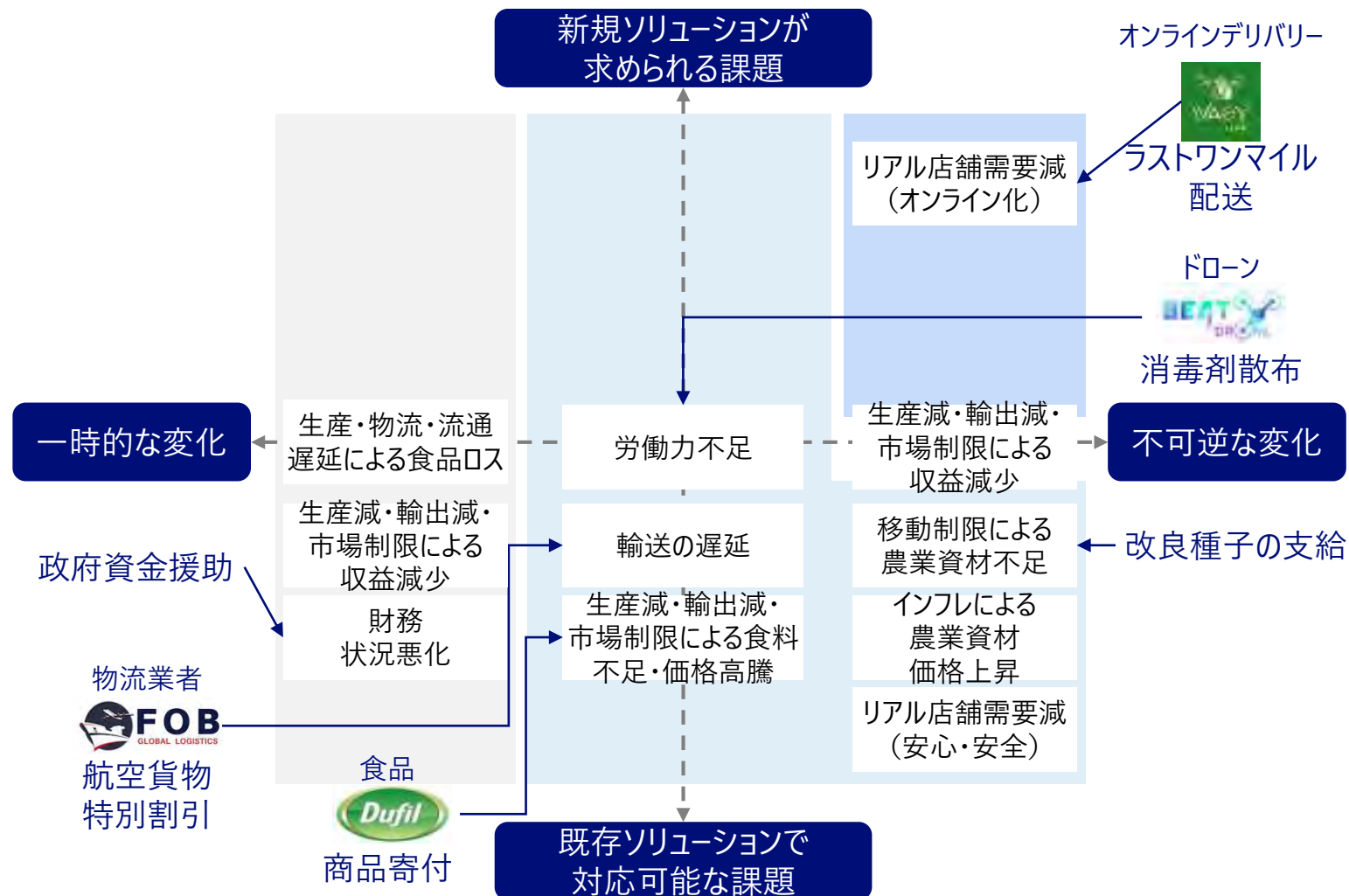
①2軸で整理

横：課題による変化の時間軸－
一時的か不可逆か

縦：ソリューション軸方向性軸－
解決に求められるソリューションは
既存か新規か

②課題対応の方向性で整理

止血	オペレーションの再開・サプライチェーンの再構築
レジリエンス (耐性)	将来のパンデミックを見越した備え
肉体改造	価値観・ビジネスモデルの変化への対応





現地FVC 再構築に向けた最新動向

多くの活動に関して、政府は既に制限を緩和済

		COVID-19による制限	2020年10月現在の状況
個人	国内移動	3月、すべての国内線旅客便が運休 3月、アブジャ首都圏、ラゴス州、オグン州でロックダウン 5月、各州間の移動制限発令 5月、国内全土で夜間外出禁止 (午後8時—午前6時)	7月よりアブジャ-ラゴス間の運行を再開 5月に3地域でのロックダウン解除 7月より州間移動を許可 (夜間外出禁止時間除く) 9月より夜間外出禁止時間が午前0時-午前4時に短縮
	国際移動	3月、国内全空港の国際線が運休	9月よりアブジャ及びラゴスの2都市での発着にて運航が再開
	その他	3月、結婚式、ナイトクラブ、お祭りなど30人以上が集まる集会を禁止 5月、公共の場でのマスク着用義務化	8月より礼拝所や社交クラブを許容人数の50%以下を条件に再開。ナイトクラブは継続して禁止
ビジネス	農業	3月、食品・農業活動は必須サービスに認定	-
	ロジスティクス	5月、州間移動、夜間外出禁止時間帯の輸送禁止 3月、輸送・物流サービス事業を必須製品に限定	7月、州間移動を許可 (夜間外出禁止時間は高速道路の利用不可) 9月より夜間外出禁止時間帯を午前0-4時にして継続実施
	製造業	3月、食料品、医薬品等必需品の製造業は営業許可	-
	小売・レストラン	3月、食料品、医薬品等必需品の販売店は営業許可 3月、レストランは営業停止	5月より非食品を扱う小売店も時間短縮で営業再開 8月よりレストランは許容人数50%以下、安全許可を取得することを条件に営業再開



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

農家向けには資金援助のほか種子提供による農業活動支援を実施

対象	政策	政策概要	インパクト
農家	ローン返済猶予延長	2020年3月1日より、ナイジェリア中央銀行の提供する介入ローン(※1)の元本返済に1年の猶予を付与 - 産業銀行、農業銀行、ナイジェリア輸出入銀行を通してTradermoni、Marketmoni、Farmermoniなどの政府系ローンの返済猶予を3か月延長	農家の資金不安を軽減
	改良種子の支給	13州の小規模農家にモロコシ、トウジンビエ、ササゲ、コメの改良種子を支給 - COVID-19で打撃を受けた小規模農家の生計とその農業活動を支えることと、将来の食料不足の防止が目的	COVIDによる農業資材（種子）の流通量低下を軽減することで農業活動を支援

Note : (※) ICRISAT - International Crops Research Institute for the Semi-Arid Tropics。農村開発のための農業研究を行う国際組織

Source: Euromonitor, News Reports

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 政府

FVC全体に対しては金融支援、雇用創出に注力



対象	政策	政策概要	インパクト
FVC全体	中小企業・世帯向けに500億ナイラ (1.3億ドル)の融資枠提供	- CBNは中小企業開発基金 (MSMEDF) を通して、COVID-19で影響を受けた世帯および中小企業向けに総計1.3億ドルの融資枠を提供 - 世帯の場合最大約7,800ドル、中小企業の場合最大約6万5,000ドルを融資 - 中小企業は過去3年間の年間売上高平均の25%を上限に運転資金を確保することが可能 - 金利は2021年2月28日までは5.0%、2021年3月1日以降は9.0%	世帯の消費の促進、中小企業の運転資金の増加
	金利引き下げ	2020年3月1日より、CBNの介入ローンの金利を9%から5%に引き下げ - 流動性回復に向けナイジェリア中央銀行は政策金利を13.5%から12.5%に引き下げ	需要の損失の軽減、高額購入の機会提供
	雇用創出	- 農業、製造業などにおける雇用機会の創出とインフラ整備のため、経済刺激策として同分野に約59億ドルを投入 - 隔週で2~10haの新たな農地耕作、道路建設、年間最大30万戸の住宅建設を実施予定 - COVID-19による経済縮小規模を-0.59%に抑えるねらい	雇用維持とインフラ建設、投資家への投資機会の提供
	Agriculture for Foods, Jobs Plan (AFJP)の開始 (2020年7月)	- AFJPはCOVID-19の影響を押さえ、競争力のあるFVC (生産、加工、流通) 作ることを目的に立ち上げられたスキーム。今後1年の計画は下記 - 農業分野における500~1,000万人の雇用創出 1州あたり約1,000万トンの食料生産と2~10万haの土地の耕作 - 農家に対するゼロ金利での融資と更地や整地支援	雇用創出や農業支援を通じて農業生産・流通回復を迅速化

Note : (※1): 介入ローンとは、MSME、農業信用およびその他のストレスセクター向けのCNBによる特別基金

Source: FAO, IMF, ニュース記事よりNRI作成

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

Beat Droneは肥料散布に使用するドローンの技術を、ウイルス拡散を防ぐための消毒剤散布に応用

ドローンを用いた消毒剤散布

農業資材

農業生産

保管&運送

加工

卸・小売

消費

- Beat Drone（ビートドローン）はドローンを用いて農地調査や肥料散布を行うナイジェリア発のスタートアップ企業
- COVID-19対応のため同社はオンド州政府と協力し、ドローンを利用した近隣地域への消毒剤散布を開始
- 政府は、国内36州全ての消毒を行うため、120万ドルを投じて同社のドローン工場設立を支援。3,000超のドローンを製造する予定
- 同社はCOVID-19の沈静化後、ドローンを利用して年間30万人以上が死亡するマラリアの原因となる蚊の駆除剤を撒いたり、農地における作物の収穫量増加、農家のコストの削減を行う意向



ドローンを用いた農地調査・肥料散布



オンド州政府へ近隣地域の消毒に使用するドローンを提供

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

ECマースの利用拡大を受け、WAeY Technologiesはバイクによるオンラインデリバリーサービスを開始

バイクによるラストワンマイル配送

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

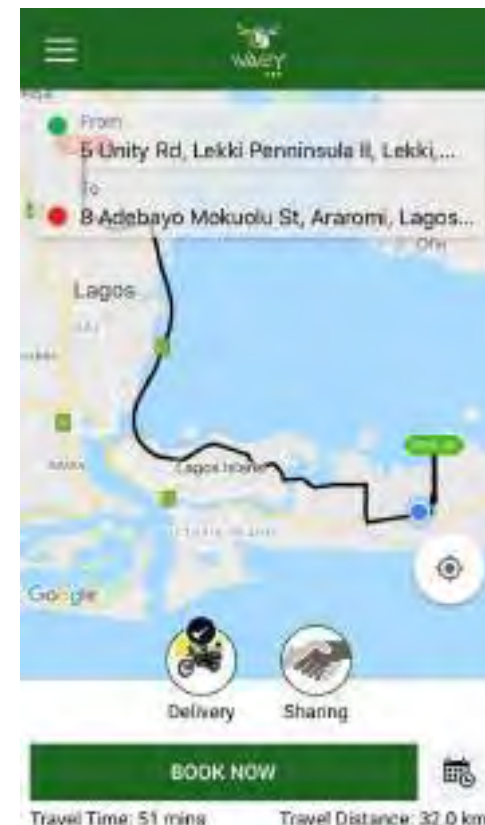
卸・小売

消費

- WAeY Technologiesは7月、バイクでのデリバリーサービスWAeYを開始
- 専用のアプリで依頼者と近隣にいる最適なデリバリースタッフをマッチング、指定場所で荷物をピックアップし、アプリの指示に従い配送先へ荷物を配達
- COVID-19の影響でECマース利用者が増加する中、ラストワンマイルをつなぐ物流サービス、および商用二輪車乗り入れ禁止措置の影響で失職したバイクドライバーの雇用の受け皿として世間から期待
- ラゴス州でのサービスを中心に展開しているが、将来的にはナイジェリア全土に拡大予定
- 特徴は「シェアリングデリバリー」ができること。配送ボックス内に空きスペースのあるデリバリースタッフが、別の依頼主の近隣を通過する際に荷物をピックアップし、他の荷物の配達先と組み合わせて配達することが可能



ラストワンマイル物流



WAeY（アプリ画面）

FOB Global Logistics Limited は航空貨物の特別割引で輸出を促進

輸出機会拡大に向けた特別割引航空貨物サービス導入

農業資材

農業生産

保管&運送

加工

卸・小売

消費

- 物流業者のFree on Board (FOB) Global Logistics Limitedは、ナイジェリア輸出促進評議会 (NEPC) と提携しラゴスからロンドンへの特別割引航空貨物サービスを導入
- 食品、繊維、化粧品などのナイジェリア製製品をヨーロッパへ輸出する機会を創出
- 非輸出業者に対しても、当サービスの開始をきっかけに輸出を促進。企業の外貨獲得機会を創出するねらい
- 2020年6月7日より、毎日航空貨物の運搬を実施



ナイジェリア輸出促進評議会 (NEPC) CEOの
Segun Awolowo氏

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

GBfoodsはトマト加工工場を建設し、雇用機会の創出や生産効率化に貢献

トマト加工工場建設

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

卸・小売

消費

- 食品製造大手のGBfoodsはナイジェリア中央銀行、ケツビ州政府、ヤウリー首長国と連携しケツビ州に約5,300万ドルでトマト加工工場を建設
- 同工場を通して、技術提供、生産効率化、機械化、労働機会創出へ貢献
 - 技術提供：イタリアとスペインで40年続くトマト事業のベストプラクティスやノウハウから技術を移転
 - 生産効率化：ナイジェリア最大のトマト農場を所有。乾季にはトマト、雨季には大豆を生産
 - 機械化：農場・工場には点滴灌漑、施肥インフラ、温室、種まきロボット、インキュベーションチャンバーの他、多数の農業機械を装備
 - 労働機会創出：農場500名、工場150名、工場建設に150名の雇用を生み出した他、小規模農家をアウトグロウワーとして提携し16の井戸を提供・維持することでホストコミュニティを形成
- 同社は引き続きナイジェリア中央銀行や政府と協力し、国内の食料供給に貢献する予定



トマト加工工場での雇用創出



機械化への貢献



現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 企業

Dufil Prima Foodsは、インドミヌードルなどの食品を消費者に寄付

人気食品の寄付

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

卸・小売

消費

- インスタントヌードル「インドミヌードル」で有名なDufil Prima Foodsは、州政府を通じてインドミヌードル等の食品を消費者に寄付
- オグン州ではインドミヌードルを1万カートン、リバース州ではインドミヌードル1,00カートンとパスタ500カートンを寄付



インドミヌードル

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)はタンパク質源の供給増加に向け大豆生産に関するトレーニングを実施

大豆の生産力増加に向けたトレーニングプログラム

農業資材

農業生産

保管 & 運送

加工

卸・小売

消費

- 米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)はナイジェリア政府や民間の農業訓練機関と連携し、栄養失調への対策としてタンパク質源を増やす取り組みを開始
- タンパク質の元になる大豆等の生産が増えない原因を知識やスキルの欠如によるものとし、トレーニングを通じた生産力向上を目指す
- 大豆収穫量を増やすため若者など500人に生産知識・スキルを訓練するカリキュラムを開始
- 農業従事者への生産スキル獲得機会の創出や、タンパク質摂取量増加の基盤創出が可能



米国大豆輸出評議会(USSOY)や国際熱帯農業研究所(IITA)

現地FVC 再構築に向けた最新動向 | 第3国/国際機関

世界銀行は、貧困家庭の生活支援や食糧安全保障に取り組むための政府プロジェクトを支援

政府プロジェクトへの資金援助

農業資材

農業生産

保管＆運送

加工

卸・小売

消費



- 世界銀行は貧困家庭の生活支援と食糧安全保障のため、政府に7億5,000万ドルを支援する
“Program-for-Results Financing”を実施
- 低所得者層や中小企業のサポート、FVC関連のインフラ整備などを行う国内プロジェクトに対する資金援助が目的



Program-for-Results Financing 遂行のイメージ

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right, arching over the text. The bottom swoosh is a solid blue bar, also arching under the text.

Share the Next Values!